

講義要綱

平成 28 年度

経営学部

イベントプロデュース学科

東京富士大学



SYLLABUS 2016

講 義 要 綱

SYLLABUS

平成28年度

経営学部イベントプロデュース学科

東京富士大学

－ シラバスの利用について －

このシラバスは、平成28年度の春学期・秋学期に経営学部イベントプロデュース学科で開講する全授業についてその概要を示してあります。学生の皆さんが1年間の学習計画を立てるための手助けとなるはずです。

シラバスには、授業内容とその達成目標、授業で使用するテキストや参考書、さらに成績評価法、履修条件、授業計画などを記してあります。

履修の際には必ず、「学生要覧」と「授業時間割表」とあわせて参照するようにしてください。また、授業期間中は、「授業計画」のどの部分を学習しているのかを常に確認して、復習および予習の参考にしてください。

※シラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba* すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」または「標題紙」という意味の言葉が語源です。

目次

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
基礎演習Ⅰ	1	2	半期		1
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1	2	半期		3
基礎演習Ⅰ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	5
基礎演習Ⅱ	1	2	半期		7
基礎演習Ⅰ（留学生対象）	1	2	半期		9
基礎演習Ⅱ	2～4	2	半期	黒田 秀雄	11
総合英語Ⅰ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	13 15～20 21 23
総合英語Ⅰ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	25
総合英語Ⅱ	2	2	半期	阿部 牧子 木村 直樹 高畑 一路 渡邊きみ代	27 29～34 35 37
総合英語Ⅱ	3～4	2	半期	渡邊きみ代	39
英会話Ⅰ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	41 43 45 47
英会話Ⅰ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	49 51
英会話Ⅰ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
英会話Ⅱ	1	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹 J. Johnson 渡邊きみ代	53 55 57 59
英会話Ⅱ	2～4	1	半期	阿部 牧子 木村 直樹	61 63
英会話Ⅱ（留学生対象）	2～4	1	半期	休講	—
キャリアデザイン	1～4	2	半期	志塚 昌紀 高橋 哲也	65 67
日本語Ⅰ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸井 優 奥山 貴之 塩谷由美子	69 71 73

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
日本語Ⅱ（留学生科目）	1～4	2	半期	糸井 優	75
				奥山 貴之	77
				塩谷由美子	79
日本語Ⅲ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸井 優	81
				奥山 貴之	83
英語Ⅰ	1～4	1	半期	阿部 牧子	85
英語Ⅱ	1～4	1	半期	阿部 牧子	87
英語Ⅲ	2～4	1	半期	阿部 牧子	89
英語Ⅳ	2～4	1	半期	阿部 牧子	91
TOEICⅠ	1～4	2	半期	宍戸カール	93
TOEICⅡ	1～4	2	半期	宍戸カール	95
フランス語Ⅰ	1～4	1	半期	野口 恵子	97
				三富 祐子	99
フランス語Ⅱ	1～4	1	半期	野口 恵子	101
				三富 祐子	103
中国語Ⅰ	1～4	1	半期	井上 良雄	105
中国語Ⅱ	1～4	1	半期	井上 良雄	107
韓国語Ⅰ	1～4	1	半期	黄 美貞	109
韓国語Ⅱ	1～4	1	半期	黄 美貞	111
日本語Ⅳ（留学生科目）	2～4	2	半期	糸井 優	113
				奥山 貴之	115
社会学Ⅰ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	117
社会学Ⅱ	1～4	2	半期	新嶋 良恵	119
法学Ⅰ（憲法含む）	1～4	2	半期	長岐 郁也	121
法学Ⅱ	1～4	2	半期	長岐 郁也	123
心理学	1～4	2	半期	佐藤 恵美	125
				深澤 伸幸	127
				松田美登子	129
哲学	1～4	2	半期	隅田 浩司	131
現代思想	1～4	2	半期	休講	—
文化人類学	1～4	2	半期	新嶋 良恵	133
文学	1～4	2	半期	網本 尚子	135～144
文章表現法	1～4	2	半期	網本 尚子	145～152
芸術論	1～4	2	半期	鈴木 みか	153
生命科学	1～4	2	半期	古田 玲子	155
国際関係論	1～4	2	半期	八川 敏昭	157

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《教養科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
異文化コミュニケーション	1～4	2	半期	清水 俊樹 藤本 学	159
経営数学	1～4	2	半期	松本 勇樹	161
マネジメント入門	1～4	2	半期	名取 修一	163
コンピュータリテラシー	1～4	2	半期	萩野 弘道	165
ビジネスコンピューティング	1～4	2	半期	鬼木 一直	167
就職特講Ⅰ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	169
就職特講Ⅱ	3～4	2	半期	廣瀬 誠人	171
健康と運動Ⅰ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美 西村 卓二	173 175 177
健康と運動Ⅱ	1～4	1	半期	井上 航人 田島外志美 西村 卓二	179 181 183
健康と運動Ⅲ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	185 187
健康と運動Ⅳ	2～4	1	半期	井上 航人 田島外志美	189 191
日本事情（留学生科目）	1～4	2	半期	糸井 優 奥山 貴之	193 195
インターンシップⅠ	1～4	1	認定	高橋 哲也	197
インターンシップⅡ	1～4	1	認定	高橋 哲也	199
インターンシップⅢ	2～4	1	認定	高橋 哲也	201
インターンシップⅣ	2～4	1	認定	高橋 哲也	203
自己開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1～4	各1	認定		205

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
経営学概論	1～4	4	通年	名取 修一	207
イベント学概論	1～4	4	通年	須川 一幸	209
サービス産業概論	1～4	4	通年	日野 隆生	211
企業論Ⅰ	1～4	2	半期	円城寺敬浩	213
				渡辺 泰宏	215
企業論Ⅱ	1～4	2	半期	円城寺敬浩	217
				渡辺 泰宏	219
経営管理論	2～4	2	半期	円城寺敬浩	221～224
				渡辺 泰宏	225
経営組織論Ⅰ	2～4	2	半期	山口 善昭	227
経営組織論Ⅱ	2～4	2	半期	山口 善昭	229
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	小川 達也	231
				黒田 秀雄	233
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	小川 達也	235
				黒田 秀雄	237
経済学概論Ⅰ	2～4	2	半期	清水 良樹	239
経済学概論Ⅱ	2～4	2	半期	清水 良樹	241
マーケティング概論Ⅰ	1～4	2	半期	花尾由香里	243
				日野 隆生	245
				広瀬 盛一	247
				山川 悟	249
マーケティング概論Ⅱ	1～4	2	半期	花尾由香里	251
				日野 隆生	253
				広瀬 盛一	255
				山川 悟	257
広告論Ⅰ	2～4	2	半期	中尾 孝年	259
				広瀬 盛一	261
広告論Ⅱ	2～4	2	半期	広瀬 盛一	263
イベント戦略論Ⅰ	2～4	2	半期	須川 一幸	265
イベント戦略論Ⅱ	2～4	2	半期	須川 一幸	267
イベントプロデュース論Ⅰ	1～4	2	半期	岡星 竜美	269
イベントプロデュース論Ⅱ	1～4	2	半期	岡星 竜美	271
イベント企画	1～4	2	半期	岡星 竜美	273
イベント演出	1～4	2	半期	大山 利栄	275
イベント実施・運営論	2～4	2	半期	岡星 竜美	277
イベント心理学	2～4	2	半期	深澤 伸幸	279
イベントキャリア基礎	1～4	2	半期	大山 利栄	281

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
イベント法務	1～4	2	半期	井上 公雄	283
入門簿記Ⅰ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	285 287 289 291
入門簿記Ⅱ	1～4	2	半期	北井不二男 土井 充 福山 倫基 光澤 美芽	293 295 297 299
専門演習Ⅰ	2～4	4	通年	大山 利栄 岡星 竜美 志塚 昌紀 須川 一幸 日野 隆生	301 303 305 307 309
専門演習Ⅱ	3～4	4	通年	大山 利栄 岡星 竜美 志塚 昌紀 須川 一幸 日野 隆生	311 313 315 317 319
専門演習Ⅲ	4	4	通年	大山 利栄 岡星 竜美 志塚 昌紀 須川 一幸 日野 隆生	321 323 325 327 329
専門特別演習Ⅰ	3～4	4	通年	小川 達也	331
専門特別演習Ⅱ	4	4	通年	深澤 伸幸	333
卒業論文	4	2	通年		335
流通論Ⅰ	2～4	2	半期	深澤 琢也	337
流通論Ⅱ	2～4	2	半期	深澤 琢也	339
消費者行動論Ⅰ	2～4	2	半期	中嶋 励子 花尾由香里	341 343
消費者行動論Ⅱ	2～4	2	半期	中嶋 励子 花尾由香里	345 347
経営心理学	1～4	2	半期	深澤 伸幸	349
ヒューマンエラーの心理学	2～4	2	半期	深澤 伸幸	351
コンテンツビジネス論Ⅰ	2～4	2	半期	山川 悟	353
コンテンツビジネス論Ⅱ	2～4	2	半期	石渡 正人	355

履修対象：経営学部イベントプロデュース学科

《専門科目》					
科目名	配当年次	単位	期間	担当者	掲載頁
イベントキャリア開発	1～4	2	半期	鴨 裕子	357
イベント実習Ⅰ	2～4	2	半期	大山 利栄 志塚 昌紀	359 361
イベント実習Ⅱ	2～4	2	半期	大山 利栄 志塚 昌紀	363 365
イベント実習Ⅲ	2～4	2	半期	岡星 竜美 須川 一幸	367 369
イベント実習Ⅳ	2～4	2	半期	岡星 竜美 日野 隆生	371 373
イベント管理会計	2～4	2	半期	大山 利栄	375
イベントメディア論	1～4	2	半期	日野 隆生	377
博覧会・展示会	2～4	2	半期	須川 一幸	379
観光・コンベンションイベント	2～4	2	半期	須川 一幸	381
スポーツ・エンタテインメントイベント	2～4	2	半期	岡星 竜美	383
ユニバーサルイベント	2～4	2	半期	星野 恭子	385
セールスプロモーションイベント	2～4	2	半期	清水 一郎	387
イベント特講	2～4	2	半期	大山 利栄	389
スマートコミュニティ論	2～4	2	半期	志塚 昌紀	391
レジャー・アミューズメント論	2～4	2	半期	志塚 昌紀	393
ビジネス英語Ⅰ	2～4	2	半期	宍戸カール	395
ビジネス英語Ⅱ	2～4	2	半期	宍戸カール	397
簿記技能Ⅰ（日商3級）	1～4	2	集中	福山 倫基	399
簿記技能Ⅱ（日商2級）	1～4	2	集中	福山 倫基	401
ビジネス実務法務	1～4	2	集中	平澤 明	403
販売技術	1～4	2	集中	日野 隆生	405

科目末尾の表記（Ⅰ・Ⅱ）について

Ⅰ：基本的にⅡの科目と連携しており、Ⅱの科目の基礎になります。

Ⅰ・Ⅱの科目を履修することが望ましい。

Ⅱ：基本的にⅠの科目と連携しており、Ⅰの科目の履修を前提とする（Ⅰの上級レベル）。

Ⅰの科目を履修した学生、もしくは同程度の知識を持つ学生が履修することが望ましい。

配当年次について

履修することのできる学年を表します。

1：1年生が履修できる科目です。

2：2年生が履修できる科目です。

3：3年生が履修できる科目です。

4：4年生が履修できる科目です。

1～4：1年生・2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

2～4：2年生・3年生・4年生が履修できる科目です。

3～4：3年生・4年生が履修できる科目です。

(注)「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」、「日本事情」は、留学生科目です。

教 養 科 目

平成28年度

経営学部イベントプロデュース学科

東京富士大学

基礎演習 I	
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1)教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I (留学生科目)	
Basic Seminar I	必修科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受ける上で最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活で最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくこととなります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成する上でも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業したりするための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかどうかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q能力	e-learning による実務 I Qテストの学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1) 授業では次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 2) 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習 I	<small>クロダ ヒデオ</small> 黒田 秀雄
Basic Seminar I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習 I」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。基礎演習では、大学の授業をしっかりと理解し、そして、自分から新しいことを学んでいくために必要となる基礎的な能力を身につけることを目指しています。

この授業では、大学の講義を受けるうえで最も基礎的な能力、たとえば、授業ノートの取り方や、文章の書き方について、勉強します。そして、大学の授業では、一人で勉強することに加えて、同級生や先輩などと一緒に勉強するグループ学習も重要です。しかし、最初は、あまりよく知らない人と一緒に勉強することが苦手だな、と思う人も多いと思います。そこで、演習では、グループで何か一緒に作業するやりかたを教えます。

そして、大学生活は、高校生活とは違います。大学生として最低限必要となる生活態度、マナーについても基礎演習受講を通して、身につけていくことになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ノートの取り方	ノートを取る技術は、大学の講義に役立つだけでなく、今後、社会人となって、業務日誌や、交渉メモなどを作成するうえでも重要なスキルです。このノートの取り方の技術を習得できているかどうか、課題を通じて評価します。	30%
文章の書き方	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて演習の中で評価します。	30%
コミュニケーションの基礎能力	わからないことを講師に聞いたり、仲間と一緒に作業するための最低限のコミュニケーション力も、ゼミでの授業態度を通じて評価します。仲間と協働して問題を解決することができるかについて、ゼミでの授業態度を通じて評価します。	20%
実務 I Q 能力	e-learning による実務 I Q テストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	フレッシュマン・オリエンテーションを実施します
2	大学での学び方に関する講義	1)教科書『大学での学び方』を使用して次のようなことを勉強し、課題を提出します。 ・メモを取る方法・保管方法など ・要点をまとめる方法など ・ノートを作る方法 ・授業をノートする方法 ・テキスト・教科書からノートを作る方法 ・文章のまとめ方 など 講義の進め方は、担任の教員の指示に従ってください
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	春学期の振り返り	春学期の内容をまとめ、個人の学習成果を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書『大学生・短大生のための大学での学び方』では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

基礎演習Ⅱ	
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learningによる実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1)この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2)基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3)e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ（留学生科目）	
Basic Seminar II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際に書くという作業を行います。大学では、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を身につけたか、課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learningによる実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	アカデミック・スキルのための演習と、専門演習のための準備	1) 授業では次のようなことを学び、課題を提出します。 ・ 公的な文章の書き方 ・ 自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・ 説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・ レポートの構造を学ぶ ・ 文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・ レポートを書く前の問題提起 ・ 三部構成で実際にレポートを書く 2) 12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：未定

【履修条件等】

◇1年生の外国人留学生の必修科目です。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇この授業では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1) この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2) 基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3) e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

担当者	網 本 尚 子	井 上 航 人	浮 谷 秀 一
	大 山 利 栄	木 村 直 樹	黒 田 秀 雄
	塩 谷 由美子	志 塚 昌 紀	田 島 外志美
	長 岐 郁 也	深 澤 琢 也	福 山 倫 基

基礎演習Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Basic Seminar Ⅱ	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「基礎演習Ⅱ」は、1年生全員が必ず、履修しなければならない必修授業です。そして、「基礎演習Ⅱ」も、「基礎演習Ⅰ」に続けて、大学での勉強に必要なスキル（アカデミック・スキルと呼ぶこともあります）を学びます。「基礎演習Ⅱ」では、文章の書き方をしっかり学んだ後で、いよいよ、レポートの書き方について学びます。自分で見つけたテーマについて、調べて、どのようなレポートにするかを考える、そして、そのレポートを実際にかくという作業を行います。大学生は、高等学校とは異なり、自分が興味を持ったことを、自分で調べていくという勉強が中心になります。「基礎演習Ⅱ」では、レポートの書き方について、先生の指示に従いながら、丁寧に段階を追って勉強していきますので誰でもレポートが書けるようになります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
文章作成能力	大学生は、レポートを書くことが仕事だと言われるくらい、文章を書く機会が増えていきます。ここでは簡単な文章の書き方を身につけているかどうかについて課題を通じて評価します。	30%
レポート構成・作成能力	レポートの書き方の基本について、学びます。実際にレポートを書きながら、どの程度自分で課題を設定し、論理的にレポートを組み立てる能力を課題を通じて評価します。	30%
計画立案・遂行能力	レポートの書き方の演習の中で、レポートを書くための計画を立案し、それを着実に実施できるかどうか、について、演習の中で、評価します。	20%
実務IQ能力	e-learningによる実務IQテストによる学習について、学習進度などを総合的に評価します。	20%
評価の方法	授業の評価は、上記の学習目標の比率に応じて、レポート・課題などが評価されます。さらに、授業態度、積極的な受講姿勢も評価に加味されます。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期の過ごし方、注意点などを説明します
2	教科書『大学での学び方』を使った演習と、専門演習のための準備	1)教科書『大学での学び方』を使い、次のようなことを学び、課題を提出します。 ・公的な文章の書き方 ・自分自身の文章について（適切な引用・要約の仕方） ・説得力のある文章、履歴書、手紙の書き方 ・レポートの構造を学ぶ ・文章の原理原則、主張と根拠の関係 ・レポートを書く前の問題提起 ・三部構成で実際にレポートを書く 2)12月に行われるゼミ発表大会は、全員出席し、発表を聴講して2年次以降の専門演習を選択してください。（出席をとります）
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	振り返り	1年間の学習を振り返り、個人の達成度を確認します。

【使用教材】

◇教科書：『大学生・短大生のための思考力テキスト』日本生涯学習総合研究所

【履修条件等】

◇1年生の必修科目です、1年生は必ず履修することになります。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書「大学生・短大生のための大学での学び方」では、文章の書き方や、ノートの取り方、そしてレポートの書き方などを自分が実際に書いて勉強します。そのため、事前課題として、レポートを書くために必要となる調査文献を図書館で調べてまとめるように指示されたり、レポートを書いてくるように指示されたりすることになります。

◇予習の具体的な内容は、基礎演習の担任の先生の指示に従ってください。

【その他の注意事項】

- 1)この授業は、1年生の授業の中で最も大切な授業です。病気などでやむを得ず、欠席してしまった場合、担任の教員に必ず、欠席した理由を説明してください。
- 2)基礎演習は、担任の教員とのコミュニケーションが重要です。授業中にも積極的に発言してください。また、グループ学習に積極的に参加する必要があります。グループ学習への参加が不十分だと単位の取得にも影響しますので注意してください。
- 3)e-learning による実務 I Qテストは、担当教員から特別の指示がなくても、自分で積極的に取り組んでください。実務 I Qテストの取り組み姿勢は、成績評価に反映されます。

総合英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きについて区別できる	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書けるようにする	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明、自己紹介他
2	文型	文中の主語・動詞・目的語・補語を理解する
3	文型	英語の語順を理解する。語彙テスト
4	自動詞と他動詞	動詞の種類を理解する。発音チェック
5	自動詞と他動詞	動詞の過去・現在・未来の形を覚える。語彙テスト
6	現在形と頻度	頻度の副詞と動詞の現在形
7	中間試験	試験と解説
8	名詞と代名詞	名詞の複数形や代名詞の種類を覚える
9	名詞と代名詞	不可算名詞と可算名詞
10	前置詞	場所を表す表現、時を表す前置詞
11	助動詞	一般動詞だけで表せない意味（受け身・完了・可能など）
12	助動詞	助動詞の肯定文、否定文、疑問文
13	不定詞と動名詞	不定詞・動名詞の名詞用法。語彙テスト
14	不定詞と動名詞	不定詞の形容詞用法・副詞用法
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語 I BPE-A	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	This is my first visit.	予定の尋ね方・別れ際の挨拶
3	(same as above)	過去形と現在形
4	How do you like Bangkok?	海外出張1：予定を尋ねる
5	(same as above)	続・過去形と現在形
6	I'm going well so far.	海外出張2：礼を述べる、予定を確認する
7	(same as above)	進行形・未来形
8	Have they decided …?	出張報告：経験を述べる・指示を出す
9	(same as above)	現在完了形
10	Could you take a look?	プレゼンの準備：依頼や助言の表現
11	(same as above)	助動詞
12	My flight was canceled.	電話応対
13	(same as above)	受動態
14	What do you want me to do?	使用法説明：相手の意向を尋ねる
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要となるアプリの詳細は初回授業で告知する。

総合英語 I BPE-B	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	From my heart to yours	贈り物についての英語表現を学ぶ
3	(same as above)	代名詞
4	To be or not to be	国籍とアイデンティティの違いに触れる
5	(same as above)	be 動詞
6	Too many calories?	食習慣の違いに触れる
7	(same as above)	名詞
8	Life with a roommate	西洋の寮生活について学ぶ
9	(same as above)	冠詞と限定詞
10	I'll take a vacation!	休暇についての英文を読む
11	(same as above)	一般動詞
12	How is the weather?	気候の違いについて英語で読んでみる
13	(same as above)	疑問文
14	Did you do the dishes?	家事に特有の表現を学ぶ
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I BPE-C	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	授業の概要説明、レベルチェック問題の演習など
2	1：5つの基本文型	5文型に関連する英作文・対話文
3	(同上)	5文型に関連する文章読解
4	2：動詞	動詞に関連する英作文・対話文
5	(同上)	動詞に関連する文章読解
6	3：進行形・未来形・助動詞	時制と助動詞に関連する英作文・対話文
7	(同上)	時制と助動詞に関連する文章読解
8	4：名詞・冠詞・代名詞	名詞に関連する英作文・対話文
9	(同上)	名詞に関連する文章読解
10	5：前置詞・関係詞(1)	関係詞に関連する英作文・対話文
11	(同上)	関係詞に関連する文章読解
12	6：形容詞・副詞・比較級	修飾句と比較に関連する英作文・対話文
13	(同上)	修飾句と比較に関連する文章読解
14	7：命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する英作文・対話文
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozono, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。必要なアプリなどについては初回の授業で指示する。

総合英語 I	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解できるようにしたい。使用する教科書は、語彙、文法、読解、会話のあらゆる角度から工夫されたものであり、総合的な英語力を身につけるのに適している。基本的にはこの教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する場合がある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法	授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、中間試験40%、期末試験40%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業についての概要説明
2	Unit 1	Welcome to Japan
3	Unit 1	Welcome to Japan
4	Unit 2	That Sounds Like Fun
5	Unit 2	That Sounds Like Fun
6	Unit 3	We Leave on Friday Morning
7	Unit 3	We Leave on Friday Morning
8	Midterm Exam	中間試験
9	Unit 4	You Know a Lot About Trains
10	Unit 4	You Know a Lot About Trains
11	Unit 5	I Didn't Want to Leave
12	Unit 5	I Didn't Want to Leave
13	Unit 6	You're Working Late
14	Unit 6	You're Working Late
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語 I (再履修)	<small>ワタナベ キミヨ</small> 渡邊 きみ代
Integrated English I	必修科目 / 半期 / 2単位

【授業概要】

英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の進め方、自己紹介、英語の文章の成り立ちを理解する
2	時制の表現(1)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる
3	時制の表現(2)	be の現在形に関して、主語となる名詞から適切な be 動詞を選択することができるようになる 主語となる名詞から適切な一般動詞を選択することができるようになる一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる
4	時制の表現(3)	一般動詞を用いた文章を現在進行形に書き換えることができる be 動詞、一般動詞を用いた現在形、現在進行形の疑問文を作ることができる be 動詞の過去形を用いた英作文ができるようになる
5	文型(1)	第1文型、第2文型、第3文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
6	文型(2)	第4文型、第5文型の形と働きを理解する 各文型における補語と目的語の位置を決め、文章を書くことができるようになる
7	筆記テスト・解説 【中間テスト】	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	助動詞の働き(1)	基本的な助動詞 (will, can, must, have, may) の種類と意味、働きを説明できるようになる 基本的な助動詞を用いた英作文ができるようになる
9	助動詞の働き(2)	基本的な助動詞の性質を理解し、肯定文、否定文、疑問文を表現することができるようになる
10	疑問文の表現(1) what, who, which	疑問代名詞 (what, who, which) の主格、所有格、目的格をそれぞれ説明できるようになる 疑問代名詞 who を用いた英作文ができるようになる
11	疑問文の表現(2)	疑問代名詞 what を用いた英作文ができるようになる 疑問代名詞 which を用いた英作文ができるようになる
12	疑問文の表現(3)	疑問副詞 (when, where, why) の意味と働きを説明できるようになる when を用いた英作文ができるようになる
13	疑問文の表現(4) when, where, why	where を用いた英作文ができるようになる why を用いた英作文ができるようになる
14	復習	授業で学習したことを復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

総合英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

基礎的な文法と語彙の習得を目的としたテキストを使って学習を進めていきます。英文和訳、和文英訳、部分作文などの問題を通じて文法の復習をします。リーディングは日常生活の身近な事柄や、海外の諸事情が題材となっています。辞書を使って読み進めていきましょう。語彙は2,000語から3,000語水準の単語を約900語収録しています。語彙テストは単語を含む文章の理解度をテストします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
主語や動詞などの英文の構成素の働きを理解する	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
200語程度の英文を読んで理解できる。なるべく英語で直接考えるようにする	授業中の発言、確認テスト・本試験で評価する。 テストの合格点は6割以上。	30%
各章に配されている22の単語と派生語の意味を覚え、書くことができる	語彙テストで評価する。 正確に綴りを書くことができること。	20%
音声CDで発音練習を繰り返し、正しい発音を身につける	授業中の発話から評価する。 内容が相手に伝わるように、はっきりと発音できること。	20%
評価の方法 本試験50%、語彙テスト30%、授業での発言など20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在分詞	(主語) が～しているところである
2	現在分詞	～している (名詞)
3	過去分詞	(主語) が～される
4	過去分詞	～された (名詞)
5	現在完了形	(have + 過去分詞) の表す意味
6	現在完了形	現在完了形の否定文と疑問文
7	中間試験	試験と解説
8	形容詞と比較	人やモノの性質・状態・質・量を表す
9	形容詞と比較	原級比較と比較級、最上級
10	関係代名詞	先行詞と関係代名詞
11	関係代名詞	主格・目的格・所有格
12	「それは」ではない It	天候・距離・時間などを表す仮の主語としての It
13	仮定法	現在の事実と反する仮定
14	仮定法	過去の事実と反する仮定・「まるで～のように」など
15	本試験	試験 (60分) と解説

【使用教材】

◇ ENGLISH LOCOMOTION

編著：JACET 教材開発研究会 出版社：成美堂

【履修条件等】

◇総合英語は必修科目です。教室で英語を基礎から学習する最後の機会です。

◇辞書を必ず持参すること (電子辞書可)。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇添付の音声CDを繰り返し聴いて、単語と英文を耳で慣れるようにする。

【その他の注意事項】

◇原則10回出席していなければ15週目の本試験は受験を許可しません。

総合英語Ⅱ BPE-K	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、オフィスを舞台としたストーリーをベースにして、簡単なビジネス英語やプレゼンテーションの基礎を学ぶとともに、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※本講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	春学期の復習&解説、復習問題の演習
2	What do you want me to do?	不定詞
3	She knows marketing …	オフィストーク：比較表現
4	(same as above)	関係詞・その1
5	Thank you for coming to …	ヘッドハンティング：意見を述べる
6	(same as above)	動名詞
7	The competition will be …	会議：意見を求める
8	(same as above)	形容詞、副詞
9	This is where we …	プレゼン準備2：提案する
10	(same as above)	関係詞・その2
11	I'd like to talk about …	プレゼン：順序を示す
12	(same as above)	分詞
13	You are much better …	オフィストーク：感想を述べる
14	(same as above)	比較
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Kadoyama, Teruhiko and Capper, Simon. (2016) Let's Read Aloud More!: 音読で極める基礎英語 成美堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-L	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、文法事項や単語を「読んで書き、聞いて話す」という覚えやすいやり方で、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの基本的な4技能を総合的に網羅した英語を学習します。英語での読み書きに必要な語彙力・文法力を高め、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の振り返り	春学期内容の復習解説・チェック問題
2	Did you do the dishes?	過去時制
3	I'm going to college	西洋の学生生活について理解を深める
4	(same as above)	進行形
5	Have you ever had a job?	就職活動についての違いに触れる
6	(same as above)	現在完了
7	She had been great!	表彰・評価の表現を学ぶ
8	(same as above)	過去完了
9	How is ... celebrated?	クリスマスなどのお祝いの仕方について学ぶ
10	(same as above)	受動態
11	... to take some time off?	休暇の過ごし方についての英文を読む
12	(same as above)	不定詞
13	I can drive!	運転免許や交通ルールについて理解を深める
14	(same as above)	助動詞 can / will
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Stafford, D., Mark., Tsunamori, Chizuko., and Matsui, Kozue. (2016)
English Insight – An Integrated Approach to Language Learning. Cengage Learning.

【履修条件等】

- ◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ BPE-M	キムラ ナオキ 木村 直樹
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講座では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を総合的に網羅した英語を学習します。「どうしたら英語ができるようになるのか」と悩む人は多いですが、自信を持って英語を使えるようになるには「急がば回れ (Slow & Steady)」の感覚で、まずは基本的な語彙や文法、簡単な会話表現をおさらいします。また、相手の言いたいことを適切に聞き取る際の注意の払い方や、場の状況に応じたさまざまな言い回しを解説します。

※この講座は春学期「総合英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
単語、文法、動詞の語法を習得する	授業内の小テストおよび筆記試験で評価します。	25%
正しい文法で自分の考えを英語で書いて表すことができるようになる	補足課題および発表で評価します。	25%
英語を聞き取り、書いて表すことができるようになる	授業内のリスニング、ディクテーションの内容で評価します。	25%
自分の意見を英語で表明できるようになる	授業内のペアワークやロールプレイ、ディスカッションへの参加、貢献度で評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、課題および発表30%で評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	復習& Warm Up	春学期の復習&解説、小チェックテスト
2	7：命令文・感嘆文	命令文・感嘆文に関連する文章読解
3	8：不定詞	不定詞に関連する英作文、対話文読解
4	(同上)	不定詞に関連する文章読解
5	9：動名詞と分詞	動名詞・分詞に関連する英作文、対話文読解
6	(同上)	動名詞・分詞に関連する文章読解
7	10：疑問文、It の特殊用法	疑問文に関連する英作文、対話文読解
8	(同上)	疑問文に関連する文章読解
9	11：受動態	受動態に関連する英作文、対話文読解
10	(同上)	受動態に関連する文章読解
11	12：完了形	完了形に関連する英作文、対話文読解
12	(同上)	完了形に関連する文章読解
13	13：接続詞(2)・時制の一致	接続詞に関連する英作文、対話文読解
14	(同上)	接続詞に関連する文章読解
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

- ◇ Sato, Tetsuzo., Kotegawa, Yoshiteru., Kido, Mayumi., Shimai, Yoshie.,
and Shimozone, Fumiko. (2016) Slow & Steady – 大学生の総合基礎英語 南雲堂

【履修条件等】

- ◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してこること。

【その他の注意事項】

- ◇ iPad を持参すること。

総合英語Ⅱ	タカハタ カズミチ 高畑 一路
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

「総合英語Ⅰ」に引き続き、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という4つの観点から、英語をバランスよく総合的に身につけることを目標とする。同時に、英語圏の文化、思想、習慣等を理解するようにしたい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくが、受講者のレベル、興味などにしたがって、プリント教材を追加する。なお、前学期の進度具合によって開始時の内容が前後することもあるので、受講者は「総合英語Ⅰ」のシラバスにも目を通しておくこと。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語で簡単な会話をすることができるようになること	授業中に行うペアワークによって評価。教科書の課題を利用して、会話の基本パターンを覚えること。	10%
リスニング力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる英語を正しく聞き取れるようになること。	20%
基礎文法を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題で聞かされる文法問題を解けるようになること。	30%
読解力を身につけること	授業中に行う演習課題および中間・期末試験によって評価。教科書の課題や試験問題にある英文の内容を正しく理解できるようになること。	40%
評価の方法	授業数3分の2以上の出席を前提として、授業態度および授業貢献度20%、中間試験40%、期末試験40%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
2	Unit 7	I'm Sure He'll Understand
3	Unit 8	I'll Remember That
4	Unit 8	I'll Remember That
5	Unit 9	Hiro Forgot
6	Unit 9	Hiro Forgot
7	Midterm Exam	中間試験
8	Unit10	How Have You Been ?
9	Unit10	How Have You Been ?
10	Unit11	While They're Here
11	Unit11	While They're Here
12	Unit12	How Was Tennis ?
13	Unit12	How Was Tennis ?
14	Unit13	What Do You Mean ?
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ English First Basic 著者：Robert Hickling, Misato Usukura 出版社：金星堂

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目を通し、知らない英単語・熟語があったら覚えておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業に必ず辞書を持参すること（電子辞書可）。

◇指定された教科書を初回の授業までに必ず購入すること。教科書を所有していない学生の受講は許可しない。

総合英語Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較 (as 原級 as …および not as 原級 as …) を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較 (比較級 than) を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

- ◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

- ◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

総合英語Ⅱ（再履修）	<small>ワタナベ キミヨ</small> 渡邊 きみ代
Integrated English II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は、「総合英語Ⅰ」で学習した内容を、さらに深めることを目的としている。引き続き、英語を用いて、その表現の方法について学習します。この授業では、文法と語彙を扱い、実際の表現方法である「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力を身につけることを目的に、解説を行い、問題演習を行います。その際、「授業計画」にある内容を学習することとなるが、各回の「内容」にあることを目標に行うので、学習の指針として、適宜参照すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
筆記試験	筆記テストによって評価する。	60%
授業参加度	能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価する。	40%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	不定詞	名詞の働き、形容詞、副詞の働きが説明できるようになる 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる 不定詞の副詞的用法に関して、その仕組みを理解し、英作文ができるようになる
2	動名詞	動名詞の基本的な働きを5つのタイプに分類できるようになる 動詞と結びつけた用法に関して、英作文ができるようになる
3	名詞と動名詞の働き	不定詞と動名詞の使い方の違いを理解する
4	分詞	現在分詞形容詞用法、過去分詞形容詞用法を用いた英作文ができるようになる
5	分詞	いろいろな問題で分詞についての理解を深める
6	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
7	中間テスト	ここまでの授業で学習したことを用いて、筆記形式によるテストを行います
8	受動態	受動態、能動態の形と働きを理解し、書き換え、英作文などができるようになる
9	助動詞	忠告、必要、推量、依頼を表す助動詞を理解し、それらを用いた英作文ができるようになる
10	原級比較の表現	原級比較 (as 原級 as …および not as 原級 as …) を用いた英作文ができるようになる
11	比較級比較の表現	比較級を用いた比較 (比較級 than) を用いた英作文ができるようになる
12	最上級比較の表現	最上級比較を用いた英作文ができるようになる
13	接続詞	対等な関係、主従の関係でつなぐ2種類の接続詞の働きを理解し、接続詞を用いた英作文ができるようになる
14	復習	ここまでの授業のまとめを問題演習により行います
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：English Quest Basic Mastering The Essentials of English
著者：Hiroshi Ono ほか (Pearson Longman)

【履修条件等】

- ◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇教科書に目を通し、理解度を確認しておく（とくに「総合英語 I」で扱った内容を復習しておくこと）。
◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

- ◇授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずる。

英会話 I	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペアワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文: Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座では、簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけることを目標とします。もちろん、高校までに勉強したことを使ってすぐに英会話ができるようになればそれに越したことはないのですが、実際には英語を忘れてしまっていたり、苦手意識を持っていたりする人が多いと思います。したがって、まずは比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : Welcome to Japan!	動詞の現在形を学ぶ
3	(same as above)	一般動詞と be 動詞の使い方を区別する
4	Unit 2 : That sounds fun.	代名詞の種類を復習する
5	(same as above)	代名詞の位置と語形変化を学ぶ
6	Unit 3 : We leave on Friday.	曜日、月、時間の表し方を復習する
7	(same as above)	時を表す前置詞を学ぶ
8	Unit 4 : You know a lot.	5つの文型をタイプごとに区別できるようになる
9	(same as above)	自動詞と他動詞を区別する
10	Unit 5 : I didn't want to ...	動詞の過去形を復習する
11	(same as above)	不規則活用を（少し）学び、現在形と区別する
12	Unit 6 : You're working late.	進行形を復習する
13	(same as above)	一時的動作と近い将来について表せるようになる
14	Unit 7 : I'm sure he will ...	未来形の使い方を復習する
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ 授業では iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。
ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話 I	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、英会話の基礎を学びます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class content and procedures. Warm ups.
2	Unit 1 Greetings	Personal info. Present tense statements. Pair work.
3	Greetings cont. Self Introductions	Speaking exercises. Giving and asking for information.
4	Unit 2 Occupations	Occupations. Describing types of work. Conversation and grammar exercises.
5	Unit 2 cont.	Jobs. Speaking practice. Self-study exercises.
6	Unit 3 Shopping	Asking prices. Describing items by proximity, color, type. Stating preferences.
7	Money	Learning and identifying USA currency.
8	Review Units 1 – 3	Review exercises and preparation for first Short test.
9	Short Test	Test on Units 1 – 3
10	Unit 4 Entertainment	Describing entertainment likes and dislikes.
11	Unit 4 cont.	Invitations: Extending and declining
12	Unit 5 Families	Identifying family relationships.
13	Unit 6 cont.	Talking about families.
14	Review Units 4 & 5	Review points, vocabulary and grammar.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
 Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
 Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話 I	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することからはじめ、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Introduction	授業の進め方、評価についての説明
2	あいさつ	be 動詞と一般動詞
3		いろいろなパターンのあいさつ
4	自己紹介	疑問文と否定文
5		自分を知ってもらう
6	感想を言う	現在形と過去形
7		人、物事についての意見を述べる
8	会話テスト	
9	注文する	可算名詞と不可算名詞
10		レストランでの会話
11	お願いをする	代名詞
12		いろいろなパターンの依頼
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話 I (再履修)	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation I	必修科目 / 半期 / 1 単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペアワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明・自己紹介など
2	飛行機で乗務員に意思表示する	Mike is on a plane to the U. K.
3	疑問文：Could/May/Wh-	
4	入国審査	Hideo and Naoki answer questions at Immigration.
5	入国審査	疑問文：Wh-and How
6	家族について話す	Eri and Lauren talk about their families.
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	許可を得る・提供する	Miki asks Helen about what she can use in her flat.
10	レストランで食べる	Hideo and Naoki eat out.
11	レストランで食べる	疑問文：Would you like …? Could/may …
12	道を尋ねる	Miki is lost in London and asks for directions.
13	道を尋ねる	命令形・場所を示す前置詞
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, OXFORD

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話 I (再履修)	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation I	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

皆さんの中には、街中で外国人に英語で道を尋ねられて、右往左往した経験がある人もいると思います。今後、日本を訪れる外国人の数は、留学や観光などの目的でますます増加し、オリンピックの開催とともにピークを迎えることでしょう。この講座では、そのような状況を考慮して、日常生活で外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。たとえば道を尋ねられた際に、「主体」をどこに置くかによって、異なる会話パターンが生じることを知らない人もいるかもしれません。この講座では、そのような状況下での会話の「バリエーション」に焦点を当てます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	講義内容や評価方法の説明、レベルチェック
2	Unit 1 : “For here, or to go?”	飲食店での注文対応を学ぶ
3	(same as above)	文化: 「おにぎり」について英語で説明してみる
4	Unit 2 : “How many are …?”	レストランでの来客対応の仕方を学ぶ
5	(same as above)	文化: 「ラーメン」について英語で説明してみる
6	Unit 3 : “I’ll be right back. ”	レストランでの接客の仕方を学ぶ
7	(same as above)	文化: 「お箸」について英語で説明してみる
8	Unit 4 : “Would you like …?”	コンビニやスーパーでの接客サービス
9	(same as above)	文化: 「おでん」について英語で説明してみる
10	Unit 5 : “Your total is …”	お会計の伝え方を学ぶ
11	(same as above)	文化: 「サイン (署名)」に対する意識の違い
12	Unit 6 : “I’m sorry for …”	苦情対応の仕方を学ぶ
13	(same as above)	日本と英語圏での謝罪に対する意識の違いを学ぶ
14	Unit 7 : Reservation	ホテルや旅館での受付対応
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備しておくこと。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること (ない場合は携帯で代用可)。詳細は初回の授業で指示します。

英会話Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペアワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出身について話す	自分の出身地を説明する
10		街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 ((SECOND EDITION)

著者：Angelica Buckingham & Lewis Lansford, (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

英会話Ⅱ	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

この講座（「英会話Ⅰ」の続き）では、引き続き簡単な英語での会話に必要なフレーズや文法知識を、さまざまなタスク（活動）を通して身につけます。春学期同様、比較的優しいレベルの単語や構文を使って、高校までの単元をしっかりと定着させる、「基礎を補うこと」「次のステップへの土台を作ること」がこの授業の目標です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英語コミュニケーションに必要な構文、文法知識を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
会話の流れを聞いて理解し、適切な表現で応答できるようになる	授業中のリスニング課題、ロールプレイでの英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
学んだ表現を応用して会話を組み立てることができるようになる	テキスト内の課題に取り組み、授業中の発表によって評価します。	25%
学んだ内容を応用して自分の考えを英語で書けるようになる	学期内一度の課題提出によって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、その他に課題、発表、授業での積極性などを30%、計100%で評価する。 『学生要覧』記載事項に準拠し、授業への出席は3分の2以上を前提とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	初回ガイダンス	春学期の総復習／演習&解説による達成度チェック
2	Unit 7 : I'm sure he will ...	will 以外を使った未来の出来事の表し方を学ぶ
3	Unit 8 : I'll remember that.	助動詞をおさらいする
4	(same as above)	助動詞の完了と現在を区別する
5	Unit 9 : Hiro forgot.	to 不定詞を復習する
6	(same as above)	動名詞-ing 形を復習する
7	Unit10 : How have you been?	現在完了を復習する
8	(same as above)	「完了」と「継続」を区別する
9	Unit11 : While they are ...	接続詞の種類を確認する
10	(same as above)	「等位」と「従位」のつなぎかたを区別する
11	Unit12 : How was tennis?	比較級を復習する
12	(same as above)	最上級・比較のイディオムを復習する
13	Unit13 : What do you mean?	受動態を作れるようになる
14	(same as above)	現在完了や過去完了から受動態を作る
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Hickling, Robert. (2014) English First: Basics. 金星堂

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備しておくこと。

【その他の注意事項】

◇春学期同様、授業内で iPad を使うアクティビティーがあるので、配布後は毎回必ず持参すること。ダウンロードするアプリについての詳細は、後日授業内で指示します。

英会話Ⅱ	ジャネット ジョンソン Janet Johnson
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

「英会話Ⅱ」では、引き続き英会話の基礎を学んでいきます。クラスでは、リズムをつけたスピーキングのウォームアップをしたり、日常生活でのコミュニケーションに大切なさまざまな会話を練習したりします。また、教科書のリスニング問題や歌を使ってリスニング練習をすることにより耳のトレーニングをします。インタビュー形式の活動やロールプレイも行います。さらに、海外の習慣を学ぶこともあります。自分が育った文化における習慣や行事についても英語で説明できるようにしましょう。楽しんで言葉を練習し、単語やフレーズを学び、リスニング力を高めることが、この授業の目的です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
適切な挨拶の表現が使える、自分について話したり相手のことを尋ねることができる、さまざまな職業が分かる、値段や素材を尋ねるなど買い物の場面で必要な会話ができる、複数形や距離を示す表現が使える	筆記試験（教科書やウォームアップに出てくる単語、フレーズ、表現を含む）、リスニング試験（教科書の内容に関連のある会話より出題）。	30%
外国の通貨を使って買い物をする、アメリカの通貨に親しむ、好き嫌いについて自分の意見を言う、招待を受ける・断る、意見を言う、天気について話す	筆記試験（関連のある単語試験を含む）、質問に英語で答える、リスニング試験（教科書の会話例とクラスで学んだ問題より出題）。	30%
授業への積極的な参加	授業への積極的な参加は、語学の習得と上達に大変重要です。すべての口頭および筆記での活動に積極的に参加してください。	25%
課題：宿題、自習、ミニテスト、出席	宿題、予習、自主学習、定期的に行われるミニテスト。出席は必須です。	15%
評価の方法 筆記およびリスニングテスト30%×2、 授業への参加25%、宿題・自主学習15%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Report	Greetings and report of summer activities.
2	Review Unit 5	Review of last material covered in English I.
3	Unit 6 Leisure	Asking about locations and places. Listening. Repeating.
4	Unit 6	Survey on leisure activities.
5	Cross-cultural topic	Halloween. Customs, history, essential warning vocabulary
6	Unit 7 Weekend	Practice Past tense. Wh-questions.
7	Unit 7	Additional conversation and grammar practice.
8	Review Units 6 & 7	Review exercises and preparation for test.
9	Short Test	Test on Units 6 & 7
10	Unit 8 Cities-Places	Locations, neighborhoods. There is/ There are practice.
11	Unit 8 cont.	Finding out about new areas.
12	Unit 9 Appearance	Describing appearances. Listening practice.
13	Unit 9 cont.	Present continuous practice. Describing pictures.
14	Review 8 & 9	Review of materials and preparation for Final test.
15	Final Test	Final test

【使用教材】

- ◇ Interchange : English for international communication Book 1
Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor
Cambridge University Press

【履修条件等】

- ◇授業で行う活動に積極的に参加すること（とくに会話練習）。会話練習やその他授業で行う活動についていけるよう、出席は必須です。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇授業で扱う内容の予習と復習はしっかり行ってください。また、リスニング力アップのため、教科書付属のCDを使って練習をしてください。宿題はきちんと済ませ、単語の暗記もすること。ペアでの会話練習は積極的に参加すること。

英会話Ⅱ	ワタナベ キミヨ 渡邊 きみ代
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

本講義では、「英会話Ⅰ」に続き、身近な話題を取り上げ、実際に役立つ表現を用いて、自分の意見を伝えられるようになることを目的とする。さらに、毎回の授業において、ボキャブラリー（語彙）を増やし、英語に親しむ態度を育成する。話すことによって自分を理解してもらうこと、聞き取ることによって相手を理解することから始め、日常生活、海外旅行で用いる慣用的な表現など、さまざまな状況を設定しペア・ワークやロール・プレイなどを行う。積極的に参加すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活あるいは海外旅行に必要な英語表現を身につける	会話テスト、授業中のペア・ワークやロール・プレイによって評価を行なう。 発音、イントネーションに気をつけ、間違いなく、よどみのない、わかりやすい英語を話すことができるようになる。	40%
応用力を身につける	授業で学んだ表現を応用できる。 自分で文章を構成し、正しいスペルで書くことができる。	30%
語彙力の強化	筆記テストによって評価する。 授業で学んだ表現、ボキャブラリーを正しく理解、記憶し、用いることができる。	30%
評価の方法 遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ウォーミングアップ	夏休みのできごとについて話す
2	場所を説明する	前置詞
3		場所と時間を説明する
4	人を描写する	形容詞と副詞
5		人の性格や特徴を表現する
6	体調を述べる	助動詞
7		健康、病気の表現
8	会話テスト	
9	誘う	進行形
10		誘ったり、薦めたりする
11	誘いを断る	接続詞
12		配慮ある断り方
13	復習	
14	会話テスト	二人一組の対話形式あるいは教員の質問に答える形式
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：Hello New York 著者：Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie

【履修条件等】

◇遅刻、テキストを持ってこないことは、授業参加度の減点となる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当ユニットに目を通す。

◇毎回の授業前には、前回の内容を復習しておくこと。授業内で、復習すべき問題などを指示する。

【その他の注意事項】

◇評価項目にある授業参加度とは、能動的に授業に取り組む姿勢（授業態度を含む）、授業外学習、理解度などから総合的に評価することとしており、単に授業に「出席」するだけでは、その要件を満たさない。したがって、授業に支障をきたすもの（私語、携帯電話など）を禁ずることはもちろんのこと、積極的な参加を期待する。

英会話Ⅱ（再履修）	アベ マキコ 阿部 牧子
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

身近なトピックについての日常会話や、海外旅行でのサバイバル英語を習得できるよう、リスニングとスピーキングに焦点をあてて指導します。スピーキングに関しては、ペアワークやロール・プレイなどを積極的に導入し、学生が英語を話す機会を増やしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
海外旅行を楽しむために不可欠な英会話を場面に応じて実践することができる	会話テスト、および授業中の学生同士の対話練習によって評価する。相手の話す内容を理解し、適切な受け答えができること。相手が理解できる英語を話すことができること。	40%
上記目標に到達するためにボキャブラリー（語彙）を増やす	単語テストおよび期末の筆記試験によって評価する。正確な綴りで書けること。	20%
クラスメートがゆっくり、はっきりと話せば、内容を理解し、簡単なやりとりができる	試験、および授業中のペアワークによって評価する。コミュニケーションがとれているかどうか。	20%
日本についての基本的な質問（食生活、言葉など）に答えたり、知っている情報を伝えたりすることができる	授業課題およびホームワークによって評価する。日本についての基本的な情報を伝えることができること。自分自身のことを例にして、わかりやすく説明することができること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として発話30%、提出物20%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	銀行でお金を引き出す	“Can I ~?” (～できますか)
2		hundred, thousand を含む数字の表現
3	ホテルの部屋を予約する	電話で部屋をリクエストする.
4		電話で相手とコミュニケーションする
5	薬を買う	薬局で薬を買うために症状を伝える
6		症状を伝える表現
7	中間試験	スピーキングテスト
8	中間試験	筆記試験と解説
9	相手の出身を聞く、自分の出	自分の出身地を説明する
10	身について話す	街や場所の特徴を伝える表現
11	興味について話す	スポーツ、音楽、食べ物などの好き嫌いについて話す
12	お土産を買う	ストリートマーケットで買い物をする時の表現
13		サイズや色の語い・値段交渉の表現
14	口頭試験	スピーキングテスト
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ PASSPORT 1 (SECOND EDITION)

著者：Angela Buckingham & Lewis Lansford (OXFORD)

【履修条件等】

◇辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書を音読し、添付CDの当該部分を聞く。単語の意味を調べておく。

【その他の注意事項】

◇会話は interaction です。授業に参加することが非常に大切です。原則として10回出席していなければ本試験の受験を許可しません。

◇円滑なグループ学習活動のため、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度始めに購入しておくようにしてください。

英会話Ⅱ（再履修）	キムラ ナオキ 木村 直樹
English Conversation II	必修科目／半期／1単位

【授業概要】

春学期に引き続き、この講座では、日本国内の日常生活やアルバイト先の飲食店などで、外国人と英語で接するさまざまな場面を想定した英会話のパターンを勉強します。秋学期は主に観光客をターゲットとした商業施設での対応の仕方や、公共交通機関の利用法の説明など、ややスキルを要求されるような会話パターンを勉強します。授業では、こうした一見難しそうに見える英会話でも、簡単な単語の組み合わせで組み立てることができるということを解説します。※この講座は「英会話Ⅰ（再履修）」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な英語表現を身につける	テキストや講義で解説した事項を筆記試験および確認テストで評価します。	25%
相手の意図を理解し、簡単な英語表現で応答できるようになる	講師と学生の間でロールプレイを行い、その英語表現の適切性に基づいて評価します。	25%
会話の鍵となる単語や語句を聞き取り、書いて表現できるようになる	授業中のリスニング課題で評価します。	25%
英会話に頻繁に用いる定型表現と語彙を学ぶ	期末試験および小テストによって評価します。	25%
評価の方法	上記の学習目標全てを期末試験で70%の換算とし、そこにそれ以外の平常点（課題や発表、授業での積極性など30%を加え、計100%として評価する。 授業への出席は3分の2以上を前提とする（『学生要覧』参照）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「英会話 I」 でカバーした内容の確認、チェック問題
2	Unit 7 : Reservation	文化 : 「旅館」 について英語で説明してみる
3	Unit 8 : “Wi-Fi is available.”	商業施設でのサービス提供について説明する
4	(same as above)	文化 : 「おみやげ」 について英語で案内する
5	Unit 9 : “I recommend …”	観光案内や自分のお勧めスポットを説明する
6	(same as above)	日本と海外の文化の違いを理解する
7	Unit10 : “Turn right at …”	道案内をする
8	(same as above)	地図の見方を説明する
9	Unit11 : “Take the subway.”	公共交通機関の案内を英語でしてみる
10	(same as above)	さまざまな移動手段を英語で説明する
11	Unit12 : “First, put the …”	券売機や電化製品の使用法を説明する
12	(same as above)	文化 : 「リモコン」 を英語で説明する
13	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容の確認および総復習
15	総括・達成度の確認	総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇ Kudo, Tae. (2016) You Are Welcome! Cengage Learning.

【履修条件等】

◇ とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 毎回講義内で予習範囲や提出課題の告知を行うので、次回の授業までに指定された項目を準備してくること。

【その他の注意事項】

◇ iPad を持参すること（ない場合は携帯で代用可）。詳細は初回の授業で指示します。

キャリアデザイン	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

キャリアデザイン	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Career Design	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

この講義では、「キャリア」の基本的な考え方の理解を目的として授業を行っていきます。まず「キャリアとは何か」について考えてきます。さらには、「職業とは何か」「企業とは何か」について考えていきます。最終的には自身のキャリアをデザインすることが可能になることを目標としていきます。講義は配布レジュメに沿って進めていきます。また、映像資料を活用し、視聴覚的に理解を図ります。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
自己分析、職業興味、価値観、自身の強みなどについて理解する	実際にいくつかの自己分析のワークシートに取り組んでもらう。授業時に行う課題への取り組みの姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
業界分析・企業分析の基礎について理解し、興味のある分野を探索する	興味関心のある業界や企業について調べ、分析をする。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
自己分析と企業分析を基にして自身の自己ピーアールを作成する	それまでに行ってきた課題の内容を踏まえて、自身の自己ピーアールを作成する。授業時に行う課題への取り組み姿勢や結果を参考にしながら評価をする	25%
多様な働き方について理解をする。また自身のキャリアを設計する上で必要な考え方を身につける	キャリアデザインをしていく上で必要になる考え方について理解をしているか確認するため、自由記述型の論述試験を行う 自身のキャリアを真摯に考え記述しているかどうかについて評価をする	25%
評価の方法 授業時の課題75点（受講態度含む）、期末課題25点		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と進路などについて
2	ライフプラン	ライフプランの検討
3	働くとは何か	職業とキャリアの基礎
4	インターンシップ①	インターンシップとは何か
5	インターンシップ②	インターンシップ実例・報告
6	働く人の権利	労働法初歩
7	企業分析・業界分析①	面白そうな仕事を探そう
8	企業分析・業界分析②	興味深い会社を探そう
9	資格について	現代社会で活用されている資格について
10	自己分析①	あなたの価値観を知って雇用のミスマッチを防止
11	自己分析②	あなたの職業興味を知って選択肢を広げよう
12	就職試験①	S P I 試験について
13	就職試験②	グループディスカッション①
14	就職試験③	グループディスカッション②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書指定なし。

※レジュメを配付して進めていきます。

【履修条件等】

◇授業中に行う課題に真剣に取り組むこと。

◇提出課題の期日を守れること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料のキャリアに関するキーワードについて調べること。

◇雇用に関する時事問題について新聞・雑誌などで理解をしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

日本語 I (留学生科目)	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language I	必修科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語 I (留学生科目)	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language I	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評分などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

<p>日本語 I (留学生科目)</p>	<p style="text-align: center;">シオタニ ユミコ 塩谷 由美子</p>
<p>Japanese Language I</p>	<p style="text-align: right;">必修科目 / 半期 / 2 単位</p>

【授業概要】

大学での学習活動に必要な文章能力を身につけることを目標にする授業である。まず、文構成や句読点、記号など、基本的な文章作法を学習する。文単位、段落単位の表現を学び、意見文・評論文・説明文など種類別にある程度の長さの文章構成を練習する。さらに、文章の論理的構成や、データの検索方法と表記の仕方、アウトラインの作成など、レポート作成に必要な基礎知識も身につける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基本的な文章作法を身につける	基本的な表記の方法、文体の統一、句読点や記号の使い方、文単位の正確さなどを評価する。	20%
種類別の文章構成を身につける	与えられたテーマに沿って、意見文、説明文、評論文などの指定された種類の文章構成ができているか否かを評価する。わかりやすさや論理性、根拠や反論の効果的な使い方も評価する。	40%
レポートの書き方を身につける	論理的構成、データの提示の仕方、アウトライン、引用や参考文献の書き方など、基本的なレポートの書き方ができるかどうかを評価する。	40%
<p>評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	基本的な文章作法	文章の基本
4	文体	文体と表現レベル
5	意見文	意見文と事実文の区別
6	意見文	意見文の構成と練習
7	説明文	説明文の構成
8	説明文	説明文の練習
9	レポートの書き方	レポートの種類とテーマ
10	レポートの書き方	レポートの手順と作業
11	レポートの書き方	テーマの絞り方
12	レポートの書き方	アウトラインと論理性
13	レポートの書き方	データ検索と引用
14	レポートの書き方	参考文献の書き方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書は指定しないが、必要に応じて授業内で資料を配布する。

◇参考図書：浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』

くろしお出版、1997年

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組み、課題を期限までに提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇その都度授業内で指示する。

【その他の注意事項】

◇授業外で文章の練習をする時間が必要になるので、必要に応じて課題を課す。

課題は指定された授業の日に提出すること。それ以外は加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

<p>日本語Ⅱ（留学生科目）</p>	<p>オクヤマ タカユキ 奥山 貴之</p>
<p>Japanese Language II</p>	<p>必修科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<p>ビジネス日本語の基本語彙を習得する</p>	<p>毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。</p>	<p>小テスト15%</p>
<p>ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける</p>	<p>提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。</p>	<p>課題と本試験の50%</p>
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅱ（留学生科目）	シオタニ ユミコ 塩谷 由美子
Japanese Language II	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。ビジネス日本語の基本語彙を習得しながら、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の能力を養成する。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現の基本を学習し、場面ごとに待遇表現に慣れるよう練習をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	社内メール
4	ビジネス日本語の基礎	会議準備
5	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び1
6	ビジネス日本語の基礎	電話とお詫び2、お知らせ文書1
7	ビジネス日本語の基礎	お知らせ文書2
8	ビジネス日本語の基礎	キャッチコピー
9	ビジネス日本語の基礎	同僚との雑談
10	ビジネス日本語の基礎	値下げ交渉
11	ビジネス日本語の基礎	営業1
12	ビジネス日本語の基礎	営業2、売上
13	ビジネス日本語の基礎	売上2
14	ビジネス日本語の基礎	パッケージ案
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集－聴く・読む・話す・書く』ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	イトカラ ユウ 糸川 優
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパンタイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

日本語Ⅲ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language III	必修科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面における日本語コミュニケーション能力の養成を目的に、ビジネス日本語の基本語彙の習得を重ね、場面ごとに必要な読解、聴解、文章作成、情報処理の練習を重ねて習熟することを目標とする。またビジネス場面に必要不可欠な待遇表現も確認し、ビジネス場面における人間関係や場面背景を理解できるような練習もする。さらに、BJT ビジネス日本語能力テストの受験準備をする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス日本語の基本語彙を習得する	毎回授業はじめの小テストにより評価する。語彙を聞いて判別でき、意味がわかり、正しく表記できるかどうかを評価する。目標語彙リストは教科書から指定する。	小テスト15%
ビジネスの場面ごとに必要な日本語能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。場面ごとに必要な理解力、表現力、情報処理能力を評価する。	課題と本試験の50%
ビジネス日本語のコミュニケーションに必要なスキル別能力を身につける	提出された課題の内容および学習達成度確認テストにより評価する。ビジネス日本語における読解力、聴解力、口頭表現能力、文章作成能力を評価する。	課題と本試験の50%
<p>評価の方法 授業参加度30%、小テスト15%、課題15%、本試験40%</p> <p>学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本語能力評価テスト	授業計画と評価の説明、日本語能力評価テスト
2	日本語能力評価テスト	日本語能力評価テスト
3	ビジネス日本語の基礎	個人情報 1
4	ビジネス日本語の基礎	個人情報 2
5	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 1
6	ビジネス日本語の基礎	顧客満足度調査 2、出張 1
7	ビジネス日本語の基礎	出張 2
8	ビジネス日本語の基礎	販売員増員の提案
9	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 1
10	ビジネス日本語の基礎	インタビュー 2
11	ビジネス日本語の基礎	日程調整
12	ビジネス日本語の基礎	衣料品業界
13	ビジネス日本語の基礎	展示会
14	ビジネス日本語の基礎	業務フローチャート
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇小野塚若菜ほか『ビジネス日本語オール・イン・ワン問題集聴く・読む・話す・書く』
ジャパントイムズ、2015年

【履修条件等】

- ◇上記の教科書を購入しておくこと。
- ◇意欲を持って学習に取り組むこと。
- ◇必要に応じて授業外に補習授業を課すので、積極的に出席すること。
- ◇課題は期限までに提出すること。それ以外は成績に加算しない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前もって教科書の該当する課を読み、語彙と漢字の読み方を予習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇毎回小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。
- ◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

英語 I	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解できるよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、できるだけ原稿を見ないで発表できることを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、英作文力確認テスト
2	自己紹介	自分について、定められたフォーマットに従って英語で書く
3	自己紹介	発表
4	自分の好きな国・行ってみたい場所	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
5	同上	前回に引き続き原稿を作成する
6	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
7	4つの食品群とは	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
8	同上	前回に引き続き原稿を作成する
9	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
10	ソーシャルネットワーキングサービスの功罪	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
11	同上	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
13	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べること。図書館やパソコンを使っての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行います。

◇円滑なグループ学習・ペア読みのため、座席を指定することがあります。

英語Ⅱ	アベ マキコ 阿部 牧子
Presentation Basics Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

グローバル化が進む現代社会において、人前で情報を伝えたり自分の考えを説明したりする能力は、ますます重要になってきています。

この授業では、英語によるプレゼンテーションの典型的な表現を学び、聴き手が理解できるよう単語を正確に発音できるように指導します。

繰り返し練習することによって、過度に緊張せず、原稿を見ないで発表できることを目標とします。

本講義は「英語Ⅰ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
テーマに関して情報を集めることができる	課題、原稿によって評価。図書館やインターネット等を使ってさまざまな情報を収集し、効果的にプレゼンテーション原稿に利用できる。	20%
200から300語程度のプレゼンテーション原稿を作成する	提出物、原稿によって評価。集めた情報を元に自分の意見を構築し、それをわかりやすい英文で書くことができる。	20%
クラスメートの発表の「よき聴き手」になる	学生同士の評価態度によって評価。英語の発音が多少聞き取りづらくても、ノン・ネイティブであるクラスメートのしゃべる英語を理解し、感想を述べることができる。	20%
人前で発表できる	発表によって評価。顔を上げて、原稿を見るのは最小限にとどめ、聴き手の方を見て発表ができる。	40%
評価の方法 発表60%、本試験20%、課題他20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明等・英作文確認テスト
2	トピック 1 運動と健康の維持	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
3	同上	前回に引き続き原稿を作成する
4	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
5	トピック 2 (未定)	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
6	同上	前回に引き続き原稿を作成する
7	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
8	トピック 3	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
9	同上	前回に引き続き原稿を作成する
10	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
11	トピック 4	トピックに関する語彙や表現を学習し、パラグラフライティングに着手する
12	同上	前回に引き続き原稿を作成する
13	同上	グループ内で発表を行い、相互に評価し合う
14	プレゼンテーション	クラス全体の前で発表を行い、相互に評価し合う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Writing Presentation in English

著者：Richard R. Caraker 他 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇人前で英語でスピーチすることに挑戦したいと考えている人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックに関して調べること。図書館やパソコンを使っての情報収集は、原稿作成に不可欠です。

【その他の注意事項】

◇初回の授業で英作文力をみるため簡単なテストを行う予定です。

◇円滑なグループ学習やペア読みの便宜上、座席を指定することがあります。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

英語Ⅲ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する。 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明など
2	英語は世界共通語	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	英語は世界共通語	英作文・ディスカッション
4	ハンバーガーの生い立ち	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	ハンバーガーの生い立ち	英作文・ディスカッション
6	インターネットの発達	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	インターネットの発達	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	甘い飲み物	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	甘い飲み物	英作文・ディスカッション
11	国内旅行	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	国内旅行	英作文・ディスカッション
13	世界で最も幸せな国	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	世界で最も幸せな国	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

英語Ⅳ	アベ マキコ 阿部 牧子
Reading and Writing Ⅳ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

この授業では、400～500字程度の英文を読んで、内容についての感想や意見を述べることを目標にします。テキストのエクササイズに答えながら読解力を養い、自分の考えを英語にする練習を繰り返します。わかり易く平易な英語で英文を書けるようになることを目指しましょう。本講義は「英語Ⅲ」の続きです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
英文を読むために必要な文法、単語についての知識を習得する	小テスト、提出物によって評価。	30%
400字程度の英文の内容を、所見でおおよそ把握できる	授業中の応答、発言によって評価する 中間試験と本試験で評価する。	30%
トピックに関する自分の考えを、英語でわかりやすく表現できる	提出物、本試験によって評価。学習した単語・熟語などを文脈に沿って適切に使い、基本的な英文を作ることができる。	20%
単純な内容であれば、論理的な短い英文が書ける	学期始めと学期終わりに書いた英文を比べ、どの程度作文力が向上したかによって評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、小テスト、平常点（提出物を含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明
2	Fast Food and Health	教科書の問題を解きながら内容を理解する
3	Fast Food and Health	英作文・ディスカッション
4	Shopping on the Internet	教科書の問題を解きながら内容を理解する
5	Shopping on the Internet	英作文・ディスカッション
6	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
7	未定	英作文・ディスカッション
8	中間試験	学習達成度の確認
9	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
10	未定	英作文・ディスカッション
11	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
12	未定	英作文・ディスカッション
13	未定	教科書の問題を解きながら内容を理解する
14	未定	英作文・ディスカッション
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇ Life Topics

著者：Takashi Shimaoka, Jonathan Berman 出版社：南雲堂

【履修条件等】

◇英語に対する学習意欲があり、課題（ホームワーク）に取り組むことを優先することができる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇トピックについての知識がテキストだけでは不足な場合、各自で調べることが必要になります。

【その他の注意事項】

◇全出席を心がけてください。

◇6回目以降のテーマは、受講生の興味関心も踏まえて決定します。

◇教科書は年度の始めに購入しておくようにしてください。

TOEIC I	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに出題される頻度の高い単語を習得する	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができる	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアアップ	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Introduction	模擬テストと解説
3	Activity 1	Shopping (grammar, auxiliaries)
4	Activity 2	Shopping (grammar, auxiliaries)
5	Activity 3	Transportation (grammar, progressives)
6	Activity 4	Transportation (grammar, progressives)
7	Activity 5	Travel (grammar, verb)
8	Activity 6	Travel (grammar, verb)
9	Activity 7	Restaurant (grammar, perfect tenses)
10	Activity 8	Restaurant (grammar, perfect tenses)
11	Activity 9	Health (grammar, tense agreement)
12	Activity10	Health (grammar, tense agreement)
13	Activity11	In the Office (grammar, tag & negative questions)
14	Activity12	In the Office (grammar, tag & negative questions)
15	Examination	本試験および解説

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇英語を聞いて理解できるようになるため、努力を惜しまない人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

TOEIC II	シシド カール 宍戸 カール
TOEIC II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

このクラスは、実用的な英語を身につけてコミュニケーション力をアップしたいと考えている学生、いずれは TOEIC テストに挑戦したいと考えている学生を対象に、TOEIC の基礎的な部分のトレーニングを中心に授業を進めていきます。

TOEIC はリスニング45分、リーディング75分の試験です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
TOEIC テストに関する基礎的な単語力を身につける	おもに単語テストによって評価する。語彙問題のパターンを把握し、頻出語彙をマスターする。	30%
TOEIC テストに必要なとされる英文読解力を養う	本試験その他によって評価。文法事項の基本パターンを把握し、読解問題の基本的な設問を理解し、解答できること。	30%
TOEIC テストに必要な「聴き取り」ができること	本試験その他によって評価。パート1からパート3の各問題の設問の内容を理解し、正解に必要な情報を聞き取ることができること。	30%
模擬試験のスコアが上がること	学期始めと学期末の本試験を比較して（難易度考慮）、評価する。	10%
評価の方法 本試験50%、平常点（単語テストを含む）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価基準等の説明
2	Lesson 1	Business and Sales (grammar, negations)
3	Lesson 2	Business and Sales (grammar, negations)
4	Lesson 3	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
5	Lesson 4	Media/News (grammar, infinitives & gerunds)
6	Lesson 5	Economy (grammar, participles)
7	Lesson 6	Economy (grammar, participles)
8	Lesson 7	Advertisements (grammar, passive voice)
9	Lesson 8	Advertisements (grammar, passive voice)
10	Lesson 9	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
11	Lesson10	Politics (grammar, pronouns & adverbs)
12	Lesson11;	Environment (grammar, subjective mood)
13	Lesson13	Environment (grammar, subjective mood)
14	Examination	本試験
15	Examination	本試験 (試験問題の解説)

【使用教材】

◇ Barron's ToEIC Bridge Test

【履修条件等】

◇将来的には TOEIC テストを受験したいと考えている人。

◇原則として、「TOEIC I」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書に自習用のCDが添付されているので、指示された部分を聴いてくる。

レッスンごとに単語テストをするので、その勉強。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h1>フランス語 I</h1>	<small>ノグチ ケイコ</small> 野口 恵子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

フランス語に慣れ親しむ。基礎的な語彙、表現、文法、発音を学んで、口頭および文章による自己紹介や、簡単な会話ができるようになることを目指す。入門期の外国語学習は、耳、口、目、手、そして頭も使う、いわば全身運動である。まずはフランス語を繰り返し聞き、声に出して言ってみよう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	数字、単語、表現の聞き取りテストを行う。 CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
自己紹介をはじめ、身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
簡単なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	挨拶、自己紹介、日常会話を文字化したものを読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
書き取り、短文作成から始め、身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。 習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法	定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文等）50%、平常点（授業への参加度、宿題提出、音読テスト、ディクテーション）50%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	アルファベ、文字の読み方、挨拶
2	名前を聞く、答える	つづり字記号、簡単な自己紹介
3	「私は学生です」	主語人称代名詞、動詞 être、リエゾンとアンシェヌマン
4	「彼女はフランス人です」	性と数の一致、国籍の言い方、発音しないつづり字
5	「持っています」	動詞 avoir、無音の h
6	「兄が一人います」	不定冠詞、数字 1～10
7	「これは本です」	Qu'est-ce que c'est? C'est ~ / Ce sont ~
8	「家の前に車があります」	il y a ~、形容詞
9	「映画が好きです」	第 1 群規則動詞 (-er)、定冠詞
10	「彼らは勇敢です」	部分冠詞、否定文
11	「彼は学生ですか」	疑問文
12	「カフェに行きます」	動詞 aller、前置詞と定冠詞の縮約
13	「私の家に来ますか」	動詞 venir、人称代名詞強勢形
14	復習 + α	春学期の復習、数字11～、曜日・月・季節の言い方
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー 1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語 I	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

全く初めてフランス語を学ぶ者を対象にゼロから始め、初対面を想定しての自己紹介や好みなどを尋ね合うことができることを目指します。教室では、VTR（インターネットでアクセス可能）で自然な会話に触れ、文法理解と練習問題等を行った後、ペア・グループで実践的な会話の練習をします。各課終了後、ポイントをまとめたプリントを使用し充分復習します。「フランス語Ⅱ」とあわせて履修することで、仏検5級受験に必要な知識を得ることができるようにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス語特有の発音や、綴り字の読み方、イントネーションのつけかた等、フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。数字（値段・年齢等）の聞き取り、学習した基本的なフランス語を耳で聞いて理解し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。詳細については初回授業で説明します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<フランスについて>	・アルファベ、綴り字の読み方
2	<フランス語の発音>	・フランス語 10 単語を覚える
3	Leçon 1 <自己紹介 1 > ・挨拶 ・名前、国籍を言う	・主語人称代名詞と動詞 être ・「はじめまして、私の名は～です」 ・「私は／彼（女）は～人です」 ・数 1～10
4	Leçon 2 <自己紹介 2 >	・規則動詞 habiter 住む
5	・職業を言う ・住んでいる所を言う	・「私は学生です」「彼は俳優です」 ・「私は～に住んでいます」 ・11～20
6	Leçon 3 <カフェで>	・飲み物、食べ物の名と冠詞
7	・カフェで注文し、支払いをする	・否定形「私は～人ではない」
8	・何語を話すか言う	・規則動詞 parler 「話す」の活用 ・数30～60 ・～ユーロ
9	Leçon 7 <好みを言う>	・動詞 aimer 「音楽・スポーツ・～料理が好きです」 程度を言う「大好きです」 「あまり好きではありません」
10	・好みを尋ねる ・何が好きか尋ねる ・Il y a ～ 「～がある」	・aimer の後の名詞につく定冠詞 ・「高田馬場には～がある」
11	Leçon 4 <兄弟姉妹について>	・動詞 avoir 「ペンを持っている？」 「兄がひとりいます」
12	・～を持っているか、尋ねる ・兄弟がいるかを言う ・年齢を言う	・avoir の否定形「持っていない」 ・疑問文 Est-ce que ～ 「～ですか？」 ・「私は～歳です」
13	口頭試験および解説	・授業中練習した自己紹介（名前、国籍、職業・言語）をペアで行う ・音楽、スポーツの好みを尋ね合う
14	Leçon 1～4, Leçon 7 の総復習	復習プリントを使用
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrançais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇フランスまたはフランス語に興味があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

フランス語Ⅱ	ノグチ ケイコ 野口 恵子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」に続き、基礎的な語彙や文法の知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力をのばすことを目的とする。聞こえてきたフランス語を繰り返して言う練習、聞いて書き取る練習、テキストを声に出して読む練習を行う。身近な話題、興味のある話題について、口頭および文章で的確に表現できるようにする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
基礎的なフランス語を聞いて理解する能力を身につける	語句の聞き取りテストを行う。CD等で会話を聞き、大意を理解しているか問う。	30%
身近な話題について話す能力を身につける	口頭表現において、基本的な発音、語彙、文法の知識が生かされているかを見る。会話形式の練習、会話テストを実施する。	30%
基本的なフランス語で書かれた文を読んで理解する能力を身につける	テキストの会話文を読み、まず、大意が取れているか、その後、さらに細かく理解しているか見る。	20%
身近な話題について文章で表現する能力を身につける	文字・表記の正確さを問う書き取りテストを行う。習った単語や表現を使って、自分のこと、自分が興味を持っていることに関して短い作文を書く。	20%
評価の方法 定期試験（聞き取り、書き取り、語彙、文法、作文）50% 平常点（授業への参加度、宿題提出、音読・ディクテーション・会話・和訳・仏訳小テスト）50%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「今から勉強します」	動詞 aller と venir の復習、近接未来、近接過去
2	「ケーキを作ります」	動詞 faire、所有形容詞、疑問形容詞 quel
3	「今何時ですか」	時刻の言い方、天候の言い方
4	「パリに向けて出発します」	第2群規則動詞 (-ir)、動詞 partir
5	「私は早く起きます」	代名動詞、受動態
6	「宿題をやりました」	直説法複合過去① (助動詞 avoir を使う動詞)
7	「カフェに行きました」	直説法複合過去② (助動詞 être を使う動詞)、補語人称代名詞
8	「紅茶よりコーヒーのほうが好きです」	動詞 préférer、指示形容詞
9	「この中で好きな絵はどれですか」	疑問代名詞 lequel、指示代名詞
10	「お酒を飲んだので今夜は運転できません」	動詞 vouloir と pouvoir
11	「誰が歌っているの」	疑問代名詞 que と qui、疑問副詞
12	「ソフィーはピエールより背が高い」	比較級
13	「レオンはクラスで一番背が高い」	最上級
14	「日曜日は毎週教会に行っていたのですか」	直説法半過去
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇高橋信良他著『フランス語ブルー1 トリコロール文法編』朝日出版社、2014年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇授業を休まないこと。

フランス語Ⅱ	ミトミ ユウコ 三富 祐子
French II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「フランス語Ⅰ」を修了、または相当のフランス語の知識のある者を対象とし、「フランス語Ⅰ」で学んだことを土台に、フランス人とのコミュニケーションに必要な基本的な会話の場を広げ、基本的な表現を増やしながら文法事項を学んでいく。授業形態は「フランス語Ⅰ」同様、VTR教材を使用し、スキットの理解、文法解説、発音練習、会話練習を行う。本講座終了後、フランス人との最も基本的なコミュニケーションがとれること、いくつかの場面での実践的な会話ができることを到達目標とする。生きたフランス語に触れるという目的で、教材以外にVTRまたは映画を使用し既習の表現を聞き取る機会を設ける。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
フランス語を読み、理解し、正しく発音できるようにする	授業中の音読、発話と学期末の口頭試験で評価。フランス人に意思が伝わるフランス語であるか否かを評価基準とする。	20%
フランス語を聞き、理解できるようにする	授業中の質問に対する回答と小テスト、学期末の口頭試験で評価。春学期に続き、数字の聞き取り、フランス語での質問に対し返答ができるか否かを評価基準とする。	10%
基本的な文法を理解し、語彙を覚える	授業中の設問に対する回答と、学期末の筆記試験で評価。基本的な（仏検5級程度）文法と語彙を理解し暗記できているかを評価基準とする。	50%
フランス語でコミュニケーションをとる	授業中のペア練習への参加の積極性、学期末の口頭試験で評価。状況に即し、自然な流れで会話ができているか否かを評価基準とする。	20%
評価の方法	8割以上の出席と、口頭試験、筆記試験を受けることを前提に、筆記試験60%、口頭試験20%、課題（配布プリント）提出10%、平常点10%で評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	<春学期の復習> <天候の表現> Leçon 8 II ・天候を言う	・配布プリント使用 ・天候の非人称構文「良い天気です」 「寒く・暑くないです」
2 3	Leçon 9 ・どんなスポーツをするか言う ・朝食について述べる ・否定疑問文に対する「はい」「いいえ」の答え方	・「スポーツはしますか？」 スポーツの名称と部分冠詞 ・「朝食をとりますか?」「～をとります」 食品の名と部分冠詞 ・中性代名詞 en を使って答える
4 5	Leçon10 <誘う> ・相手を昼食に誘う ・承諾する・理由を述べ誘いを断る ・場所へ行く手段を言う	・主語 on 「～行こう」 ・場所の名「カフェへ・美術館へ」と前置詞 +冠詞について ・「OK、行こう」「ごめん、授業があるんだ」 ・「何で行こうか?」「歩いて行こう」
6 7 8 9	Leçon11 <一日の過ごし方> ・起床から就寝までの一日の主な 行動を言う	・時間の表し方 ・「起床する」「就寝する」(代名動詞) 「普段は、～時に起き、～時に家を出、～時に帰宅します」
10 11	Leçon13 <レストランで(1)> ・食事の流れについて知る ・メニューを読む ・注文する	・主な食品の名と注文の仕方 ・前菜、主菜、デザート、飲み物を注文する ・複合過去(1)助動詞 avoir 「選びましたか?」
12	口頭試験および解説	授業中練習した会話(朝食、スポーツについて 尋ね合う、誘う)をペアで行う
13	Leçon 13 <レストランで(2)> ・料理の感想を言う Leçon 14 ・過去について語る	・料理の感想を言う(半過去) 「美味しかったです」 ・複合過去(1)助動詞 avoir 「昨日何をしましたか?」
14	Leçon 14 ・過去について語る ・総復習	・複合過去(2)助動詞 être 「昨日～へ行きました」 ・復習プリントを使用して総復習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度 の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇ Café Français カフェ・フランセ
著者：Nicolas Gaillard 他 出版社：朝日出版社
ホームページ <http://cafefrançais.cocolog-nifty.com/hp/>

【履修条件等】

- ◇「フランス語 I」を修了または相当のフランス語の知識のある者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業での学習事項を復習すること。

【その他の注意事項】

- ◇全出席を心がけること。

中国語 I	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

日常会話の練習をします。初心者が対象ですから基礎知識はいりません。あまり文法的なことにはふれないで、授業中はどんどん声を出して体で覚えてもらいます。

中国語の学習を通して、中国文化や中国人の生活習慣に親しみ、国際的な視野を広げてほしいと思います。「聞く」授業ではなく、「参加する」授業です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
中国語の基本構造と発音の概要を理解し、発音の基本練習をする	授業中に指名し、回答から理解度を評価する。発音の巧拙は関係ない。発音練習への参加意欲や、集中度を評価する。	20%
自分の名前の中国語発音を発表し、互いに呼び合えるようにする	中国語の辞書で発音記号・意味・用例を調べ、レポートを提出させ評価する。 クラスメートの名前を中国語で呼び合う積極性を評価する。	20%
学生生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習をする	家族、学生生活、誕生日、年齢、住所、スポーツ、趣味などについて、一人ひとり発言させ評価する。 また、対話練習の積極性も評価する。 発音の巧拙は関係ない。	30%
試験として、1分間程度の自己紹介スピーチを皆の前で披露する	スピーチの標準形を示すが、オリジナリティーをプラス評価する。発音練習、矯正指導への取り組み姿勢、スピーチマナー、クラスメートの発表を聞く態度も評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点およびレポート課題評価70%、試験（中国語による自己紹介）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国語について	共通語、文字、文の組み立て等
2	発音について(1)	発音の概説(音節、母音、子音、声調、ピンイン)
3	発音について(2)	発音練習(数字、あいさつ、身体、漢詩、自分の名前)
4	あいさつ	あいさつ言葉、人称代名詞、敬称
5	名前(1)	名前の聞き方の注意点、他の常用あいさつ言葉
6	名前(2)	自分の名前のピンイン発表、発音練習
7	家族	“有”の文、数量を尋ねる、人や物を数える単位
8	学生生活	“的”の用法、“是”の文
9	誕生日、年齢	月、日、曜日、西暦の言い方、年齢の聞き方、答え方
10	～に住んでいる	指示代名詞、場所や方向、r化
11	～ができる	“会”の用法、「肯定+否定」の疑問文
12	自己紹介(1)	趣味、～生まれの～育ち、学校名の言い方
13	自己紹介(2)	質問、個人指導、練習
14	自己紹介(3)	質問、個人指導、練習
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

中国語Ⅱ	イノウエ ヨシオ 井上 良雄
Chinese II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「中国語Ⅰ」に引き続き、日常会話の練習をします。さまざまな場面を想定して、基本的な単語や簡単な文で受け答えの会話を楽しみましょう。

「中国語Ⅰ」と同様に、聴講型ではなく参加型の授業です。異文化への興味と関心を深め、国際センスを磨いてほしいと思います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
短い自己紹介を、とっさにでも流暢にできるよう練習する	「中国語Ⅰ」の復習として、一人ひとりが皆の前で披露する。話しぶりや表情、パフォーマンスも評価する。	10%
日本のアニメソングの中国語版を題材に、日中の歌詞を比較・分析する	各人が比較・分析の結果や感想を発表する。鑑賞の緻密さ、積極的な参加意欲を評価する。合唱もするが、歌の巧拙は関係ない。協調性を評価する。	10%
日常生活のさまざまな場面での会話を想定して、互いに練習する	再会、勧誘、時刻、経験、電話、決まり文句等について、対話形式でロールプレイングを行い、その積極性、正確性を評価する。発音の巧拙はそれほど重要ではない。	50%
試験として、各人10問の日常会話の口頭試問を行う	これまでに学んだ、30問の設問に対する解答を練習し、一人10問の口頭試問を行う。聴解の正確性、回答の妥当性、反応速度、面接態度等を評価する。	30%
評価の方法	上記のように、平常点評価70%、試験（中国語による口頭試問）評価30%である。 欠席・遅刻は事情を考慮の上、減点（1回につき最大5%）する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	「中国語 I」の復習	中国語での簡単な自己紹介
2	中国語で歌う	中国語の歌詞を題材に学習
3	再会	“了”の用法、動作の方向
4	～が好き	“得”の用法、“不太好”と“太不好”
5	どうですか？	同意、意向や様子を尋ねる、“上”“下”の特殊な用法
6	時刻・時間	時刻、時間、期間の言い方
7	～から～まで	～したことがある（経験）、出身地と住所地
8	電話をかける(1)	一般的な電話会話
9	電話をかける(2)	電話番号の聞き方、言い方
10	決まり文句(1)	対話での決まり文句
11	決まり文句(2)	ひと言決まり文句、外来語
12	口頭試問(1)	問題の解説、回答例練習
13	口頭試問(2)	問題の解説、回答例練習
14	口頭試問(3)	質問、個人指導
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇井上良雄著『中国語のチカラ』東京富士大学

【履修条件等】

◇中国語に興味と関心があり、積極的に授業に参加できる学生。

◇原則として「中国語 I」を修得した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の次回学ぶ課を読み、発音しにくい単語、理解できないところをチェックしておいてください。

【その他の注意事項】

◇座席は指定制です。

韓国語 I	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

韓国語は、日本語と多くの共通性を持った言語であることから、日本人にとって最も親しみやすく、学びやすい外国語であるといわれています。この授業では、韓国語の文字であるハングルや基礎文法、会話文について体系的に学習していきます。

授業のスタイルは、一方的に教えるのではなく、学生同士で韓国語による自己紹介や挨拶文を交わすロールプレイを行ったり、作文・発言を促したりすることで文法を理解し、日常で使う表現を中心に楽しく学んでもらうことを心がけます。韓国語のみならず、授業を通じて、韓国の社会や文化についても理解を深めることを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
韓国語の特徴を理解し、文字を覚え、発音ができる	ハングル（文字）の「読み」、「書き」ができるか、自分の名前や日本の地名をハングルで表記できるかを評価する。	30%
自己紹介や挨拶文、疑問文、否定文などの簡単な文章が言える	自己紹介・挨拶などを韓国語で話すことができるかを評価する。	30%
基礎文法を身につけ、簡単な作文や読解、聞き取りができる	基礎文法を理解し、日常で良く使う語彙を覚え、応用でき、韓国語で発言し、聞き取りや作文ができるかを評価する。	20%
韓国の社会や文化を理解し、韓国語でコミュニケーションできる	韓国語を通じて韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	韓国語の特徴	文の構成、文字について
2	日本語との共通点	基本母音・基本子音、
3	ハングルの構成、発音	終声子音、複合母音、書き順、
4		発音、漢字の読み方、文字のまとめ
5	自己紹介、挨拶文、	自己紹介や挨拶文、基本文「～は ～です」、
6	基本文、疑問文	疑問文「～は ～ですか」、主語、述語
7	否定文、助詞、代名詞、	否定文、日本語のこそあど言葉、助詞、代名詞、
8	～する動詞	～する、します動詞
9		
10	一般動詞や形容詞の	～する動詞以外の一般動詞、基本動詞の語尾変換のルール、
11	語尾変換	形容詞、用言の丁寧文、語幹と語尾
12	ヨ体の用法、漢数字	ヨ体のルールや変化、体言のヨ体、漢数字
13		
14	時間と時刻表現 春学期のまとめ	時間や時刻に関する表現、固有数字、これまでに習った文法や語彙のまとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇韓国語や韓流ジャンル（K-POP、料理、ドラマなど）に興味を持っている学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇学ぶ心を持つこと。

◇授業のマナーを守ること。

◇遅刻、欠席をしないこと。

韓国語Ⅱ	ファン ミジョン 黄 美貞
Korean II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

「韓国語Ⅰ」で学んだ文法や語彙を復習・確認しながらステップ・アップし、日常表現を中心に基礎会話や基本文法・文型・語彙を身につけることができます。「韓国語Ⅰ」の表現を応用し、やや長めの文章や会話文を駆使することができ、韓国語検定試験の5級に合格できるレベルまで進むことができます。

「韓国語Ⅱ」を通してより深く韓国語や韓国文化に触れることができるよう、韓流音楽や食文化の紹介もしていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
各回で学習した内容を理解し、スムーズに「読み」、「書き」、「話す」ことができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
基本文法を身につけ、日常で使う表現を学び、初級レベルの韓国語ができる	授業中の質疑応答や、授業への参加態度・発言・作文・課題で評価する。	30%
語彙の習得や応用力をつけるためにテキストの練習問題を学習できる	テキストのほか、毎回の授業で紹介する語彙や表現を覚え、練習問題を自ら解くことができるかを評価する。	20%
授業を通じて韓国の社会や文化についてより深く理解し、韓国語で積極的にコミュニケーションできる	韓国語を通じて、韓国の社会や文化について理解し、韓国語でコミュニケーションができるかを評価する。	20%
評価の方法 授業参加度30%、課題10%、筆記試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	春学期の復習	「韓国語 I」の復習、試験の解説
2	敬語表現	尊敬形、敬語の過去形、敬語の特殊な例
3	用言の否定形	動詞や形容詞の否定文、仮定表現
4	まとめと復習	敬語表現、否定形のまとめ、応用編、復習
5	過去形(1)	用言の過去形とそのパターン
6	過去形(2)	過去形の応用パターン、過去形のまとめ
7	勧誘表現	動詞の勧誘形、位置関係の表現
8	現在進行形	用言の現在進行形、丁寧な命令表現、過去形、勧誘表現、現在進行形のまとめ、復習、韓国語のバースデーの歌紹介
9	まとめと復習	
10	可能・不可能形	「～できる、できない」といった可能・不可能を示す表現やパターン
11	意志表示の表現	願望の意志を示す表現
12	禁止を示す表現	禁止（～しないでください）表現、許諾を尋ねる際の表現
13	義務を示す表現	「～しなければならない」といった義務を示す表現
14	意志・推量を示す表現 秋学期のまとめ	用言の意志や推量に関する表現 これまでの学習を振り返って、まとめ、試験について
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会、2013年

【履修条件等】

◇「韓国語 I」を履修した学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも習った文法や語彙を使い、作文に取り組むといった姿勢を評価します。

【その他の注意事項】

◇授業に対して熱意を持つこと。

◇遅刻、欠席をしないこと。

日本語Ⅳ（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

就職活動を意識して、日本の言語文化を学び、自己表現を訓練する。

他人に与える印象も含め、自分を客観的にみること、さらにそれをどのように表現するかを考える。また、その中で、分析、統合、総括、表現へと、基本的な考え方を学んでいく。

語彙表現が与えるイメージを中心に、人物評価の語彙表現、日本人の考え方・感じ方を学ぶ。また、時間内に簡潔に述べるようになることを目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
相手との関係で表現を考える。効果的な表現方法を学ぶ	書いたものを自分で客観的にチェックし、相手に与える効果を意識できているか、書いたものから評価する。	25%
性格等を表すための語彙・表現を学ぶ	語彙の意味・用法を知り、場に応じて使えるかどうか、小テストを実施予定。また、書いたものから評価する。	15%
分析したことをまとめ、表現する	自分の来し方を振り返り、自分を再評価、相手に伝わる表現となっているか、書いたものから評価する。	25%
就活に使える長所短所の述べ方を学ぶ	作文を暗記するのではなく、自然な話し言葉で、限られた時間の中で、必要十分な表現で口頭発表ができたかどうかを評価する。	25%
評価の方法	授業態度、参加度も評価の対象となる。 授業態度・参加度10%、客観的な表現25%、語彙表現の定着15%、的確な表現25%、口頭表現25% 出席が3分の2に満たない場合には単位は与えられない。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	自己紹介	なぜ自己紹介なのか、表現するとは
2	いい自己紹介	自己紹介の目的、就活とは
3	長所短所	短所についての表現
4	自己分析	自分を客観視する
5	語彙 1	性格についての表現
6	語彙 2	語の価値
7	語彙 3	自分を表現できる語彙
8	エピソード	自分の性格を裏付けるエピソード
9	ブレインマップづくり	長所短所とエピソード
10	アウトライン作成	内容の適否を検討、アウトライン作成
11	作文	400字程度の長所短所についての作文
12	フィードバック	書き直し
13	口頭発表の準備	アウトラインに基づいて口頭発表の準備をする
14	口頭発表	時間内での発表を目指す
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇適宜プリントを配布する。

【履修条件等】

◇出席するだけでなく、意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇あらかじめ配布されたものについては、予習をすること。

【その他の注意事項】

◇適宜小テストを実施する。小テストは、欠席・遅刻しても追試はしない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

◇課題は必ず提出し、期限を厳守すること。

日本語Ⅳ（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Language IV	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ビジネス場面において、日本語によるコミュニケーションができる能力を身につけること、トラブルの解決策を探っていく力を身につけること、就職活動についての知識やそこでのアピール力を身につけることを目標とする。この授業では、「日本語Ⅱ」・「日本語Ⅲ」で身につけた基礎的なビジネス場面での日本語を使って、日本語の運用能力の向上を図るとともに、基礎の定着と発展を図る。また、文書、映像などの教材を使いながら、さまざまなビジネス場面で適切な表現を探り、課題を解決する能力を養う。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネス場面における日本語表現の習得	ビジネス場面における適切な表現を選択できるか否か、またビジネス場面における語彙を理解し使用できるかを評価する。	本試験の20%
ビジネス場面における問題解決へのアプローチ	ビジネス場面でのトラブルについてさまざまな立場から考察し、解決策を探っていく能力を身に着ける。(グループディスカッション等で、さまざまな人の考えに触れることも目的とする)	本試験の30%
文書や音声情報の処理能力の向上	文書や音声など、外部からの情報を正確に理解し、対処できること。簡単な企画立案、プレゼンテーションなどができること。	本試験の30%
自分をアピールする能力の習得	就職活動などを念頭に、自分をアピールする能力を身に着ける。また日本での就職活動について、知識を得る。	本試験の20%
評価の方法 授業参加度30%、課題40%、本試験30% 学期の3分の1を越えて欠席した場合は、単位を認めない。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の説明	授業と評価の説明、授業計画、日本語能力評価テスト
2	ビジネス日本語演習	演習 1－①
3	ビジネス日本語演習	演習 1－②
4	ビジネス日本語演習	演習 1－③
5	ビジネス日本語演習	演習 2－①
6	ビジネス日本語演習	演習 2－②
7	ビジネス日本語演習	演習 2－③
8	ビジネス日本語演習	演習 3－①
9	ビジネス日本語演習	演習 3－②
10	ビジネス日本語演習	演習 3－③
11	ビジネス日本語演習	演習 4－①
12	ビジネス日本語演習	演習 4－②
13	ビジネス日本語演習	演習 4－③
14	ビジネス日本語演習	予備日
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

◇意欲を持って学習に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇適宜指示をする。

【その他の注意事項】

◇課題は指定された期限を越えて提出しても加点しない。

◇上記の授業計画は受講人数、日本語能力評価テストの結果などを勘案して変更することがある。

社会学 I	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

みなさんは日常生活を送る中でたくさんの不思議や困難に出会うと思います。そうした思いは、多くの場合「私」の在り方を規定しようとする力との出会いから生まれています。この授業ではそうした、「私」の在り方を決めつけてくる「他者」や「常識」など、「当たり前」を押し付けてくる力について考えていきます。同時に、「私」という個人から出発して「社会」について考える研究アプローチについて学び、他者との関わり合いの中で立ち現れる社会について、多層的な視点から捉える素養を養うことを目標とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「常識」とは？
2	個人と社会	「私」の形成
3	準拠集団	どこに属するかという問題
4	相互作用(1)	パフォーマンスする「私」
5	相互作用(2)	役割を期待されること
6	相互作用(3)	他者から学ぶ
7	階級(1)	スクールカーストから考えてみよう
8	階級(2)	ここまでのまとめ
9	境界線(1)	私／他を分断する力
10	境界線(2)	人種・エスニシティ
11	境界線(3)	定義づけることの力
12	アイデンティティ	「私」と「社会」の関係
13	マス・コミュニケーション	マス・コミュニケーションの力
14	社会学的方法(1)	社会学の方法論について
15	社会学的方法(2)	まとめ

【使用教材】

- ◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ教科書として指定はしませんが、参考にすると理解に役立つでしょう。
- ◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

社会学Ⅱ	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Sociology Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、社会のありようが個人にどのようにかかわっているのかという問いを軸に、社会の自由と拘束性について考察していく。とくに、資本主義社会についての先行する研究について学ぶ。半期の授業を通して、社会学の基礎的な概念に触れ、それらが身近な問題とどう結びついているかについて考えてみよう。こうした試みを通して、現代社会の問題についてさまざまな視点から捉えようとする社会学的思考の育成を目指す。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「社会」が「私」を決定する？
2	個人とシステム	個人的アイデンティティと集団的アイデンティティ
3	共同体(1)	家族
4	共同体(2)	コミュニティ
5	共同体(3)	大衆社会
6	共同体(4)	国家
7	経済(1)	資本主義と疎外 マルクス
8	経済(2)	資本主義と合理化 ヴェーバー
9	経済(3)	経済構造と人
10	グローバル化(1)	合理化と全体主義
11	グローバル化(2)	グローバル資本主義 流動化する社会
12	現代社会の問題(1)	格差社会と自己責任
13	現代社会の問題(2)	ヘイトスピーチ
14	現代社会の問題(3)	テロリズムと西欧社会
15	社会学の方法	まとめ

【使用教材】

- ◇藤田弘夫、西原和久（著）『権力から読み解く現代人の社会学入門』有斐閣アルマ
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。
社会学にとくに興味のある方は持っているといいかと思えます。
◇その他必要な資料については教員が適宜準備して配布する。

【履修条件等】

- ◇「社会学Ⅰ」を受講した上で受けることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

法学 I (憲法含む)	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law I	選択科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

初めて法律学を学ぶ学生諸君に法律学に対する興味や関心を持ってもらい、基本的な法原則・法概念、そして法の適用（解釈）などを習得してもらうことが本講義の目的である。

法律学は、初めて勉強する人にとっては取っ付きにくい学問であり、勉強の最初の段階で違和感や苦手意識を感じてしまう人も多い。

そこで本講義では、いくつかの身近で具体的な事例を出発点として法の基礎知識を学ぶとともに、法の解釈とはどのようなものかを学生諸君と考えていくこととしたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
法律学に対する興味・関心を持つこと	身近な事例を用いることで、まずは自身の感覚や勘を頼りに考えてもらいながら、徐々に法的思考に基づいた見方ができるかを講義中の発言に基づいて評価する。	20%
憲法を中心とした法体系を理解すること	定期試験において法の成立、公布、施行の一連の流れを踏まえて上で、法の役割を問うことで評価する。	20%
法に与えられている役割を理解すること	定期試験においてそれぞれの法律の分野に関する問題を設け、理解の程度を評価する	20%
日常において発生する法律に関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律問題に対して自らの視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	40%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	
2	法と道徳	近代社会における法の意義
3	法と国家	国家による法の規制
4	憲法	憲法の役割と意義、帝国憲法と憲法
5	憲法	基本的人権および統治機構論
6	憲法	憲法改正のうごき
7	民法	日常生活の中の法の役割、権利と義務の関係
8	民法	取引におけるルール
9	民法	家族間におけるルール
10	商法	民事と商事のルールのちがい
11	会社法	企業をとりまく法制度について
12	刑法	罪刑法定主義
13	刑法	刑罰について
14	訴訟法	裁判所の種類と役割および裁判の手続き
15	まとめ	

【使用教材】

◇教科書は使用せずに授業を進めます。適宜、資料としてプリントを配布します。

なお、参考文献は以下のとおりです。

碧海純一著『法と社会（中公新書）』中央公論新社、1967年

五十嵐清著『法学入門（第3版）』悠々社、2006年

星野英一著『法学入門』有斐閣、2010年

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

法学Ⅱ	ナガキ 長岐 イクヤ 郁也
Law II	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

日常生活を営む上では法律を意識する機会は多くないものの、多くの法律が関わるものである。とくにその中心には民法が置かれており、それに付随するさまざまな法律が存在している。本講義では、民法に定められる基本的なルールを学習するとともに、日常生活のトラブルにどのようにあてはめられ、解決が試みられるのかを学習する。時としてそのルールが修正されることもあるので、この点についても適宜触れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日常生活における法の関わりを理解すること	ディスカッションを通じて民法を中心とした私法が日常生活にどのように関わるのかをイメージすることができること。	20%
法律の制度の趣旨を理解すること	ルールを理解するためには法律に定められる制度の立法趣旨を理解することが必要であるため、これについて試験において評価する。	30%
法律に定められるルールを事実に当てはめることができること	実際の出来事にどのような法律の制度を当てはめることができ、その結果としてどのように処理することが可能であるのかを試験において確認する。	40%
日常において発生する法律が関わる問題に対して自らの考えを述べることができること	定期試験において、日常のニュースなどで多くの事件を知ることができるが、それらに対して法律の視点からどのように捉えることができるか、また通常の視点とはどのような差異が生じるのかを認識することができるかを評価する。	10%
評価の方法 講義内でのディスカッション等の発言と定期試験の結果をもって総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業内容および授業方針の説明
2	民法の概要	民法典についての説明
3	契約(1)	売買契約の成立、契約自由の原則
4	契約(2)	契約の分類、契約の有効性
5	契約(3)	公序良俗違反、一般条項、強行規定・任意規定
6	契約(4)	債務不履行、強制履行、解除
7	契約(5)	債務不履行、損害賠償
8	不法行為(1)	過失責任主義・無過失責任主義
9	不法行為(2)	損害賠償、立証責任
10	所有権(1)	物権・債権の峻別、物権法定主義
11	所有権(2)	所有権の取得・制限
12	所有権(3)	対抗問題、非典型担保
13	人(1)	権利能力、意思能力、行為能力
14	人(2)	法人、擬制の意義
15	まとめ	近代市民法の原則とその修正、民法改正

【使用教材】

◇教科書は使用せず授業は進める。適宜、資料としてプリントを配布する。

◇参考文献等については、講義中に適宜案内する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇講義中の私語は厳禁とする。

心理学	サトウ エミ 佐藤 恵美
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、科学としての心理学の基本的な理論と方法論を学びます。人の心理と行動の特徴について正しい知識を得、心理学を学問として正しく理解することが目標です。

「心理学」では、発達心理学・生理心理学・知覚心理学・認知心理学・学習心理学の5領域をおもに学習します。いずれも心理学の基礎的な領域であり、心のメカニズムの理解には欠かせないテーマです。

授業は講義形式を中心とし、適切な時期に、必要に応じて学習内容を深めるための課題などを組み合わせていきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
発達心理学	生涯発達心理学の概念と理論について正しく理解し、人が心理的社会的に変化する発達プロセスについて理解する。	20%
生理心理学 (心と脳)	神経系の機能性ならびに脳の構造の概略を把握し、説明することができる。さらに、それらの知識を結びつけて、心身二元論ならびに心身相関について理解している。	15%
知覚心理学	知覚のメカニズムについて理解したうえで、社会的知覚、錯視や立体視、運動視等の原理をある程度説明できる。	20%
認知心理学 (認知と社会適応)	欲求ならびに葛藤、欲求不満の定義・理論について適切に説明でき、適応機制について正しく理解している。また、身近な現象にあてはめて説明できる。	25%
学習心理学 (学習と記憶)	行動主義に基づく学習理論について、実験的手法を踏まえて理解できる。記憶と忘却のメカニズムについて簡単な説明ができる。	20%
評価の方法	本試験：50% *テキスト・資料・辞書等、一切持込不可。 レポート：30% *章ごとに課題指示。 平常点：20% *課題提出状況・授業態度を含む。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	心理学とは何か？	科学としての心理学
2	発達	(1) 人の発達の特質 (2) 社会性の発達
3	発達	(3) 心理的社会的発達段階説
4	生理	(1) 神経系の機能性 (2) 脳の構造
5	生理	(3) 心身相関論
6	知覚	(1) 知覚のメカニズム・社会的知覚
7	知覚	(2) 錯視・知覚の全体性
8	知覚	(3) 運動知覚
9	認知	(1) 欲求 5 階層説 (2) 葛藤
10	認知	(3) 欲求不満 (フラストレーション)
11	認知	(4) 適応 (防衛) 機制と社会的不適応状態
12	学習	(1) 学習過程のメカニズムと理論
13	学習	(2) 学習理論 (行動主義) (3) さまざまな学習理論
14	学習	(4) 記憶と忘却のメカニズム
15	総括、達成度の確認	総括および学習達成度の確認のためのテスト

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

◇参考書：授業中に指示する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業ごとに指定する章を毎回、熟読してこること。

【その他の注意事項】

◇レポートなどの提出物は必ず提出すること。

◇各章終了時に、講義の中でレポート課題（PCで作成）を指示する。

心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

心理学を初めて学ぶ学生諸子に人間行動を理解するための初歩的な考え方を概説し、人間行動の発生の仕組みを理解できることを到達目標とする。本講義では心理学全体を体系的に学ぶのではなく、とくに人間の心理を理解する上で必要となる5つの基礎的な領域を取り上げて学ぶことにする。内容としては、①身の周りの環境を人はどのように知覚するのか、②人間の発達の仕組みと変化、③青年期のキャリア形成、④学習行動と記憶のメカニズム、⑤性格と人格等である。本講義は講義形式を主体とするが、討議法も随時用いる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
我々が身の周りの環境を把握する際に関わる知覚・認知特性を把握する	感覚器を通じて外部環境から取り入れた知覚情報を基に、予測・判断する認知過程を認知心理学の観点から学び、我々が環境を意味づける仕組みへの理解力を評価基準とする。	25%
我々が生まれてから死に至るまでの発達と変化の過程を把握する	生命の誕生に始まり、母と子の愛情、青年期のアイデンティティ、および高齢者問題と家族のライフサイクルの理解を評価基準とする。	25%
我々が行うさまざまな学習とそれを支える記憶システムの特性を把握する	記憶と大脳の関係、学習理論、記憶の種類、および記憶の仕組みと変容への理解力を評価基準とする。	25%
性格、パーソナリティ、および自己の概念化について理解する	我々はさまざまな社会的な場面において、さまざまな振る舞いをするが、それらの基になる性格やパーソナリティの特性や理論への理解力を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方、心理学史
2	知覚特性①	知覚することの意味、図と地、群化の法則
3	知覚特性②	錯視、知覚の主観性
4	発達①	発達することの意味、発達段階と発達課題、
5	発達②	加齢と知的発達、加齢と性格の変容、人生の転機
6	青年の心理①	友情と恋愛、自己像の探求、アイデンティティ探究
7	青年の心理②	青年期の時間的展望、青年期のキャリア形成
8	学習①	学習の意味、学習の仕組み、
9	学習②	やる気と無気力の仕組み
10	記憶①	記憶の構造、記憶と忘却の仕組み
11	記憶②	知っている記憶と覚えている記憶、記憶の変容
12	性格・パーソナリティ①	性格とは何か、性格類型学、性格検査
13	性格・パーソナリティ②	性格に関する理論、性格の形成要因
14	性格・パーソナリティ③	見る自己と見られる自己、理想と現実の自己像の関係
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の到達レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

心理学	マツダ ミトコ 松田 美登子
Psychology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とする。とくに、人間の(1)心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に授業を進める。人間の発達の仕組みと発達的变化、(2)人間の欲求と環境の不思議、(3)学習行動と記憶のメカニズム、(4)性格の見方・とらえ方はどのように形成されるか、などである。これらの基礎的知識が応用され発展する領域について説明し、専門科目へのモチベーションを高める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
人間の発達の仕組みと発達的变化について理解する。特に、青年期の心の発達を中心に理解を深める	レポートと試験によって評価。人間の誕生から死を迎えるまでの一連の発達プロセスや発達段階のトピックスについての理解に関する設問に回答できること。青年期の心理的特徴や問題について学習し、考察した内容をレポートにより回答する。	30%
人間の欲求と環境の不思議、学習と記憶についての基礎的な知識を理解すること	試験により評価。心理学は特別な学問ではなく日常生活と密接に関係した学問である。これらのことを理解するためには授業の中で紹介された内容や知識の習得が求められる。基本的な設問に回答できることで理解の程度を評価する。	50%
心理テスト・性格テストの実施を通じて、人間の性格や性格の形成について理解する	レポートにより評価。心理テスト・性格テストの結果をまとめ考察することができる。自分の性格の理解につなげながら、人間の性格形成や性格の多面性についての理解の程度をレポートにより回答する。	20%
評価の方法 ①平常点（授業後のリアクションペーパーの提出）10% ②レポートおよび宿題提出30% ③定期試験60%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的と進め方、成績評価基準等の説明 (1)心理学とは? (2)心って何?心はどこに在るの?
2	発達心理	(1)発達とは? (2)発達のしくみ
3	発達心理	(3)発達段階の特徴[1]乳児期～思春期
4	発達心理	(3)発達段階の特徴[2]青年期～老年期
5	認知心理	(1)知覚の成立 モノの見え方の不思議
6	認知心理	(2)知覚の全体性 知覚に及ぼす欲求や価値
7	適応心理	(1)欲求とは? (2)欲求5階層説 (3)葛藤と欲求不満
8	適応心理	(4)適応機制 (5)不適応行動
9	学習心理	(1)学習とは? (2)学習過程のメカニズム[1]
10	学習心理	(2)学習過程のメカニズム[2]無気力は学習される?
11	学習心理	(3)記憶と忘却
12	性格心理	(1)性格とは? 性格の見方
13	性格心理	(2)性格の理解 性格の形成
14	性格心理	(3)心理アセスメント (心理テスト・性格テスト)
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：岡村一成（編）『心理学—行動の科学—』東京教学社

【履修条件等】

◇心理学に興味を持ち、意欲がある学生。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に指示した重要事項の内容を調べておくこと。

◇課題が与えられた際は、提出できるように仕上げておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<p>哲学</p>	<p>スミダ コウジ 隅田 浩司</p>
<p>Philosophy</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

この授業では、哲学を学ぶうえで最も大切な論理思考について、徹底的に学習することを目的としています。哲学とは、じっくり考える習慣がなければその本質を理解することはできません。たとえば、たくさんの哲学者の名前や業績の概要を試験前に暗記するだけで終わってしまう哲学の授業は時間の無駄です。そこでこの授業では、皆さんが、本格的な哲学的思考を身につけるための前提となる論理思考を鍛えることを最優先しています。したがって、講義は、すべてディスカッション形式の対話型の授業となります。対話型という以上は、学生は、授業で常に意見を求められます。座っているだけで単位が取れると思っている人はこの授業には向いていません。しかし、この授業を履修し、しっかり議論に参加するならば、必ず、今までとは違う世界が開けるはずです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
論理の構造をつかむ	文章のつながりから、論理を見だし、正確に文章の意味を読み取ることができるかどうかを、対話型授業の中で評価します。	20%
論証の基礎を学ぶ	自分の意見を適格に論証することができるか、あるいは、他人の論証を構造的に理解し、その上で、その論証の問題点を指摘できるかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
演繹法	演繹法について、その正確な運用を身につけるとともに、演繹法に基づく論理の分析の基本パターンを身につけることができるかどうかについて、対話型授業の中で評価します。	30%
文章構成力	論理的に一貫した論文、レポートなどを書くことができるかどうかについて、対話型授業、授業内レポートの中で評価します。	20%
評価の方法	授業中の授業態度や対話型授業への参加姿勢を70%、定期試験の成績評価30%の比率で成績評価を行います。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	導入講義を行います
2	論理の基礎	言葉のつなぎ方による論理の基礎を学びます
3	論理の構造	言葉の指示関係から論理構造を分析することを学びます
4	主張の作り方	自分の意見・主張を組み立てるやり方を学びます
5	論証とは？	論証とは何か、について説明します
6	演繹と推測	延期と推測の違いについて説明します
7	価値評価	価値評価の論理とは何か、について説明します
8	否定について	否定の種類を正確に理解する大切さを学びます
9	条件について	逆・裏・待遇を使いこなすことを学びます
10	条件連鎖	条件が連鎖する仕組みについて学びます
11	推論の技術	推論における存在文について学びます
12	消去法	消去法について学びます
13	背理法	背理法について学びます
14	議論を作る	議論や批判の仕方について学びます
15	期末試験	学期末試験と解説講義

【使用教材】

◇とくになし。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の終わりに予習事項を指示します。またインターネットを通じて、予習や課題のヒントを連絡することもあります。具体的な進め方は、講義の際に説明します。

【その他の注意事項】

◇この授業は、日本語で文章の論理を分析することになります。そのため、かなり大量の日本語の文章を読むことになります。履修する際は、この点について、注意してください。

◇対話型の授業となりますので、講義中に、居眠りをしたり、参加意欲が乏しいと判断した学生は、その場で履修停止とします。

◇私語は厳禁です。私語については、とくに厳格に取り扱います。

文化人類学	<small>ニイジマ ヨシエ</small> 新嶋 良恵
Cultural Anthropology	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本授業では先行する文化人類学の研究成果を通して、世界の諸地域に暮らす人々について学ぶとともに、自文化の多様性に目を向けていく。具体的には、グローバル化の流れの中で、「文化を押しつけずに認めていくこと」や文化が交わり新たな形態へと変化していくことなど、異文化との関わりにおいて文化人類学が提起してきた問題について考察する。そうした取り組みの中で、現代的な課題に向き合う力を育んでいくことを授業の目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
平常点	授業での意欲的な取り組みや理解しようとする姿勢を考慮します。	20%
レポート	授業の内容に関する映像を観て、レポートを作成してもらおう。提出は学期末。	60%
その他	授業の内容についての小試験を学期中に行う。 (予定では2回)。	20%
評価の方法 授業内での態度、小試験、最終レポートの複合的な結果を勘案します。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	文化人類学の意義。異なる視点から見つめてみよう。
2	フィールドワーク	どういう研究手法があるの？
3	文化的他者	生き方を学ぶ
4	文化人類学の試練	自／他という境界と制度
5	抵抗	国という境界と歴史性
6	文化相対主義	進化主義と文化相対主義
7	個別文化	個別文化としての自文化
8	文化とは何か(1)	文化とパーソナリティ
9	文化とは何か(2)	異種混淆。ハイブリッドな文化のあり方
10	関わり合いを考える(1)	隣り合う異文化
11	関わり合いを考える(2)	理解しないまま共存していくこと
12	現代的な課題(1)	個人の足場となる文化とは？
13	現代的な課題(2)	自分の中の多元性を見つける
14	多文化主義(1)	多文化主義は上から目線の政策？
15	多文化主義(2)	まとめ

【使用教材】

- ◇必要な資料については教員が適宜準備して配布する。
- ◇小田亮著『構造人類学のフィールド』世界思想ゼミナール
教科書として指定はしませんので必ず購入する必要はありません。
文化人類学に興味のある方は持っているといいかと思えます。

【履修条件等】

- ◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇事前に指定されたキーワードについて、教科書を使って調べておくこと。キーワードは毎回の授業で発表する。

【その他の注意事項】

- ◇授業内での態度、理解しようとする取り組みは、成績に反映するものと考えてください。

文学（現代文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、日本の現代文学における何人かの重要な作家の作品を取り上げ、そこからどのような作者の思いが読み取れるかについて考える。それぞれの作者の文章の特徴や、表現の傾向を分析したり、作者の生活した土地や、交友関係、生い立ちなどが作風にどのように影響を与えているかについて考えたりしてみたい。また、お互いに、自分の好きな作家の作品を紹介し合い、各自の読書の世界を広げるような試みも行いたい。

この授業をきっかけに、読書の楽しみ方を学び、読書習慣を身につけてもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本文学の歴史	明治時代以降の日本文学の歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
芥川龍之介の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	芥川龍之介の作品の内容や、表現の特徴、芥川の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
太宰治の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	太宰治の作品の内容や、表現の特徴、太宰の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
村上春樹の作品を読んで、内容や表現の特徴について考える	村上春樹の作品の内容や、表現の特徴、村上の人間性、歩んだ人生などについて理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方、感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文や発表の内容、受講態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	日本文学の歴史	明治以降の日本文学の歴史について。
3	さまざまな作家の作品	重要な作家とその作品の内容・特徴について。
4	芥川龍之介の文学	芥川龍之介の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、芥川我的生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
5	芥川龍之介の文学	
6	芥川龍之介の文学	
7	太宰治の文学	太宰治の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深めるとともに、太宰治の生活環境や交友関係が作品に与えた影響について考える。
8	太宰治の文学	
9	太宰治の文学	
10	村上春樹の文学	村上春樹の作品を読み、表現の特徴や内容について理解を深める。また、海外で起こった村上春樹ブームや、村上の政治や社会問題に関する発言などについても考える。
11	村上春樹の文学	
12	村上春樹の文学	
13	私の薦める作家・作品	他の人に薦めたい作家や作品について、お互い紹介し合い、意見を交換する。
14	私の薦める作家・作品	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇読書が好きな人、今は苦手でも読書してみたいと思っている人など、積極的に授業に参加できる学生に履修してもらいたい。

◇日本語で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作家や作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇わからない言葉が出てきたら、積極的に辞書を使って調べること。

<p>文学（源氏物語）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

『源氏物語』に描かれている女君たちのなかでもとくに印象深い、紫の上、葵の上、六条御息所、藤壺女御、そして光源氏の母である桐壺更衣らを取り上げ、それらの女性がどのように描かれているのかに着目しながら『源氏物語』の本文を読み進めていく。

古語や文語文法の知識を深めるというよりも、私たちと同じ日本人が、1000年前にはどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
『源氏物語』の作者や物語執筆の背景などについて理解する	歴史的な人物について答えられるだけでなく、漢字で正しく書けるようにすること。設問に対する回答、試験によって評価。	20%
授業で読むテキスト本文が、現代語訳のどの箇所にあたるかを理解し、正しく読む	テキストの音読を指名された時に、正しく読めるかどうか。	20%
本文に描かれている平安時代の風俗や習慣、考え方などについて理解を深める	授業で説明を受けた語句の意味等を正しく理解できているかどうか。また、漢字で正しく書けるかどうか。設問に対する回答、試験によって評価。	40%
『源氏物語』の登場人物について	本文に登場する人物について、お互いの関係を理解し、正しく系図にまとめられるかどうか。設問に対する回答、小テスト、試験によって評価。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上の出席で、受講態度・小テスト等20%、試験80%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイドダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	桐壺更衣	「桐壺」の巻を中心に講読し、平安時代の後宮や平安貴族の考え方、当時の結婚観等について解説する。
3	桐壺更衣	
4	桐壺更衣	
5	藤壺女御	藤壺女御に関する記述をピックアップして読み、光源氏の生涯に藤壺が与えた影響について考察する。
6	藤壺女御	
7	葵の上	「葵」の巻を中心に講読する。とくに「車争い」前後の葵と六条の心理を読み取り、この悲劇の原因をさぐる。
8	葵の上	
9	六条御息所	車争いの後に六条御息所の身に起こった現象を考察し、平安時代の人々の思想について理解を深める。 光源氏と六条のその後を、テキストで読み味わう。
10	六条御息所	
11	六条御息所	
12	紫の上	紫の上に関する記述をピックアップして読み、紫の上を造形した作者の紫式部の意図を考察する。平安時代の結婚形態について解説し、女三の宮の悲劇が生じた原因を考察する。
13	紫の上	
14	紫の上と女三の宮	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇秋山虔他編『源氏物語読本』筑摩書房

【履修条件等】

- ◇日本語のテキストを音読する能力があること。
- ◇日本の伝統や歴史に興味があること。
- ◇日本の古い言葉で作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇前回までに登場した人物について整理し、理解しておくこと。
- ◇前回までの授業で説明を受けた古語の意味を理解しておくこと。また習った漢字を読むようにしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇テキストを持参しない場合は欠席と見なすので、必ずテキストを購入し、毎時間持参すること。

<p>文学（歌舞伎）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

江戸時代から演じられ続けている日本の伝統芸能、歌舞伎を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、歌舞伎の成立や歴史、特徴、他の古典芸能との関連、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
歌舞伎の歴史について正しい知識を身につける	歌舞伎成立以前の芸能の歴史に始まり、江戸時代から近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の特徴について正しい知識を身につける	歌舞伎が演じられる舞台の構造、歌舞伎の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフなど、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
歌舞伎の演目について自分の意見や感想を述べる	ビデオで鑑賞した歌舞伎の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
歌舞伎が現代とどのようにつながっているかについて考える	歌舞伎が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べることができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	歌舞伎の歴史	江戸時代から現代に至る歌舞伎の歴史について。
3	歌舞伎の特徴	歌舞伎と他の演劇との違い、歌舞伎らしさとは何か、等という点から、歌舞伎の特徴を学ぶ。
4	歌舞伎の特徴	
5	歌舞伎の登場人物	歌舞伎の登場人物の種類や特徴について。
6	歌舞伎の舞台	歌舞伎の演じられる舞台の構造と特徴について。
7	時代物と荒事	歌舞伎の時代物や荒事に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
8	時代物と荒事	
9	時代物と荒事	
10	世話物	歌舞伎の世話物に見られる特徴や、代表的な演目の内容、鑑賞のポイントなどについて。
11	世話物	
12	歌舞伎の音楽	歌舞伎で演奏される音楽の特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文学（古典文学）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Literature	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、現代に生きるわれわれにも少なからず影響を与えている代表的な古典文学作品や、古典文学の影響を受けて書かれた近現代の小説を取り上げ、あらすじを知るとともに、その一部については原文で読み味わう。さらに、そこに描かれる昔の風俗や考え方についての講義を通して、日本人としての常識を身につけ、教養を深めることを目標とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
和歌の歴史や用語について正しく理解する。和歌の現代語訳	和歌文学の歴史や用語を理解し、和歌を自分の言葉で現代語訳できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『今昔物語集』の特徴や説話の内容について正しく理解する	説話のあらすじや語句の意味、漢字の読み、説話のおもしろさのポイントなどについて正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
『平家物語』のあらすじを正しく理解する。『平家物語』をもとにした芸能の特徴について考察する	『平家物語』の主な登場人物や事件について正しく答えられるかどうか。『平家物語』と関連深い芸能である平曲や狂言などの特徴を説明できるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
江戸時代の文学作品のあらすじ、特徴を正しく理解する	江戸時代の文学の特徴や、あらすじ、登場人物について正しく答えられるかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、レポートを提出すること。 レポート30%、試験50%、感想文などの内容・受講態度20%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて。
3	百人一首の恋歌	百人一首の恋歌を読み味わい、昔の人々と現代人との共通点や相違点について考察する。和歌を題材に作られた漫画や歌など、現代に与える影響について考える。
4	百人一首の恋歌	
5	百人一首の恋歌	
6	今昔物語集	『今昔物語集』の説話を読み、現代人との共通点や相違点について考察する。
7	今昔物語集	
8	今昔と芥川龍之介	『今昔物語集』所収話と、それをモチーフに書かれた芥川龍之介の小説『藪の中』を比較する。
9	今昔と芥川龍之介	
10	平家物語	『平家物語』のあらすじや人物関係を理解する。那須与一などの有名な場面をいくつか読み、さらに平家琵琶や『平家』の一場面を基にした狂言などの芸能を鑑賞する。
11	平家物語	
12	平家物語	
13	曾根崎心中	『曾根崎心中』のあらすじや人物関係を理解する。文楽の「曾根崎心中」をビデオで鑑賞する。
14	曾根崎心中	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

【履修条件等】

◇高校時代に古典を選択していなかった人も十分受講可能だが、少なくとも文学に興味関心のある人に履修してもらいたい。

◇日本の古い言葉で書かれた文学作品を読むので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇前回までに勉強したことは、きちんとノート整理し、理解した上で次の授業に臨むこと。

◇高校時代の教科書や、辞書、事典などで、授業で取り上げる作品の概要を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇レポートを一回課すが、何でもインターネットで調べて済ませようとせず、本で調べて勉強するようにしてほしい。

<p>文学（能・狂言）</p>	<p>アミモト ナオコ 網本 尚子</p>
<p>Literature</p>	<p>選択科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

600年以上前から演じられ続けている日本の伝統芸能、能・狂言を取り上げ、ビデオ教材を用いながら、能・狂言の成立や歴史、他の文学作品への影響、鑑賞のポイントなどについて講義する。受講者全員で古典芸能を鑑賞に出かけることなどはしないが、個人的に鑑賞の機会を持ってくれることを期待する。

これからの国際化の時代、海外に出る機会もますます増えるだろう。諸外国の人々に、日本の伝統について堂々と説明できるようになってほしい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
能・狂言の歴史について正しい知識を身につける	能・狂言以前の芸能の歴史に始まり、形成期、大成期、近現代にいたるまでの歴史を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の特徴について正しい知識を身につける	能・狂言が演じられる能舞台の構造、能・狂言の登場人物に見られる特徴、衣装、大道具・小道具、セリフ、謡、舞など、現代演劇と違う特徴を理解しているかどうか。試験や小テスト、授業での質問への答え方などで評価する。	25%
能・狂言の演目について感想や意見を述べる	ビデオで鑑賞した能・狂言の演目について、あらすじや内容、鑑賞のポイントを理解しているかどうか。自分の言葉で感想や意見を述べることができるかどうか。集中してビデオを鑑賞できたかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
能・狂言が現代とどのようにつながっているかについて考える	能・狂言が現代まで演じ続けられていることに対して、その理由や、現代社会に与えている影響などについて、自分の言葉で意見を述べるができるかどうか。試験や感想文などで評価する。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、感想文などの課題を提出すること。 試験80%、感想文の内容、ビデオの鑑賞態度等20%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	能・狂言の歴史	能・狂言誕生以前の芸能から近現代にいたるまでの能・狂言の歴史と特徴を学ぶ。
3	能・狂言の特徴	
4	狂言の登場人物	狂言の登場人物の種類や特徴について。
5	狂言の笑いの特徴	狂言の笑いの特徴と分類について。
6	狂言面や小道具	狂言面や小道具の種類や使い方について。
7	狂言の分類	狂言の曲柄による分類について。
8	能の登場人物	能の登場人物の種類や特徴について。
9	能の謡と舞	能の謡と舞の特徴と種類について。
10	能面や小道具	能面や小道具の種類や使い方について。
11	能の分類	能の曲柄による分類について。
12	能の楽器	能の楽器の種類と特徴について。
13	能・狂言と歌舞伎	能・狂言から作られた歌舞伎演目について。能・狂言の演目と歌舞伎演目との演じ方の違いについて。
14	能・狂言と歌舞伎	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考図書：網本尚子訳『角川ビギナーズクラシックス 謡曲・狂言』角川文庫
『狂言ハンドブック』（三省堂）
野村萬斎著・網本尚子監修『What is 狂言?』檜書店
『能って何?』新書館

【履修条件等】

- ◇古典芸能や、演劇、ダンス、音楽などに、少しでも興味を持っている学生に履修してもらいたい。
- ◇日本の古い言葉で演じられる芸能を、字幕なしで鑑賞するので、留学生は自分の日本語能力を十分考慮した上で受講すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習の必要はないが、能楽堂や劇場などで実際に能、狂言、歌舞伎を鑑賞した人は、感想文を提出すること。提出された感想文は、成績評価に含める。

【その他の注意事項】

◇ビデオ鑑賞することが多い授業なので、遅刻をすると他の受講生に迷惑をかけることになる。気をつけること。

文章表現法（基礎）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習したり、新聞に出てくるレベルの漢字を練習したり、敬語の使い方を実践練習したりといった、基礎的な内容の学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。小テスト・宿題・試験で評価。	25%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方・小テスト・試験で評価。	25%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。小テストと試験で評価。	25%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙で評価。	25%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	書き言葉と話し言葉の違い、正しい文体の選び方、助詞の使い方、語句の対応のさせ方、明確な修飾語の書き方、正しい読点の打ち方など、文章を書く上での基本事項を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	正しい文章の書き方	
6	日本語の知識	
7	日本語の知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの基本的な日本語の知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。
8	日本語の知識	
9	敬語の使い方	
10	敬語の使い方	敬語の種類や使い方の基本的な知識を、練習問題に取り組むことで学ぶ。さらに、具体的な日常の場面における敬語の使い方の実践的練習を行う。
11	敬語の使い方	
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	
14	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
15	総括・達成度の確認	
		今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（実践）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、主に「書く」ことに重点を置き、さまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、読みやすく、正しい文章の書き方を練習問題を通して身につけ、その知識、技術を踏まえて、描写文、エッセイ、小論文、レポートなどを書いていく。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
読みやすい文章の書き方を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力しているかどうか。また、小テストや宿題の問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せるかどうか。小テスト、提出課題の内容、試験で評価する。	25%
明確な文章が書けるようになる	何を述べたいのかが、読者に明確に伝わるように文章が書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	30%
それぞれの文章の特徴を踏まえた、適切な文章が書けるようになる	レポート、小論文、エッセイなどが、それぞれどのような目的で書かれる文章なのかが正しく理解できているかどうか。形式に適った文章が書けたかどうか。提出された課題の内容、試験で評価する。	30%
誤字脱字のない、正確で読みやすい文章が書けるようになる	下書き、推敲の手順を踏まえて課題を書いているかどうか。誤字脱字に気をつけて書けたかどうか。提出された課題の内容で評価する。	15%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験25%、レポート・手紙などの課題の評価50%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	文章の書き方	
4	自己紹介文	読者に強くアピールできるような自己紹介文を書く。
5	メールの書き方	失礼のないメールの書き方を学ぶ。
6	さまざまな文章	エッセイや描写文など、さまざまな文章課題に取り組んで、文章力を磨く。
7	さまざまな文章	
8	小論文	小論文の基本的な構成や、書き方について学び、課題文型小論文とテーマ型小論文を書く。
9	小論文	
10	小論文	
11	レポート	レポートとは何かを正しく認識し、その基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた課題について、自分で資料をさがし、実際にレポートを書く。
12	レポート	
13	レポート	
14	レポート	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、とくに留学生は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。また、提出課題の多い授業なので、日本人学生の場合も、国語力に自信のない人は、よく考えてから受講してほしい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。
指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。
◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（総合）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。本講義では、ひとりひとりが「読む」、「書く」に関するさまざまな課題に取り組み、お互いに批評しあうことによって、表現力を高めることを目標とする。

具体的には、練習問題を解いて添削指導を受けたり、与えられた課題について実際に自分で調査し、考えをまとめて短いレポートを作成したり、現実の場面に即した敬語の使い方を実践練習したり、といった学習を行う。大学生としてすぐに役立つ表現力や知識を身につけるよい機会であるので、真剣に取り組んでもらいたい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
練習問題を解くことによって、正しい文章の書き方を学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題について、授業で学んだポイントをふまえた正しい答えを導き出せること。	10%
日本語についての基礎知識を身につける	授業時間に、漢字や、語の正しい意味、語句の正しい用法などの練習問題に答えること。その答え方と試験で評価。	10%
レポート・小論文の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式のレポートが書けること。レポートと試験で評価。	30%
正しい敬語の使い方を覚える	尊敬語・謙譲語の正しい使い方を身につけること。生活のさまざまな場面で、正しい敬語を使いこなせるようになること。試験で評価。	30%
手紙の書き方を覚える	与えられた課題について、授業で学んだポイントをふまえ、正しい形式の手紙が書けること。提出した手紙と試験で評価。	20%
評価の方法	3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、レポート・手紙などの課題の評価25%、受講態度25%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	正しい文章の書き方	練習問題に取り組み、文法的に正しく、読みやすく、明確な文章の書き方について学ぶ。
3	正しい文章の書き方	
4	正しい文章の書き方	
5	日本語の基礎知識	難読漢字、四字熟語、慣用句、ことわざなどの練習問題に取り組む。
6	日本語の基礎知識	
7	レポートの書き方	レポートとは何かを正しく認識し、基本的な形を身につけ、論理的な文章の書き方、用語について知識を深める。 与えられた資料に基づいて、実際にレポートを書く。
8	レポートの書き方	
9	レポートの書き方	
10	レポートの書き方	
11	敬語の使い方	敬語の種類や使い方について、練習問題を用いて学び、身につける。
12	敬語の使い方	
13	手紙の書き方	手紙の基本的な形式や、ルールについて学び、礼状や近況報告の手紙などを実際に書く。
14	手紙の書き方	
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇いわゆる留学生向けの日本語の授業ではなく、日本語を十分に習得できている人向けの応用的な内容であるので、留学生の受講希望者は、自分の日本語能力を考慮した上で受講してほしい。日本語の応用力が不足している留学生には、「文章表現法（基礎）」の履修をすすめる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に文章を書くことが勉強である。練習問題や課題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

文章表現法（漢検）	アミモト ナオコ 網本 尚子
Contemporary Japanese Writing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

正しく美しい日本語を用いて自分の考えを表現できることは、社会人にとっての必須教養である。そのためには、日常的に使う漢字に関する知識は絶対に必要なものと考えられる。本講義では、漢字検定準2級、2級、1級の問題に取り組むことにより、大学生にとって必要な漢字の知識を身につけ、それを使いこなせるようになることを目標とする。

レベルに応じて準2級と2級の問題を練習し、さらなるレベルアップを目指す人には、1級合格の指導も行う。また、基本から勉強をしたい学生には、3級レベルの問題も準備する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
準2級、2級に配当された漢字の読みを覚える	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
出題予想漢字を分野別に学び、正しい知識を身につける	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	30%
特殊な読みや当て字など、難読漢字について学ぶ	授業中に課された問題を、自分の力で解こうと努力すること。また、小テストや宿題で出された問題に積極的に取り組むこと。小テスト・宿題・試験で評価。	20%
模擬試験に取り組む、出題形式に慣れる	間違えた問題は何度も繰り返し復習し、知識が定着するよう努力すること。試験で評価。	20%
<p>評価の方法 3分の2以上出席し、宿題をすべて提出すること。 試験50%、課題提出や小テストの点数25%、受講態度25%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方や注意事項の説明。
2	漢字の読み	漢字の音読みを中心に練習問題に取り組む。
3	漢字の読み	漢字の訓読みを中心に練習問題に取り組む。
4	漢字の部首	練習問題を解くことで、主な漢字の部首を覚える。
5	熟語の構成	熟語の構成のしかたを理解する。
6	熟語の構成	与えられた漢字を用いて、熟語を作れるようになる。
7	対義語・類義語	対義語、類義語の関係を理解する。
8	四字熟語	四字熟語の組み立てを理解する。
9	四字熟語	練習問題を解くことで、主な四字熟語を覚える。
10	送り仮名	送り仮名のルールを理解する。
11	同音同訓異字	練習問題を解くことで、同音同訓異字を覚える。
12	書き取り	正確に漢字が書けるようになる。
13	書き取り	誤字訂正ができるようになる。
14	模擬試験	本番の形式で模擬問題を解き、自分の弱点を理解する。
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇使用せず。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業時間内にできなかった練習問題は、各自自宅でやっておくこと。

◇指示された問題について、自分で調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇出席回数が全体の3分の2に満たない者は受験停止とする。

◇授業に出席するだけでなく、実際に漢字を覚えることが勉強である。練習問題や宿題は必ず自分の力でやり遂げようとしてほしい。

芸術論	スズキ ミカ 鈴木 みか
Theory and Art of Music	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

今、我々が生きる現代社会における芸術とは、もはや芸術のための芸術ではあり得ないもので、それは人々のため、多くの大衆のためになる芸術でなくてはなりません。

癒やしのための芸術、すなわち、音楽療法 (Music Therapy)、絵画療法 (Picture Therapy) を主体とする芸術療法 (Art Therapy)、そして、人々が日常生活の中で感じるストレスの解消、改善にも芸術は役立つべきでしょう。そんなスタンスをとりながら、学生諸君の持つ芸術へのあこがれや才能を発見し、それを伸ばしていく協力ができたらと思います。

【学習の到達目標と評価基準】【授業計画】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
健康生活に必要な呼吸法、発声法を身につけること	①名曲「赤とんぼ」を一度のブレスで歌い得るかどう か。 ② p (ピアノ) から f (フォルテ) への声量の変化を注 意深く観察して評価する。	20%
優れた芸術と平凡な芸術とを見分けるセンスを身につけること	多種の芸術に接触させて、その反応を注意深く観察し て評価する。	20%
自分の情感を詩と曲に表現できる音楽力を養う訓練をする	短い時間の中で、楽曲のフレーズをまとめる能力をテ ストする。	20%
「歌うようにしゃべり、しゃべるように歌う」このことを理解できること	同じ詩、同じ曲をしゃべるように歌った後、次はより カンタービレに歌ってみて、その能力を評価する。	20%
評価の方法	授業参加度20%、期末試験の点数80%、その他、授業中のクラスメイトや教師に対するアピール、パフォーマンス度も評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容	
1	ガイダンス		
2	詩を作ろう	金子みすゞ、中原中也、星野哲朗を研究する作詞教室	指導曲（大漁）
3	芸術療法について	浮世絵について触れてみよう	指導曲（草原情歌）
4	カルチャーオブカラオケ	カラオケ文化とは？	指導曲（浜辺の歌）
5	天才ピアニスト辻伸行とトルコマーチ		指導曲（花）
6	ウイーンフィルニューイヤークンサート	アンコール曲「ラデッキ-行進曲」のタイミング	指導曲（ゆりかごの唄）
7	Ludvig van Beethoven そしてカラヤン	第九シンフォニーの日本初演はいつでしょう？	指導曲（喜びの歌）
8	日本の芸術論1	世阿弥元清の花伝書	指導曲（椰子の実）
9	日本の芸術論2	千利休の茶道論	指導曲（百万本のバラ）
10	ビートルズの時代	ビートルズを発掘した3人の男	指導曲（イエスタデー）
11	A. Mozart と美空ひばり	二人の天才の比較	指導曲（お祭りマンボ）
12	芸術と模倣	すべての芸術は模倣から始まる	指導曲（上を向いて歩こう）
13	落語芸術論	古典落語を聞こう	指導曲（竹馬の友）
14	期末試験の説明と参考資料配布		
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する	

【使用教材】

◇特定のものを使用せず、そのテーマに最適なものをコピーして配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくになし。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

生命科学	フルタ レイコ 古田 玲子
Life Science	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

ヒトと他の生物の共通点と相違点、がん、若者に蔓延している Sexually Transmitted Infection (S T I : 性感染症)、人畜共通感染症、有害物質、有害生物、臓器移植、生殖医療および生物の多様性について学び、生命現象を理解し、また健康を維持するために必要な知識を養うことを目的としています。最先端の研究成果や最近の話題を取り入れながら判りやすく解説していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
生物学的および医学的な基礎知識を学ぶ	本試験で評価する。人間と他の生物の共通点と相違点、人体の臓器と機能、細胞についての設問に答えられること。	30%
病気の原因、予防について基礎的な知識を学ぶ	本試験で評価する。がん、S T I、人畜共通感染症、有害物質、有害生物について理解していること。実現可能な予防策についての知識が習得できていること。	40%
生命科学全般について理解を深め生命倫理、生物多様性についての意義を考える	本試で評価する。生命科学に関する資料を読み、正確に理解し、意見が述べられるか。生命科学についての基礎的な知識を習得した上で、臓器移植と生殖医療、生物の多様性について、考えることができているか。	10%
生命科学に関する資料を正確に理解し、自分の意見を述べるができる	レポートで評価する。各自で生命科学に関する興味のあるテーマを選び、レポートにまとめる。正確に理解し、まとめることができているか。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提とし、本試験80%とレポート20%で評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明およびレポートの作成方法
2	人体の構造と機能	臓器、組織、細胞、遺伝子について
3	ヒトと他生物の共通点と相違点	ヒト、イヌ、マウスなどの哺乳類間と鳥類、爬虫類、魚類、両生類などの他生物との比較、
4	腫瘍についての基礎的知識	腫瘍の発生と遺伝子異常、良性腫瘍と悪性腫瘍（がん）のちがい、原因と予防、検査法
5	早期がんと進行がん	がんの進行度と治療法、予後
6	各臓器のがんⅠ	肺がん
7	各臓器のがんⅡ	胃がん、大腸がん
8	各臓器のがんⅢ	乳がん、子宮がん（子宮頸がん、子宮体がん）
9	各臓器のがんⅣ	肝臓がん、その他のがん
10	STIについてⅠ	エイズについて
11	STIについてⅡ	ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症、梅毒、クラミジア感染症など10疾患についての予防と治療
12	STIについてⅢ	
13	有害物質と生物毒	タバコ、麻薬、アスベスト、毒のある生物
14	人畜共通感染症・動物が媒介する感染症	BSE、狂犬病、インフルエンザ、デング熱、エキノコックスなど
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考資料や用語集を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇生命科学に関することで話題になっていることの情報収集。

【その他の注意事項】

◇授業に集中し、疑問点は積極的に質問してください。

国際関係論	ヤガワ トシアキ 八川 敏昭
International Relations	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

国際関係論は国際社会において生起するさまざまな事象についての分析をおこなう研究領域である。政治、経済、文化などさまざまな分野でグローバル化が進行し、これらの国際問題に対するわが国の基本姿勢が問われる局面が増大している。こうした現状をふまえ、この講義では、日本をとりまくさまざまな国際関係について、その経緯、現状、課題などを明らかにし、国際社会におけるわが国のありかたを考察するために必要な基礎知識を習得することを目的とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
国際関係全般に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係全般について、授業で教えたことに回答できること。	25%
経済の国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 経済の国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
政治・文化などの国際関係に関心を持ち、理解できるようになる	設問に対する回答によって評価。 政治・文化などの国際関係について、授業で教えたことに回答できること。	25%
国際関係の課題について考えるようになる	設問に対する回答によって評価。 国際関係の課題について、客観的な視点で回答できること。	25%
評価の方法	全授業時間の3分の2以上の出席を前提とするが、出席状況・受講態度を勘案し、筆記試験にもとづいて「総合的に」評価するので、成績評価における出席状況・受講態度・筆記試験に対する配分を明示しがたいが、とくに、私語や途中退席の有無などの受講態度を重視するので、受講態度が悪い場合には、それを評価基準に100%反映させ、不合格とする。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	国際関係論の予備知識 I	第二次世界大戦後の国際関係の変化
2	国際関係論の予備知識 II	現在の国際関係の概要
3	グローバル化の進展	グローバル化の概要と進展状況
4	貿易	貿易をめぐる国際関係
5	投資	投資をめぐる国際関係
6	通貨	通貨をめぐる国際関係
7	人口	世界の人口問題とそのゆくえ
8	食料	食料をめぐる国際関係
9	エネルギー・資源	エネルギー・資源をめぐる国際関係
10	公害・環境	世界の公害・環境問題とそのゆくえ
11	南北問題	世界の経済格差とそのゆくえ
12	軍事	軍事をめぐる国際関係
13	日本の選択	複雑な国際関係における日本のゆくえ
14	まとめ	国際関係をめぐる世界の課題
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：西川潤『新・世界経済入門』岩波新書

【履修条件等】

◇私語をしないこと。教科書を持参すること（このふたつの条件は絶対に守ること）。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の該当箇所に目をとおしておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

異文化コミュニケーション	<small>シミズ トシキ</small> 清水 俊樹 <small>フジモト マナブ</small> 藤本 学
Cross-Cultural Communication	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、ハラール／イスラム市場に関する理解の促進と異文化を含めた市場における事業開発ノウハウの習得による事業機会の考察を深めることを目的とします。

事業開発とは、**Business Development** と訳される概念です。技術、サービスアイデアなどを元に、それを事業化するために必要な全て（市場調査、資金調達、戦略、提携、広告宣伝など）を行うことによって事業は開発され、それ自体を事業開発行為と呼びます。本講義では、現在18億人／200兆円の市場規模というイスラム圏での事業開発に関して包括的に取り上げます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
1) ハラール／イスラム市場に関する理解	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する多岐に渡る動向を十分に理解ができていますか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
2) 同市場における事業アイデアの創造・独自性とその論理的な整理	ハラール／イスラム市場における事業アイデアとその実現性や事業性を十分に整理、説明できていますか？ 評価方法はレポート提出を前提とする。	35%
3) グループワークによる事業アイデアの提案	本講義を通して得られるハラール／イスラム市場に関する情報を元に、独自の事業アイデアの提案ができるか？ 評価方法はグループワークでのパフォーマンスを中心に行います。	30%
評価の方法	この授業では、学期末に提出義務のある期末レポート、およびグループワークでのパフォーマンスによる採点で評価します（定性的・定量的な理解に関するレポートが35%、独自のアイデアとその論理的な構成・説明力に関するレポートが35%、グループワークによる事業アイデア提案のパフォーマンスが30%を目安とします）。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	導入講義	本講義の全体構成と目的等の説明
2	事業開発のステップ	事業開発の概論に関する講義
3	世界の市場環境の把握	世界市場の現状および今後の見通しに関する講義
4	ムスリム市場の把握	ハラール／ムスリム市場の現状と今後の見通しの説明
5	イスラム教の理解(1)	イスラム教の概念的な整理
6	イスラム教の理解(2)	実際のイスラム教徒の生活の紹介
7	事例の紹介(1)	アウトバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
8	事例の紹介(2)	インバウンドに関連する先行企業の成功・失敗事例の紹介
9	戦略の仮説	ハラール／ムスリム市場参入の戦略仮説の検討
10	イスラム金融	イスラム金融の仕組みと日本における現状の説明
11	リスクの考察	イスラムビジネスに関連するリスクの整理
12	ASEAN 市場の考察	多くのムスリムを抱える ASEAN 市場の現状と今後の整理
13	グループワーク(1)	インバウンドに関する事業アイデアの検討
14	グループワーク(2)	アウトバウンドに関する事業アイデアの検討
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：とくにありません。毎講義、必要な資料は準備されています。

【履修条件等】

◇とくにありません。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇本講義では、多角的な視点が求められ、講義を通して紹介される参考文献などは時間を見つけて事前に学習してください。また、インターネットなどでもさまざまな事例が紹介されていますので、各講義の中で触れられた内容などに関しては各自で興味を持って調べるなりすることをお勧めします。

【その他の注意事項】

◇本講義では、答えがない分野における考察、検討を重要視します。そのために必要な情報などは講義を通して得られますが、講義で得られた情報を元にしたアイデア、その妥当性などの検討は自分の頭で考えることが求められます。講義で得られた情報を記憶することしか行いたくない学生は、この講義には向かないと考えられます。一方で、さまざまな文化、宗教、歴史、価値観などに興味を持ち、自らの経験などを踏まえたアイデアを考えることが好きな学生にとっては、ハラール／イスラム市場における最先端の情報が得られると考えられ、履修をお勧めします。

経営数学	マツモト ユウキ 松本 勇樹
Industrial Mathematics	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

皆さんはビジネスの世界に数学は必要ない、もしくは自分には数学は必要ないと考えていませんか。今まで皆さんが中学・高校で習ってきた数学は計算して答えを出すことを目的としていたため、数学はつまらないと考えている人も多いと思います。ところが、社会に出るとビジネスの世界では合理的な考え方や合理的なコミュニケーション能力が問われるようになります。そこで数学的な思考方法や表現方法が有効です。この科目ではビジネスの世界での社会現象を数学的手法で解決する方法を学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
与えられた数式から解答を導く	設問に対する回答によって評価。高校までに習った計算の復習を行い、与えられた数式から正しい答えを導くこと。	50%
ビジネス上で起こることを数式で表し、解を求める	設問に対する回答によって評価。与えられた事象から自分で数式を作成し、その式に対する解を求めること。	50%
評価の方法 50%以上の出席を前提として課題提出15%、小テスト15%、試験70%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業で何を学習するかの説明と計算練習
2	1次方程式	1次方程式の解説・演習とビジネス上の問題を式で表現する
3	連立方程式	連立方程式の解説・演習を行う
4	1次関数	2つの変数の間にある関係を式で表すことを学ぶ
5	展開・因数分解	複雑な式を整理する方法を学ぶ
6	2次方程式	2次方程式の解き方の解説・演習を行う
7	2次関数	2次関数の解説・演習を行う
8	微分・積分入門 小テスト①	微分・積分とは何か解説し、ビジネスでなぜ必要かを考える これまでの計算手法が習得できているか確認する
9	極限と微分の計算	微分の基礎である極限の知識の習得を行う
10	微分の計算・接線の方程式	微分の基本的な計算を学び、複雑な関係を単純化するために必要な接線の方程式の知識の習得をする
11	関数の増減とグラフ	複雑な関数をグラフ化する方法について学ぶ
12	積分の基本	積分とは何かについて確認し、計算をできるようにする
13	小テスト②	微分・積分が習得できているか確認する
14	総復習	いままで学習してきた内容について復習する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および計算問題を中心とした試験を行う

【使用教材】

◇配布資料を使用する。

【履修条件等】

◇継続して受講しないと理解できないので、休まず出席すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業の配布資料に掲載されている課題を解いておくこと。

【その他の注意事項】

◇授業を聞いていれば理解できるように繰り返し説明する。できない問題については繰り返し演習していくので、過度な数学に対する恐怖心を持たなくてよい。

マネジメント入門	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Introduction to Management	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業は、私たちの生活の中で切り離せない存在になっています。私たちが毎日生活を送っていくなかで、企業活動によって生み出された商品（モノ）を使い、豊かさを享受してきています。また、商品を生産したり販売したりする過程では、「人」が「働く」ことで人や社会のつながりを形成し、自己の存在意義が発揮されたり確信したりもします。そうした、人々が生きていく上での「生活の糧」として存在している現代の企業は、激しい市場競争を乗り越えていかなければ存続することができません。

企業が存続していくためには、利潤生産を達成し、商品を生産し続けなければなりません。その目的達成のために、人・モノ・カネという資源を組織化し統合していく必要があります。本講義では、こうした諸資源を統合化するための経営管理技術を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業概念を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業とは何か、企業経営活動とは何かを理解する ・ 企業の存在意義としての生産活動の内容を理解する ・ 商品および商品生産過程の意味や内容を理解する 	20%
企業の社会的役割を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業が関わる4つの市場と、そのグローバル化による変化を理解する ・ ステークホルダーと、そのグローバル化による変化を理解する ・ 企業経営の社会的責任の遂行を理解する 	20%
経営管理活動の二面性と組織効率性基準の設定を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利潤生産と商品生産の二つの生産活動の性質の違いを理解する ・ 経営管理の行動基準は変化することを理解する 	20%
経営管理技術の変遷を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理技術の歴史的変化を理解する ・ 近現代の経営管理の特徴を理解する ・ コンティンジェンシー理論を理解する ・ 組織行動と環境とのシステムを理解する 	20%
社会技術システム論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業行動の柔軟性創造を理解する ・ 組織成員に求められる柔軟性を理解する ・ 機械的管理システムと有機的管理システムの違いと現状を理解する 	20%
評価の方法	70%以上の出席率が必要です。 授業参加度20%、期末試験80%を基準とし評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要、評価方法の説明
2	企業経営を概観する①	企業経営が関わる市場と競争原理を学ぶ
3	企業経営を概観する②	基本的な事業内容と利潤生産・商品生産の重層構造を考える
4	生産活動の社会的意義	ステークホルダーと社会的意義を理解する
5	マネジメントとは何か	経営管理活動の効率性基準とその二重性を考える
6	分業論を学ぶ	管理職能と作業職能の内容と構造を理解する
7	個人行動の組織化過程	個人行動の内容を理解し、組織化過程のメカニズムを学ぶ
8	動機づけ理論を学ぶ	個人の動機の内容や動機づけ理論を学ぶ
9	管理過程論を学ぶ	マネジメント・サイクルを理解し、自己管理について考える
10	マネジメントの変遷①	マネジメントの成立過程と今日までの展開の特質を学ぶ
11	マネジメントの変遷②	人間関係論の展開と意思決定論、自律的人間像を考える
12	企業の管理組織構造	トップ・ミドル・ロー・マネジメントの構造と役割を学ぶ
13	企業組織の構造を学ぶ	小規模企業と大規模企業の組織機構の違いを考える
14	企業環境と組織柔軟性	機械的管理システムと有機的管理システムの重層性を考える
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：講義の中で指示します。
- ◇参考書：百田義治編著『経営学 基礎』中央経済社
- ◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。
- ◇新聞、雑誌等メディアを通じて時事情報を捉えておいてください。
- ◇授業ノートの作成では、板書のみならず積極的にメモを取るようにしてください。
自身独自のノート作成に心掛けてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇自身で作成したノートは、講義前に前回の内容を確認し復習し積極的に活用してください。

【その他の注意事項】

- ◇配布した資料は各自で管理してください。
- ◇各自出席管理を行ってください。

<h1>コンピュータリテラシー</h1>	ハギノ ヒロミチ 萩野 弘道
Computer Literacy	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

高度情報化社会に対応し、また、本学においてさまざまな科目を学習していくための基礎としてコンピュータを理解し、操作する基礎的なスキルの習得を目指します。そのために、パソコン（Windows）の基本的な操作とその運用に関して必要な知識を学習した後、ワープロソフト（Microsoft Word）を利用した日本語文書の作成、表計算ソフト（Microsoft Excel）を利用した基本的な表計算処理やグラフの作成、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を利用した発表用資料の作成などについて実践的な実習をおこないます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンピュータを活用するために必要な基礎知識を理解していること	実習中の習熟度によって評価。OSの扱い方やファイルやフォルダの管理等が適切におこなえること。 ブラウザや検索エンジンを使って、効率良く適切な情報を呼び出すことができること。	10%
ワープロソフトでビジネス文書やチラシを作成するためのスキルを身につけていること	実技試験によって評価。文字入力はもちろんのこととして、Microsoft Word の操作や設定作業を自分の思うままに操れること。表や画像を利用して効果的な文書をレイアウトすることができること。	30%
表計算ソフトの基本を理解し、関数を活用したデータ処理やグラフの作成ができること	実技試験によって評価。Microsoft Excel を操作してワークシートの編集をおこない、関数の利用や罫線を用いた作表ができること。データを効果的に表現するグラフを作成できること。	30%
プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼン資料が作成できること	実習中の習熟度によって評価。プレゼンテーション用の発表資料を Microsoft PowerPoint を操作して、画像やアニメーションを効果的に導入して作成することができること。	10%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提として、試験80%、授業参加度20% (授業参加度は授業中におこなう提出課題の評価も含む)。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、学内P Cの利用方法、タイピング実習
2	コンピュータの基本操作	Windows の基礎、インターネットの使い方と活用方法
3	Word の操作実習(1)	文字の入力方法、ファイル操作、ページ設定
4	Word の操作実習(2)	書式設定、編集、文字の装飾
5	Word の操作実習(3)	表（罫線）を活用した文書の作成
6	Word の操作実習(4)	画像等を活用した文書のアレンジ
7	Word の総合実習	ビジネス文書を使った Word の総合練習
8	Excel の操作実習(1)	データ入力、基本的なワークシート編集、関数の基本
9	Excel の操作実習(2)	罫線、グラフの作成
10	Excel の操作実習(3)	関数1（IF、RANK 等）、ソート
11	Excel の操作実習(4)	関数2（VLOOKUP、COUNTIF 等）、フィルタ
12	PowerPoint の操作実習(1)	プレゼンテーションの意味、文字や画像の入力方法
13	PowerPoint の操作実習(2)	図形やアニメーションを利用した視覚効果
14	総合練習	練習問題を使った習熟度の確認
15	本試験および解説	コンピュータを実際に操作して実施

【使用教材】

◇『30時間でマスター Windows 7 対応 Office2010』実教出版

【履修条件等】

◇コンピュータの初心者を対象としているので、履修条件はとくにない。

ただし、この授業ではキーボード入力を速くするタイピング練習は行わないので、ローマ字入力だけはある程度できることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇授業の最後に次回の予告をするので、教科書の該当ページに目を通しておいていただきたい。

【その他の注意事項】

◇実習授業であるので、授業に出席しないとコンピュータを操作できないので全出席が基本である。そのため、出席および遅刻に対しては厳格に扱う。遅刻は2回で欠席1回とし、全授業の3分の1（5回）欠席した場合は、本試験を受験停止にする。

ビジネスコンピューティング	オニキ カズナオ 鬼木 一直
Business Computing	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

企業で業務を遂行するにあたり、Microsoft 社の『Excel』、『Word』、『PowerPoint』は必須アイテムともいえるソフトとなっています。これらのソフトを使いこなすためにパソコン一般知識、アプリケーション操作、情報モラル&セキュリティを学ぶことが必要です。本授業ではタイピングの練習、表計算、グラフ作成などを通じ、日常の企業活動で発生するさまざまなコンピュータ知識、スキルを習得します。また、授業の中で実際に準2級・3級等のP検（ICTプロフィシエンシー検定試験）を行い、資格の取得も可能です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
タイピング速度60文字／分以上を目標とする	毎授業の最初に5分間のタイピングテストを行いその点数および上達度を評価する。 また、授業時間の中でP検タイピング本試験を行いその結果を評価する。	20%
Microsoft Word を活用し、簡単な文書の作成、編集ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Word の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な非定型文書の編集をすることができること。	25%
Microsoft Office を活用し、計算式や表などを含む定型フォーマットの作成ができること	設問に対する解答と実技試験によって評価。 Microsoft Excel の操作に関する基本的な設問に解答できること。指示に従い簡単な表やグラフを含む文書の編集をすることができること。	25%
コンピュータ用語、ネットワークシステム、情報モラルを理解する	確認問題に対する解答によって評価。 コンピュータに関する知識、通信ネットワーク技術、ウィルス対策を含むセキュリティや法規に関する基本的な設問に解答できること。	30%
評価の方法	毎回行うタイピングテスト10%、授業時間内の演習30%、試験60% 試験はP検タイピング試験・P検本試験（準2級または3級）の結果を勘案する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義内容、本試験の内容等についての説明
2	ワープロ(1)	タイピングの基本を学び、文書の編集などの演習を行う
3	ワープロ(2)	図の挿入や図形の作成、表の作成や編集などの演習を行う
4	表計算(1)	表計算ソフトの操作を学び、関数を利用した計算などの演習を行う
5	表計算(2)	グラフの編集、表データの並べ替えなどの演習を行う
6	表計算(3)	データの集計、シートの編集などの演習を行う
7	コンピュータ知識	コンピュータに関する一般的な技術用語を学ぶ
8	情報通信ネットワーク	情報通信システムに関する一般的な技術用語を学ぶ
9	情報モラルと情報セキュリティ	インターネットのセキュリティ対策、個人情報やプライバシーの保護について学ぶ
10	I C Tを活用した問題解決	フローチャート、データベースの活用法について学び、演習を行う
11	P検タイピング本試験	本試験のタイピング試験免除対象となるP検タイピング試験の合格を目指す
12	実技試験の対策	C B T方式（コンピュータ対話式）の実技試験を体験し慣れる
13	模擬試験	実際の検定試験と同じC B T方式での模擬試験を体験し、解答方法に慣れるとともに、弱点の克服を行う
14	P検本試験	P検本試験（準2級または3級）を行う
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教材は教室に備え付けのものを使用するので購入は不要。
- ◇他に、検定試験の受験料が必要（昨年実績4,100円）

【履修条件等】

- ◇ Microsoft Windows/Word/Excel の基本的な操作ができること。
- ◇『コンピュータ・リテラシ』を履修済み程度のパソコンスキルを習得していること。
- ◇授業時間内にP検（準2級または3級）を受験すること。
- ◇すでにP検3級以上を取得しているものは履修できない。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇タイピングの練習をしておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業時間内にP検タイピング試験、P検（準2級または3級）の本試験を実施する。
- ◇P検（I C Tプロフィシエンシー検定試験）に関しては以下の WEB サイトを参照のこと。<http://www.pken.com/>（I C Tプロフィシエンシー検定協会）
- ◇P検に合格した場合は本授業単位の2単位に加え、さらに1単位を取得できる（ただし、別途手続きが必要）。

就職特講 I	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job Seeking I	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。本講義では、学生が就職活動を円滑にかつ積極的に展開できるよう、就職活動や雇用慣行の基本、自己分析や自己PRの方法、業種研究、社会人マナー、グループワークの方法など、就職活動に臨むにあたっての基礎を学んでいきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	労働市場・日本の雇用慣行	労働法の基本、働くということ
2	基本的ワークルール	職場のルール、不文律、新入社員の仕事
3	就職活動とは（キャリア開発センターの利用方法案内含む）	就職活動のステップ、キャリア開発センターや新卒応援ハローワーク等の機能と使い方
4	自己分析・自己理解	興味関心の振り返り、客観的な自己像の確立
5	G A T B / V I P 検査	一般職業適性検査、職業興味検査により、職業適性を把握
6	社会人基礎力①	前に踏み出す・考え抜く・チームで働く力とは
7	社会人基礎力②（ワークシート）	自らの社会人基礎力の把握と課題の発見
8	企業情報の収集方法	就職関連メディアやweb活用、OB訪問など
9	業界研究①（金融・保険業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
10	業界研究②（IT・卸・小売業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
11	マナー講座	社会人マナー、服装・メイク・髪型等の注意
12	自己PR（強み発見）	自己分析を通じた強みの発見とその表現
13	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
14	社会人場面別マナー講座	さまざまな場面でのマナーの実践
15	春学期まとめ	夏休みに向けての留意点等

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇3年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。また、「就職特講Ⅱ」の連続受講を推奨する。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

就職特講Ⅱ	ヒロセ マコト 廣瀬 誠人
Special Seminar for Job Seeking Ⅱ	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

長期厳選採用、働き方の多様化に伴い、大学生の就職環境は厳しい状況にあります。

本講義では、「就職特講Ⅰ」で実施した内容をベースに、履歴書やエントリーシートの書き方、業界・企業・職種研究、筆記試験・面接・グループワーク対策など、就職活動に直接役立つ知識の取得と演習を進めていきます。随時、東京新卒応援ハローワークや企業の採用担当者も招聘し、臨場感ある就職準備講座を展開します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本企業における雇用慣行、就職活動の仕組み、基本的なワークルールについて理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
「働くこと」への理解を深め、社会人としてのふるまい、言動、マナーを身につける	出席態度、講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	40%
自己理解・自己分析を深めるとともに、数多くの選択肢の中から、自らの職業適性を知る	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
さまざまな就職試験に対するテクニカルなノウハウを身につける	講義中の質疑応答、ワークショップ時の対応、提出物等により評価。	20%
評価の方法	職業意識の形成と卒業後の社会人基礎力の向上を目的とすることから、70%以上の出席を条件に、出席評価（取り組み姿勢・参加態度含む）70%、レポートおよび提出物評価30%	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ブラック企業と就職活動への留意点	秋学期オリエンと各種留意点の説明
2	グループワーク演習	グループワークにより他者の考え方に触れる
3	業界研究③（ホテル・美容業界）	ゲストスピーカー（人事部等）による説明
4	職種研究（営業とは何か）	さまざまなタイプの営業スタイルとその仕事の本質について知る
5	履歴書の書き方	志望動機、学生時代に力を入れたこと、自己 PR 等の書き方
6	エントリーシート対策①	さまざまな E S の事例と対応法
7	エントリーシート対策②	実際の E S へのチャレンジ、添削
8	一般常識・筆記試験対策	例題を解きながら対策を考える
9	S P I 対策	S P I 試験の概要理解と例題の実践
10	面接対策①（グループ面接）	集団面接への取り組み方
11	面接対策②（グループディスカッション）	グループディスカッションのコツ、リーダーシップのとり方
12	面接対策③（個別面接）	面接ノウハウ、質問への対処法
13	就職活動計画策定①	自分の就職活動をスケジューリングする
14	就職活動計画策定②	グループで議論して情報交換
15	まとめ	3月以降の就職活動の進め方への留意点

【使用教材】

◇とくになし。講義資料およびワークシートは随時配布する。

【履修条件等】

◇「就職特講 I」を受講していること。3年生で民間企業への就職を考えている学生、留学生のうち日本企業への就職を目指す学生は、基本的に受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇業界研究においては、事前に web、新聞、書籍等を通じた情報収集を要請することがある。
- ◇事前にワークシートを配布し、次回講義までに記入してくる課題を提示することがある。

【その他の注意事項】

- ◇昨年度まで開講されていた「就職ガイダンス」（自由聴講）は廃止され、3年生の就活トレーニングは、本講義に収束される。
- ◇本講義においては、知識や経験の蓄積や振り返りを重視するため、1度の欠席が大きなハンデとなることもあるので留意されたい。

健康と運動 I	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年若者に増加している性感染症などの疾病の理解と、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康三原則（運動・栄養・休養）の理解し、健康を維持するための知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 若者で問題となっている性感染症（STD）に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内 容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学 7 ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（健康の三原則と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（性感染症の現状把握、予防法について） 9
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ 14
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動 I	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports I	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習を導入し「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。他にバスケット、バドミントン競技も実施する。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技における特性の理解度	卓球の各技術を紹介し、練習を通じて成長度をチェックし、とくにラリーが続けられることを評価ポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	マシン、多球練習等により、より正確に強く打球できるか（スピード・コントロール・コース・スピン）を計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術、技術対応力を評価する。 ②試合における精神的強さ、闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力をチェックする。 健康維持に関する知識の学習。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けら
4	スタンス、フリーハンドの効	れるか記録をとる。前後・左右の動き、足の運び方
5	用、フォアハンドストローク、	の注意点。動く側、動かす側の注意点とコースの打
6	スマッシュ、フットワーク（左	ち分け（ストレート、クロス、ミドル）。スピードと
	右・前後）	正確さを追求する。
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使う。角度、打球点を注意して、スピー
8	ショートカット（ツツキ）	ドをあげる。手首を使い、ボールの真下をこする。
9		ナナメ回転、下回転、横回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	回転の種類による返球方法、角度調整を工夫する。
11		多様な回転サーブを学習する（コース、速さ、種
		類）。
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲー
13		ムのリーグ戦を実施。試合の組み立て、戦術の駆け
14		引き、間の取り方を教授する。
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェック
		する。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『確実に上達する卓球（改訂版）』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講すること。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き（シューズ）、運動のできる準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅱ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇許可書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports II	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年増加している生活習慣病の理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 基礎代謝を高め、太り難い身体を維持する知識を有すること。	20%
現代社会で問題となっている疾病理解と、その予防について理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病に関する正しい知識と、その予防法についての知識を有すること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材
7	に学ぶ
8	講義①：健康と運動の関係について（基礎代謝と運動） } 講義②：疾病から身体を守る（生活習慣病と運動）
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学
14	ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅱ	ニシムラ タクジ 西村 卓二
Health and Sports Ⅱ	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

実技の卓球では、マシンと多球練習による「正しいフォームづくり」をめざしてさらに、競技力を高めるために、総当たりリーグ戦（試合）を実施し、卓球競技の楽しさ、難しさを体得してもらう。またダブルスのゲームを行い、パートナーとの協調性を高める。

他にバスケット、バドミントン競技も実施し身体能力をチェックする。講義は健康維持や生涯にわたって健康な生活が実現できる知識を教授する（レポート提出）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
卓球競技の特性を理解すること	卓球競技の各技術を紹介し、授業を通じて成長度をチェックし、特にラリーが続けられるかを評価のポイントとする。	30%
各技術を段階的にマスターしているか	スピード、回転、コースを正確にして相手コートに打球できるかを計る。	30%
ゲーム（試合）	①試合における戦術の理解度、対応力を評価する。 ②対戦相手に対する闘争心の評価。	20%
①他の種目の取り組み ②レポート提出	バスケット、バドミントンなどからの身体能力のチェックする。 健康維持に関する知識の習得。	20%
評価の方法 マナー30%、試合成績30%、レポート提出40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス：授業方針の説明	卓球部選手による各技術の紹介演技
2	卓球競技の歴史、特性説明	「回転」、「スピード」、「コース」の特性を理解する。
3	ラケット、ラバー、グリップ、	腰のひねり、軸足、肘の角度を注意して何本続けられるか記録をとる。動く側と動かす側の注意点。コースを打ち分けられるか、スピードを追求する。
4	スタンス、フリーハンドの効	
5	用、フォアハンドストローク、	
6	スマッシュ、フットワーク（左右・前後）	
7	ショート（ブロック）	肘の屈伸を使い、角度と打球点を注意する。
8	ショートカット（ツツキ）	手首を使い、ボールの真下をこする（切る）。
9		ナナ目、横、下回転をマスターする。
10	サーブ、レシーブ	多種多様な点を工夫する（速さ、コース変化に注意）。 回転の種類による返球方法の注意点。
11		
12	ゲーム（試合）	試合ルールの説明、審判法の説明。シングル3ゲームを実施する。試合の組み立て、戦術、駆け引き、間の取り方を教授する。
13		
14		
15	バドミントン・バスケット	卓球以外の競技種目を実施し、身体能力をチェックする。

【使用教材】

- ◇西村卓二著『卓球上達テクニック』実業之日本社
- ◇必要に応じて資料を配付する。

【履修条件等】

- ◇マナーを守れる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常の体調管理を徹底して故障なく受講することが望ましい。

【その他の注意事項】

- ◇室内履き、運動着の準備をして出席のこと。

健康と運動Ⅲ	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボールやダブルダッチ等を題材
4	に学ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①運動と健康の関係について
9	②生活習慣病について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：バドミントンや卓球等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動Ⅲ	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports III	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、スポーツによる傷害（外傷・障害）の現状を理解し、傷害の起こしにくい「からだ作り」、予防するための知識を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が関係する傷害の発生メカニズムと対処法を学び、適切な行動ができる力を身につけること	講義後、提出されたレポートによって評価。 スポーツ傷害（外傷・障害）の理解、外傷が発生した際の対処方法の知識を有すること。	20%
傷害を起こしにくい「からだ作り」について学び、実践可能なトレーニングの知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 加齢とともに低下していく筋力・体力の維持に必要なトレーニングの必要性と、トレーニングに関する正しい知識を有すること	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2 7	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメット・フットサル等を題材に学ぶ
8 9	講義①：スポーツ傷害の予防法について } 講義②：年齢に合わせた体力トレーニングの必要性について
10 14	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：卓球、バドミントン等を題材に学ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	イノウエ コウト 井上 航人
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体に及ぼす影響や効果をはじめ、生活習慣病・栄養・トレーニング・スポーツの持つ意義等々、社会生活に必要な健康安全の知識および能力について関心と理解を深める。

実技では、バスケットボール、バドミントン等のゲームを中心に、集団生活の体験と、公共心の大切さを会得させ、生涯にわたって楽しく豊かな生活ができるよう運動実践の能力や態度を育成する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動が身体におよぼす影響・運動の必要性を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 健康の三原則（運動・栄養・休養）の理解と、身体活動の必要性についての知識を有すること	20%
現代社会で問題となっている疾病とその予防方法を理解し、自己管理につなげる知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 日本全体で取り組んでいる生活習慣病の理解と、その予防についての知識、および健康的な食生活についての知識を有すること	20%
運動の実践を通して、思考力・判断力・表現力およびコミュニケーション能力を身につけて行動ができること	授業（実技）への意欲・態度・関心度・マナー・実技テスト等々、総合的に評価。 他者との関わり合いを重視し、相互の存在を認め合い、思いやりのある人間性を築き、コミュニケーションを積極的にとることができること	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席状況と取り組み方によって評価。 体調管理と服装の準備に留意し、積極的な心構えで行動することができること	30%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、レポート40%、授業への取り組み方30%、授業態度・マナー20%、実技テスト10%	

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について
2	実技：集団型スポーツ①、②
3	集団の団結力が試されるスポーツ種目：アルティメットやフットサル等を題材に学
4	ぶ
5	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
6	
7	
8	講義：①基礎代謝について
9	②性感染症について
10	実技：ネット型スポーツ①、②
11	小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレー、バドミントン等を題材に学ぶ
12	(履修者の人数により、適時スポーツ種目を変更する場合がある)
13	
14	
15	

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇60分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

健康と運動IV	タジマ トシミ 田島 外志美
Health and Sports IV	選択科目／半期／1単位

【授業概要】

講義では、運動が身体におよぼす基本的な影響と効果の理解を深め、運動の必要性を学ぶ。さらに、近年話題になっているロコモティブシンドロームの理解と、予防するための運動方法を学ぶ。学んだ内容を論理的に整理し、レポート作成スキルの習得を目指す。

実技では体力トレーニングやストレッチの他、生涯にわたって手軽に継続できる運動を中心に実施する。同時に豊かな情操をもち、高度な社会生活に適応できる人間の育成を目指し、協力・コミュニケーションを促す種目を選択し、実践する。

実技で身体を動かすだけでなく、講義において運動の必要性の理解を深めることも大切なポイントとしている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
運動不足が身体におよぼす影響を学び、その予防方法を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動器の障害により移動機能が低下するロコモティブシンドロームとその予防法の正しい知識を有すること。	20%
自己に適した運動の強度や種類についての知識を有すること	講義後、提出されたレポートによって評価。 運動処方のひとつの尺度である「心拍数」を使って、自己に適した運動強度を算出できること。	20%
多様な価値観を有する人同士がコミュニケーションをとり、協力してグループの成長に携わる行動ができること	実技内の行動、試合成績によって評価。 誰とでもグループを組み、その中で必要な状況を把握し、行動することができる。現状を少しでも良い状況にするためのコミュニケーションを積極的とることができること。	30%
自己管理を行い積極的に授業に参加することができること	実技への出席や取り組み状況によって評価。 体調管理と服装の準備、月1回の測定（体脂肪・血圧・BMI）ができること。	30%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、 レポート40%、講義時の課題への取り組み30%、グループワーク30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容
1	ガイダンス：授業方針・評価について 現状把握：体力年齢テスト、体脂肪・血圧測定
2	実技：集団型スポーツ①② } 集団の団結力が試されるスポーツ種目：バスケットボール・ダブルダッチ等を題材
7	に学ぶ
8	講義①：ロコモティブシンドロームについて } 講義②：運動と心拍数の関係性について
9	
10	実技：ネット型スポーツ①～③ } 小集団のネット型スポーツ種目：ソフトバレーボール、インディアカ等を題材に学
14	ぶ
15	総括・達成度の確認 今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：二上貞夫・高明勝利他共著『健康と体育・スポーツ』東京富士大学

【履修条件等】

◇授業方針・マナーを守れる者。

◇室内履き・運動着の準備ができる者。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日頃から健康に関する情報を積極的に入手する努力をすること。

◇70分間の運動ができるよう授業以外にも身体を動かす時間を持つこと。

【その他の注意事項】

◇学内に個人ロッカー設備がないため、運動に必要な服装・室内シューズは毎回持参すること。

日本事情（留学生科目）	イトカワ ユウ 糸川 優
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、特にグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
<p>評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

日本事情（留学生科目）	オクヤマ タカユキ 奥山 貴之
Japanese Studies	選択科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業ではディベートという手段を使って、大学での学習に必要な論理的口頭表現力を習得すると同時に、自ら情報を得て深く考え日本語で表現することを、とくにグループ活動を通して完成することを目指す。他の学生と協力しながらディベートを体験し、他の人の意見を理解した上で自分の意見を論理的に筋道立てて述べる練習をする。また他の学生の陳述を論理性に照らし合わせて評価する能力も養う。このようなグループ活動を通して、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業に積極的に参加し効果的にグループ活動を推し進める	授業内で個人作業およびグループ活動に積極的に参加し、授業外での作業も含め、円滑なグループ活動に貢献すること。	40%
日本文化を理解し、論理的発表のために資料検索、論理的構成の組み立てなどができる	準備段階でのグループ活動への参加の様子、ディベート発表の時に利用する資料などにより評価する。ディベートの準備に積極的に参加し、必要な資料を検索・選択し、論理を適切に組み立てることができるか否かにより評価する。	20%
適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる	適切かつ効果的口頭発表・プレゼンテーションができる。他の学生の口頭発表について適切な評価ができる。	40%
<p>評価の方法 授業とグループへの貢献度40%、課題20%、表現・発表40% ただし、単位取得には最低3分の2以上の出席を必要とする。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ディベートについて	ディベートの概要とグループ形成
2	ディベート体験	ディベート体験
3	ディベート体験	ディベート体験、よりよいディベートのための対策
4	ディベートA	グループ準備
5	ディベートA	ディベートA
6	ディベートA	ディベートA
7	ディベートA	振り返り
8	ディベートA	グループ準備
9	ディベートA	ディベートB
10	ディベートB	ディベートB
11	ディベートB	振り返り
12	ディベートB	グループ準備
13	ディベートB	ディベートC
14	ディベートB	ディベートC
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括

【使用教材】

◇教科書は使用しない。必要に応じて資料を授業で配布する。

【履修条件等】

◇授業は学期を通じてグループの協働学習なので、遅刻欠席をしないこと。メンバーと協力し合って意欲的に準備や発表に取り組むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ディベートの準備として、必要に応じて、グループ内の相談・資料検索を授業外でもすることがある。

【その他の注意事項】

◇学期中の欠席が5回を越えた場合は、ディベート等に参加しても単位は認めない。

◇上記の授業計画は、グループ編成の都合などから、受講人数などを勘案して変更することがある。

<h1>インターンシップ I</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship I	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

<h2 style="margin: 0;">インターンシップⅡ</h2>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship II	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

インターンシップⅢ	タカハシ テツヤ 高橋 哲也
Internship III	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

<h1>インターンシップⅣ</h1>	<small>タカハシ テツヤ</small> 高橋 哲也
Internship IV	選択科目／認定／1単位

【授業概要】

インターンシップという「社会経験・就業体験」を通して、自分自身の専攻およびキャリアに関する実務的知識を深め、専門知識の習得、キャリアプランを考えていくことを目指します。今年度より受講のスタイルが変更され、より挑戦しやすくなったので是非活用して欲しい。詳しくは【その他の注意事項】を熟読すること。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
インターンシップ参加の心構え、社会人としてのマナーを身につける	適切な手続きにてインターンシップに参加すること。 (インターンシップはアルバイトでもボランティアでもないことを自覚するように)	25%
インターンシップにおいて実社会の現状を把握し、実務的知識を深め、自己のキャリアプランを構築する	インターンシップでの就業体験を通じて、自らのキャリアについて考え、そのことを表現できるか。 提出されたインターンシップ実習報告書と実習先からの評価を基に、実習に対する取り組み姿勢を評価する。	50%
就業体験の内容を今後の学生生活への取り組みに生かせるか	就業体験の結果を他者に伝える。	25%
評価の方法 就業体験、実習報告書の提出		

【授業計画】

回	テーマ
1	説明会：インターンシップ概要説明
2	企業研究・業界研究 エントリーシート作成 } インターンシップ希望企業へのエントリー
14	現場での就業体験 インターンシップ先担当者からのフィードバックおよび反省
15	結果報告：インターンシップ報告書の提出

【使用教材】

◇必要に応じて適宜配付する。

【履修条件等】

◇3年生の履修希望者は「就職特講Ⅰ」、「就職特講Ⅱ」を履修すること。

◇1、2年生の履修希望者も可能な限り「就職特講」内での基礎知識の充足を求める。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇社会人としてビジネスマナー。

◇ビジネスレベルのパソコンスキルに少しでも近づけること。

【その他の注意事項】

◇今年度より履修方法が大幅に変更になったので注意。

◇毎月開催予定の「インターンシップ説明会」に参加し、一般的なインターンシップの手続きを身につける。

◇履修許可を行う本学キャリア・学生支援センターへの報告・連絡・相談を行うこと。
万が一、連絡が取れなくなった場合は、受講取り消しとなるので注意すること。

◇1ヶ月以上のインターンシップに参加する場合には、報酬が発生することが予想される。報酬のあるインターンシップでの単位認定は不可である。

自己開発 I・II・III・IV	
Self-improvement I・II・III・IV	選択科目／認定／各1単位

【本科目の目的】

本学学生の自立心養成、キャリア形成を支援するための一環として、この科目を設置する。すなわち、学生が、本学での教育に立脚し、資格取得、ボランティアなど、学外で修得してきた一定の学習成果に対して単位を認定する。

【単位を認定する資格】

在学中に取得した資格。具体的には「技能審査の対象資格・検定表」に記載する資格を対象とする。ただし、取得後3か月以内に単位認定の申請をすることが必要（1月末までに届けたものについては当該年度の「自己開発」科目の単位として、それ以降の申請については、次年度の単位として認定する）。

例：公認会計士、税理士、中小企業診断士、情報システムITパスポート試験、実用英語技能検定、秘書技能検定、簿記検定、販売士、経営学検定試験、TOEIC等

【ボランティア】

担当教員宛に「参加申請書類」（受入先または仲介先の概要紹介書、活動計画書などを添付）を提出し、担当教員の承認を得たボランティア活動を「単位を認定するボランティア」とする。活動期間は、通算5日40時間以上とする。

承認を得たら、すみやかに「賠償責任保険」（340円。学生支援担当窓口扱）に加入し、活動終了後は、2週間以内に、「単位認定申請書」に受入先または仲介先の発行するボランティア活動修了証あるいは証明書（写しでも可）を添え、担当教員に届け出ることを要する。

◇本科目における「単位認定のプロセス」や「修得可能な単位数」「技能審査の対象資格・検定表」などについては『学生要覧』を参照してください。

専 門 科 目

平成28年度

経営学部イベントプロデュース学科

東京富士大学

経営学概論	ナトリ シュウイチ 名取 修一
Introduction to Management	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

経営学は、企業を対象としてその構造と行動原理を学ぶ学問です。企業経営活動は、利潤生産・商品生産過程において、生活の糧を提供し、人々の「豊かさの創造」機会をも生み出しています。そうした存在意義をなす現在の企業は、激しい市場競争を乗り越えなければ存続し続けることはできません。企業が存続していくためには、利潤達成を実現すると同時に、社会的責任の遂行がなされなければなりません。

本講義では、こうした観点に立って企業経営の「構造」的理解と活動体・存続体としての「行動」的側面に視点を当て、企業経営を考えます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の基本的な特質を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学の対象としての企業経営活動を理解する ・企業経営は生産活動体であり、財やサービスを生産し、社会的な役割を理解する ・企業はなぜ利潤追求をするのかを理解する ・商品、商品生産過程の意味や内容を理解する ・企業経営に関わる市場を学び、グローバル化でどのように変化したかを理解する 	30%
資本調達の仕事組を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・資本の意味を理解する ・グローバル経済下での資本調達の基軸を理解する ・自己資本、他人資本、出資、負債の内容と違いを理解する ・株式会社の特性を理解する 	15%
コーポレート・ガバナンスを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンスの狭義と広義の視点から違いを理解する ・グローバル・スタンダードを理解する ・ステークホルダーを理解する ・取締役会の意義、役割を把握し、取締役会の改革や課題を理解する 	15%
経営管理の変遷過程を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理活動の原点とその変遷過程を理解する ・近現代の特徴である組織柔軟性を理解する ・リーダーシップとは何かを理解する 	10%
経営戦略論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略論の概念を学び、策定方法を理解する ・グローバル市場の変化を理解する ・戦略的的人資源管理の問題点を考える 	15%
グローバル市場下の企業経営を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・日本的経営論の変化を理解する ・企業の多国籍化を理解する ・環境経営と社会的責任の遂行を理解する 	15%
評価の方法	70%以上の出席率が必要です。 評価は授業参加度20%、期末試験80%とします。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ガイダンス	16	経営学史を学ぶ
2	経営学とは何か	17	科学的管理法
3	企業の基本的特質	18	科学的管理法の深化
4	企業形態①	19	管理過程論と管理原則論
5	企業形態②	20	人間関係論
6	株式会社制度の特質	21	現代組織論の源流
7	企業集団と現代的な特徴	22	環境適応理論
8	コーポレート・ガバナンス	23	経営戦略論
9	企業経営とステークホルダー	24	人的資源管理論
10	中小企業論	25	日本的経営論とその変化
11	中小企業の現状と課題	26	労働の人間化と小集団活動
12	非営利組織論①	27	国際経営
13	非営利組織論②	28	環境経営
14	春学期のまとめ	29	C S R と企業倫理
15	春学期総括・達成度の確認	30	秋学期総括・達成度の確認

【使用教材】

- ◇教科書：百田義治編著『経営学基礎』中央経済社
- ◇参考書：市川彰・名取修一編著『現代経営学要論』同友館
講義の中で適宜紹介します。
- ◇その他：講義の中で資料を配布します。

【履修条件等】

- ◇授業を受ける際には、静粛に受講してください。
- ◇新聞、雑誌等のメディアを通じて時事情報を捉えておいてください。
- ◇自分自身のノートを作成してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇受講者は各自テキストを準備してください。
- ◇各回の講義ごとにテキストを読み返して、復習を行ってください。

【その他の注意事項】

- ◇配布した資料の管理を各自行ってください。
- ◇各自、自身の出席管理を行ってください。

<h1>イベント学概論</h1>	スガワ カズユキ 須川 一幸
Introduction to Eventolog	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

イベントの時代といわれている社会の状況を説明し、「イベントに関する合理的な知識の体系」について解説します。その構成は、イベントの社会的意義。イベントの定義。イベントを考える視点とイベントの分類。さらに、イベントとコミュニケーション・メディア。イベントとパブリシティ戦略。イベントと情報の非対称性への解決力の解説。また、イベントとサービスについて、産業分類とイベントサービス機能を解説。またイベントの非日常性の効果の理解を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントのカテゴリーに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントのジャンル、種類、分類と具体的なイベント名について答えられる。	20%
幅広いカテゴリー全ての業態について説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する業態・業界について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントの仕事の役割と担当が判断できる	実際のイベント事例を通して、イベント制作・運営のフォーメーションとタスクについて理解できる。	30%
イベント実地研修で発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベント発想でしか作れない、気づかない点を見し、他者に理解できるように表現できる。	30%
評価の方法 各授業での小テストやレポート70%。試験で30%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション	16	イベントづくり①
2	イベントとは①	17	イベントづくり②
3	イベントとは②	18	イベントづくり③
4	イベントとは③	19	イベント企画の発想法①
5	イベント学①	20	イベント企画の発想法②
6	イベント学②	21	イベント企画の発想法③
7	イベント学③	22	イベント企画の実際①
8	イベントの意義①	23	イベント企画の実際②
9	イベントの意義②	24	イベント企画の実際③
10	イベントの意義③	25	イベント戦略とは①
11	イベントの意義④	26	イベント戦略とは②
12	イベントの機能①	27	イベント戦略とは③
13	イベントの機能②	28	イベントの効果①
14	イベントの機能③	29	イベントの効果②
15	総括・達成度の確認（今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する）	30	総括・達成度の確認（今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する）

【使用教材】

◇教科書：小坂善治郎:著『イベント学概論』リベルタス・クレオ
第1回講義で配付します（500円で販売します）。

◇PCやDVD（パワーポイント、エクセル、ワード、映像などのオリジナル教材）。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。各授業は遅刻厳禁、みんなで一緒に開始したい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

サービス産業概論	ヒノ タカオ 日野 隆生
Service Industry Theory	基礎科目／通年／4単位

【授業概要】

これまでの長い間、わが国の経済社会システムは、製造業を念頭において動いてきていた。このことが起因して「サービス産業」がわが国の経済発展を担う重要な産業であるとの位置づけが曖昧になりがちであった。「サービス産業」はわが国にとって製造業と両輪となって経済を牽引している。この点を先ず初めに明らかにしたい。そしてサービス産業が持っている特徴を明らかにする。主な点は、製造業と比較すると、サービス業は多種多様な縦割りの個別産業毎に活動している。なかなか把握しにくい点がここに存在するのであるが、よく究明してみると、実はこのような拠に価値を生産する機会がいっぱいある。新たなサービス機能へのニーズの高まりを捉えて欲しい。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「経済のサービス化」に関して理解する	レポート提出により評価する。 「サービス産業化」は、経済全般に及んでおり、農業も工業も例外なく進んでいることを説明できる。	20%
経済記事を読む能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読み、その内容を要約できる。	30%
経済記事を論評する能力	レポート提出により評価する。 経済記事を読んだのちに、自らの論評を文章化し論評できる。	30%
「付加価値提案」の重要性を理解する	レポート提出により評価する。 メーカーもサービス業も「従来にないサービスや機能」を実現するために、常に付加価値提案が求められていることを説明できる	20%
評価の方法 レポート50%、試験50%		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	オリエンテーション・授業の進め方	16	サービス産業の発展シナリオ(1)
2	サービス産業とは	17	サービス産業の発展シナリオ(2)
3	サービス産業の現状(1)	18	サービス産業の構成分析(新しい構造)
4	サービス産業の現状(2)	19	サービス産業のパイオニア企業の研究
5	サービス産業の分類(1)	20	サービス産業の新しい構造
6	サービス産業の分類(2)	21	サービスの国際化
7	サービス産業の分類(3)	22	サービス産業の新展開
8	サービスの概念	23	サービス業のケーススタディ(1)
9	サービスの構造	24	サービス業のケーススタディ(2)
10	サービスに対する評価	25	サービス業のケーススタディ(3)
11	サービスの生産	26	サービス業のケーススタディ(4)
12	サービス・エンカウンター	27	サービス業のケーススタディ(5)
13	サービスとブランド	28	サービス産業とイベント産業の展開(1)
14	サービス・プロフィット・チェーン	29	サービス産業とイベント産業の展開(2)
15	中間のまとめ	30	総括・達成度の確認・まとめ

【使用教材】

◇教科書：プリントを配布する。

◇参考書：『サービス・マーケティングの理論と実践』五紘舎

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席を取る。遅刻厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇サービス業界についてニュースなどで知ること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論 I	<small>エンジョウジ タカヒロ</small> 円城寺 敬浩
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では「企業論Ⅱ」で扱う諸問題を考えるための基礎的知識等の修得を目的とする。現代企業の諸形態やその役割を、またとくに株式会社におけるその基本的な仕組みや特徴等を理解することに重点をおく。必要に応じて、VTR等を利用することもある。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企業の意義および企業形態に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で企業の果たす役割やさまざまな企業形態の基本的な仕組みを理解しているか。	10%
株式会社の意義とその基本的な仕組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で株式会社の果たす役割や株式会社の基本的な仕組みを理解しているか（例えば会社機関など）。	30%
大企業の意義と日本企業の支配構造に関して理解していること	設問に関する回答によって評価する。現代社会の中で大企業が果たす役割や、日本企業の支配構造に関して理解できているか。	30%
大企業のコーポレート・ガバナンスに関する基本枠組みを理解していること	設問に関する回答によって評価する。大企業のコーポレート・ガバナンスに関する仕組み等を理解しているか。	30%
<p>評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「企業論Ⅰ」の意義と内容等に関する紹介
2	企業の役割	現代社会における企業の意義に関する理解
3	企業の諸形態①	企業形態に関する理解
4	企業の諸形態②	3回目のつづき
5	株式会社の誕生	株式会社の意義に関する理解
6	株式会社の仕組み①	株式会社に関する基本的な仕組みの理解
7	株式会社の仕組み②	株式に関する理解
8	株式会社の仕組み③	会社機関に関する理解
9	株式会社の仕組み④	8回目のつづき
10	大企業とは何か①	現代社会における大企業の意義に関する理解
11	大企業とは何か②	大企業の支配構造に関する理解
12	大企業とは何か③	日本企業の支配構造に関する理解
13	大企業とは何か④	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解①
14	大企業とは何か⑤	大企業のコーポレート・ガバナンスに関する理解②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年
- ◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

- ◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。
なお、1年生の受講生は毎年かなりのものが単位を落としているので、その点を留意して履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

企業論 I	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「企業とは何か」をテーマに、企業社会の中心的存在である「株式会社」に注目し、特に大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。企業社会や株式会社制度を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。企業とそれを取り巻く株式会社制度や企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。企業や株式会社制度の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	経済発展と生活の変化、 大企業の実態	戦後日本経済の発展と企業社会の成立
3	企業の戦略	企業の戦略とは何か
4	企業と消費者	企業と消費者との関係を考える
5	企業の国際化	多国籍化・グローバル化する企業
6	株式会社の歴史	株式会社制度成立の歴史を学ぶ
7	株式会社の機能と構造	会社の種類と仕組みを学ぶ
8	株式会社の現実	株式会社制度の実態を学ぶ
9	大企業とは何か	社会における大企業の役割を学ぶ
10	大企業の支配構造(1)	大企業を支配するものは誰か
11	大企業の支配構造(2)	大企業を支配するものは誰か
12	大企業の性格と機能	大企業の管理はいかになされているか
13	大企業の経営者	経営者支配の実態と責任
14	大企業のコーポレート ・ガバナンス	企業の統治機構の仕組みについて学ぶ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇初学者向けの内容のため2年次に履修することを推奨する。「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅱ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	<small>エンジョウジ タカヒロ</small> 円城寺 敬浩
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、主として日本の大企業に焦点を当て、それに関わる諸問題を取り上げていく。大企業に関わる諸問題の考察を通して、現代企業の実像に迫りたい。

必要に応じてVTR等を利用する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本型とは何か。またその議論の意義について理解できていること	設問に関する回答によって評価する。日本型を議論する意義について理解できているか。	10%
日本型の企業間関係について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の企業間関係と近年のその動向に関して理解できているか。	30%
日本型の雇用システムについて基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。日本型の雇用システムと近年のその動向に関して理解できているか。	30%
企業と社会との関係および企業の社会的責任について基本的な理解ができていること	設問に関する回答によって評価する。企業と社会との関係および企業の社会的責任の内容および意義について理解できているか。	30%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「企業論Ⅱ」の講義内容等の紹介
2	日本型企业システムの動向	「日本型」に関する考察
3	企業間関係①	企業集団に関する考察
4	企業間関係②	3回のつづき
5	企業間関係③	企業系列に関する考察
6	企業間関係④	5回のつづき
7	日本的雇用慣行①	終身雇用制や年功制等に関する考察
8	日本的雇用慣行②	7回のつづき
9	日本の文化と行動様式①	「日本型」を醸成する基盤に関する考察
10	日本の文化と行動様式②	9回のつづき
11	企業と社会	「企業と社会」に関する考察
12	企業の社会的責任①	企業の社会的責任の基礎概念の理解
13	企業の社会的責任②	企業の社会的責任の動向に関する考察
14	「企業論Ⅱ」の総括	「企業論Ⅱ」の総括と本試験に関して
15	本試験	「企業論Ⅱ」の内容の理解度を確認するために、ペーパー試験を実施

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸男編著『企業論』有斐閣アルマ、2006年

◇参考書：高橋俊夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較—米、英、独、仏、日の企業と経営—』中央経済社、2006年
高橋俊夫著『企業論の史的展開』中央経済社、2007年

【履修条件等】

◇他の受講生に迷惑を掛ける行為（私語等）をした場合、受験停止にする。

なお、1年生の受講生は毎年かなりのものが単位を落としているので、その点を留意して履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書や参考書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

企業論Ⅱ	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Modern Corporation II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

わたしたちの生活は、企業なしには成り立たないほど、企業に依存している。多くの人が会社組織に所属し、所得を得るための手段としてだけではなく、働きがいや生きがいを得る場となっている。

本講義では、現代の企業社会への関心を深め、企業やそこで働く人に関わる諸問題に対する、個々の問題意識の醸成を最終到達目標とする。「日本企業の特殊性は何か」をテーマに、日米の国際比較や日本的経営論を学ぶことによって、日本の大企業の機能と構造について学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態について専門用語を用いて正確に説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性や大企業の実態を読み解く諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。日本企業の特殊性とそれを取り巻く諸制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。日本企業に関する知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	企業と官僚制	官僚制組織の仕組みを学ぶ
3	企業組織の諸形態	組織の諸類型を学ぶ
4	企業組織と管理論の展開(1)	科学的管理と大企業の成立
5	企業組織と管理論の展開(2)	組織の管理とは何か
6	日本企業と従業員	日本企業における企業と従業員の関係を学ぶ
7	日本型株式会社制度の構造と実態	日本型株式会社制度の特徴とは何か
8	日本型企业結合様式の独自性	企業系列と企業集団
9	「家」としての日本企業	家の論理とは何か
10	日本的経営	日本的経営の理論と実態
11	企業の社会的貢献	企業の社会的貢献と社会的責任について学ぶ
12	企業と地域社会	企業と地域社会との関係について学ぶ
13	企業統治と企業倫理	企業倫理とは何か
14	社会的企業	社会的企業とは何か
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著『企業論（第3版）』有斐閣アルマ、2011年

【履修条件等】

◇初学者向けの内容のため2年次に履修することを推奨する。「経営学概論」などの基礎科目を修得済みであること。「企業論Ⅰ」と合わせて履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論（春学期）	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では経営管理に関する基礎的理論を学ぶ。講義を通じて、「現代企業において望ましい経営管理とはどのようなものか」など、学生自らが考える力を身につけてもらいたい。「経営管理論」（春学期）では、経営管理に関する理論がどのように展開されてきたかを中心にみていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
「管理の科学化」とは何かを理解する	設問に対する解答によって評価する。管理の科学化の意義について理解できていること。	20%
「管理活動」とはどのようなものかを理解する	設問に対する解答によって評価する。管理活動がどのような要素で構成され、またどのような流れで展開されるのかを理解できていること。	20%
「人間関係論」の管理とはどのようなものか理解する	設問に対する解答によって評価する。人間関係論に基づく管理方法を理解できていること。	20%
バーナードの管理論を理解する	設問に対する解答によって評価する。組織を存続させるための管理方法を理解できていること。	20%
さまざまな動機付け理論を理解する	設問に対する解答によって評価する。部下を動機づけるさまざまな方法を理解できていること。	20%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「経営管理論」講義の全体の流れ等紹介
2	経営管理とは	経営管理が扱う領域の理解
3	経営管理の誕生①	科学的管理の理解
4	経営管理の誕生②	3回目のつづき
5	フォードの管理と思想	科学的管理の発展と応用に関する理解
6	ファヨールの管理	管理プロセスに関する理解
7	人間関係論①	人間関係に関わる管理の理解
8	人間関係論②	7回目のつづき
9	バーナードの管理①	バーナード理論の理解
10	バーナードの管理②	9回目のつづき
11	バーナードの管理③	10回目のつづき
12	動機付け理論①	X・Y理論等の動機付けに関する理論の理解
13	動機付け理論②	12回目のつづき
14	動機づけ理論③	13回目のつづき
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学修達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇他の学生に迷惑を掛ける行為をした場合（私語等）、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自、その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論（秋学期）	エンジョウジ タカヒロ 円城寺 敬浩
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義ではマネジメントに関する基礎的理論を中心に学ぶ。講義を通じて、「現代企業における望ましいマネジメントとはどのようなものか」など、学生自らが考える力を身につけてもらいたい。経営管理論（秋学期）では、とくにトップ・マネジメントに関わる理論（リーダーシップや経営戦略）をみていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
管理者として必要とされるさまざまなリーダーシップを理解する	設問に対する解答によって評価する。効果的なリーダーシップとはどのようなものか理解できていること。	30%
「経営戦略とは何か」、また「経営戦略の基本的枠組み」を理解する	設問に対する解答によって評価する。経営戦略の意義および、全社戦略および事業戦略の基本的枠組みを理解できていること。	35%
「企業文化とは何か」、また企業文化をマネジメントするにはどうすべきかを理解する	設問に対する解答によって評価する。企業文化をマネジメントする方法等を理解できていること。	35%
評価の方法 本試験70%、受講態度等30%、レポート等（+α）で総合的に評価する。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	「経営管理論Ⅱ」の講義の流れ等紹介
2	リーダーシップ①	リーダーシップの理解
3	リーダーシップ②	リーダーシップの資質論に関する理解
4	リーダーシップ③	リーダーシップの形態論に関する理解
5	リーダーシップ④	リーダーシップの状況論に関する理解
6	リーダーシップ⑤	5回目のつづき
7	資源の管理①	経営戦略の意義に関する理解
8	資源の管理②	企業戦略の基本的な考え方の理解
9	資源の管理③	事業戦略の基本的な考え方の理解
10	資源の管理④	9回目のつづき
11	文化の管理①	企業文化の意義に関する理解
12	文化の管理②	企業文化の管理に関する理解
13	文化の管理③	12回目のつづき
14	文化の管理④	13回目のつづき
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇他の学生に迷惑を掛ける行為をした場合（私語等）、受験停止にする。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予習よりも復習を重視する。講義開始時に前回の復習を簡単にするが、各自、その都度、理解するように復習しておくこと。予習は教科書等を利用して、事前に講義関連箇所を読んでおくことをすすめる。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営管理論	ワタナベ ヤスヒロ 渡辺 泰宏
Business Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義では、大規模化・複雑化が進行する現代企業を運営する上で必要な「管理」に関する知識を習得し、現代企業が抱える諸問題を考察する。講義の最終到達目標は、経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるようになることである。講義は、主に経営管理論史の変遷を概観し、経営管理に関する基礎理論を学ぶ。具体的な企業事例なども参考にすが、経営管理の諸理論を中心に学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
専門用語の理解	本試験で評価する。経営管理の専門用語を正確に理解し説明できるか。	20%
理論の内容と変遷の理解	本試験で評価する。経営管理の諸理論の内容と変遷を理解し説明できるか。	20%
理論と制度の理解	本試験で評価する。経営管理と現代企業制度の結びつきを理解し説明できるか。	20%
知識の応用	本試験で評価する。経営管理の知識を応用し、現代企業に関する自分の意見や考えを論理的に説明できるか。	40%
評価の方法 本試験およびレポート等を80%、受講態度を20%とする。		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の概要と評価方法等について
2	産業革命以前の管理	産業革命以前の社会変化とマネジメント
3	産業革命	産業革命と管理
4	アメリカの産業発展	ビッグビジネスの成立
5	科学的管理①	テイラーシステムとは何か
6	科学的管理②	能率主義と科学的管理の普及
7	全社的管理	ウェーバーの官僚制論、ファヨールの管理論
8	ホーソン研究①	ホーソン研究の概要
9	ホーソン研究②	人間関係論の展開
10	経営管理と経営組織①	チェスター・バーナードの組織論的管理論
11	経営管理と経営組織②	メアリー・フォレットの管理論
12	意思決定の科学	意思決定の諸理論
13	リーダーシップ研究	リーダーシップの諸研究
14	モチベーション研究	モチベーションの諸研究
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男編著『経営管理』有斐閣アルマ、2009年

【履修条件等】

◇経営学全般の基礎知識を必要とするため3年次以降の履修が望ましい。経営学の関連基礎科目を修得済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇参考書や関連書籍の内容を予習、復習して講義に出席することが望ましい。また、講義内容をふまえて、現実の経済や経営についての関心を深めるよう心掛けること。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

経営組織論 I	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、さまざまな角度からこの組織について考えていきます。

「経営組織論 I」では、社会学から見た組織論の位置づけ、組織論の歴史、組織とは何か、システムとしての組織、組織の具体的な形態について学びます。

授業は一方向的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
組織の概念を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
組織に関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
さまざまな組織モデルの違いを理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
組織理論を応用して、具体的な方法を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	経営組織論とは	マクロ、ミクロの違い、社会学における位置づけ
2	学説(1)	科学的管理法
3	学説(2)	官僚制
4	学説(1)、(2)の問題点	ビデオによる解説
5	学説(3)	人間関係論
6	学説(4)	バーナードの組織論
7	学説(5)	サイモンの意思決定論
8	学説(6)	コンティンジェンシー理論とネオコンティンジェンシー理論
9	学説(7)	情報処理モデルと資源依存モデル
10	メタファー	メタファーとしての組織モデル
11	学説(8)	J. D. トンプソンの組織理論
12	組織構造	ライン、ファンクショナル、ライン・アンド・スタッフ
13	組織形態	職能別組織、事業部制組織、その他
14	まとめ	非合理的組織論
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営組織論Ⅱ	ヤマグチ ヨシアキ 山口 善昭
Organization Theory II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営学は、一般に企業を研究対象としますが、企業にもさまざまなものがあります。そこで組織という抽象概念を用いてどのような企業にでも適用できるようにしています。しかし、この組織というものがどのようなものかはまだはっきりとはわかっていません。この授業では、人間を中心に組織をとらえていきます。

「経営組織論Ⅱ」では、個人行動、モチベーション（動機づけ）、リーダーシップ、非合理的意思決定、暗黙知などについて学びます。

授業は一方的に講義してもあまり効果がないと考えています。したがって、授業は講義と質問を織り交ぜて行います。質問には積極的に答えるようにしてください。その方が、理解が早いと思います。

また授業は出席するのが基本です。怠けて授業を休みすぎたり教室を抜け出したりして単位をもらえることは絶対にありませんから、怠けたい人は受講しない方がよいでしょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
個人行動の傾向を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな概念に説明できること。	25%
動機づけに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。組織に関するさまざまな学説を説明できること。	25%
リーダーシップに関する理論を理解していること	設問に対する回答によって評価。パラダイムの違いを説明できること。	25%
各理論を応用した、具体的な施策を提案できること	設問に対する回答によって評価。理論を理解し具体的な方法を提案できること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を必要条件として試験95%、授業参加度5%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経営組織論とは	ミクロの組織論とは
2	個人行動(1)	個人行動とは、知覚
3	個人行動(2)	態度、パーソナリティー、
4	個人行動(3)	学習
5	モチベーション(1)	マレーの欲求リスト
6	モチベーション(2)	マクレランドらの達成欲求他
7	モチベーション(3)	マズローの欲求5段解説
8	モチベーション(4)	アージェリスの不適合理論
9	モチベーション(5)	ハーズバーグの二要因理論
10	モチベーション(6)	ハルの動因理論と期待理論
11	モチベーション(7)	ポーター＝ローラーの期待理論とアダムスの公平理論
12	リーダーシップ(1)	特性理論と行動理論
13	リーダーシップ(2)	状況理論
14	認知的不協和	センスメーカー他
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：高橋、山口、磯山、文著『経営組織論の基礎』中央経済社、1998年

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇事前に教科書を読んでおくこと。

【その他の注意事項】

◇欠席が多いと試験を受けられません。

経営戦略論 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方について
2	経営戦略の意義	なぜ経営戦略が必要なのか
3	経営戦略の体系①	経営戦略と戦術の役割
4	〃 ②	経営理念とビジョンの役割
5	〃 ③	経営戦略の3つのタイプ
6	〃 ④	経営戦略の構成要素
7	製品・市場戦略①	アンゾフの成長ベクトル
8	〃 ②	多角化戦略と相乗効果（シナジー）
9	〃 ③	市場細分化戦略
10	〃 ④	新製品開発と新市場開拓
11	競争戦略の要点①	ポーターの競争戦略と5つの競争要因
12	〃 ②	競争戦略の基本モデル(1) コストリーダーシップ
13	〃 ③	競争戦略の基本モデル(2) 差別化と集中化
14	〃 ④	価値連鎖（バリューチェーン）
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、秋学期開講の「経営戦略論Ⅱ」の基礎となる科目です。「経営戦略論Ⅱ」の履修を希望する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項など重要な内容を説明をしますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論 I	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

世界の経済環境は先進国の厳しい現状に比較して、振興国での目覚ましい発展は目を見張る状況です。このような経済環境の変化に対して、今まで先進国が主要な客先であった日本企業の変容は、なかなか見ることができません。加えて韓国企業の強さや世界の工場から消費市場への転換を図る中国・東南アジアに対して日本企業はどのような経営戦略を考える必要があるのでしょうか。これからの日本の企業の将来を踏まえた経営戦略をどのように考えるべきかを一緒に学んで行きたいと考えています。さらに新興国市場や世界のプレイヤーがターゲットとする「BOPビジネス」を考える上で、企業の社会的責任も十分に考慮する必要があります（BOPビジネスについては学外講師を予定しています）。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の専門用語を正しく理解して、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価する。経営戦略の定義、歴史、その背景などを、具体例の中から、自ら理解し、回答・説明ができること。	20%
経営戦略の各種理論を学び、その理論について、説明できるようにする	各種の設問に対する回答によって評価する。経営戦略論の各種理論や考え方を学び、企業戦略の中でどのように活用されているかの理解を深める。	20%
経営戦略論が、現実社会の中で、実際どのように活用されているかを理解し、説明できるようにする	レポートに対する回答によって評価する。具体的な企業の戦略を見ながら、なぜそのような経営戦略を取ったのかの背景を理解するとともに、社会・経済環境の変化をどのように取り入れているかを考える。	25%
経営戦略論の基本について理解し自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。春学期に学んだ経営戦略論の全体像について、具体的な企業戦略と照らし合わせながら理解し、経営戦略論の全体像を掴む。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講座の狙いと目的
2	経営戦略論・理論Ⅰ	チャンドラーの理論と経営戦略の考え方
3	経営戦略論・理論Ⅱ	アンゾフ意思決定論・BCGの分析的な経営戦略論
4	経営戦略論・理論Ⅲ	ポーターの競争戦略について（SWOT分析）
5	経営戦略論・理論編Ⅳ	経営資源論とリソース・ベスト・ビュー
6	経営戦略とCSR	経営戦略と日本のCSRの関係性
7	ステイクホルダー論	経営戦略の視点としてのステイクホルダー論
8	社会性の課題・Ⅰ	経営戦略と消費者問題
9	経営戦略・具体例・Ⅰ	新市場としてのBOPビジネス（学外講師予定）
10	経営戦略・具体例・Ⅱ	世界と日本のBOPビジネス戦略（学外講師予定）
11	経営戦略・具体例・Ⅲ	日本の企業とBOPビジネス市場（学外講師予定）
12	社会性の課題・Ⅱ	経営戦略の中での女性の活用とその課題
13	社会性の課題・Ⅲ	経営戦略上の労働問題とCSR
14	全体のまとめ	春学期を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけないこと（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

経営戦略論Ⅱ	オガワ タツヤ 小川 達也
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経営戦略に関する基礎的理論と実践的知識を修得し、現代企業が戦略を策定・実行する際に直面する諸課題についての洞察力を養います。授業は教科書を中心にパワーポイントとプリントを併用しながら丁寧に進めます。また、時事問題や事例研究を適宜取り入れることで理論と実践のバランスを図り、経営戦略への理解を深められるように工夫します。受講生の質問には解説を加えて回答し、創造的でインタラクティブな授業を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
授業で取り上げた専門用語を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた用語の定義や概念をしっかりと把握し、他の用語と混同しないように説明できること。	20%
授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の基礎的理論の定義や概念、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の実践的知識を正しく理解し、説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。授業で取り上げた経営戦略の実践的知識の概念や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、正しく説明できること。	30%
授業で取り上げた経営戦略の理論と知識を広く理解し、応用して説明することができる	授業中に行う質疑や出席カードの備考欄に記述するコメント、本試験の設問に対する回答で評価。経営戦略の実践的知識を複数把握し、授業で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明できるとともに諸課題方針をしっかりと論述できること。	20%
評価の方法	授業回数に対して出席回数が3分の2以上の受講生に限り評価します。成績は受講態度40%、本試験60%を目安に決定します。授業への積極的な参加姿勢はもちろん、授業終了後に提出するコメントや本試験の内容など、総合的な学習成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【重要】ガイダンス	授業の概要と評価方法、学び方、本試験の結果について
2	競争優位の構築①	競争優位の源泉とコア・コンピタンス経営
3	〃 ②	特許を活用した戦略展開
4	〃 ③	知的財産権の役割と戦略的重要性
5	経営資源の展開①	経営戦略と経営資源の関係
6	〃 ②	経営資源の蓄積と経験効果の戦略的活用
7	〃 ③	P P M (プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント) の意義
8	〃 ④	P P Mの基本戦略とG Eのビジネススクリーン
9	〃 ⑤	P P Mの応用展開：M&A (企業の合併と買収) の意思決定
10	ドメインの意義①	ドメインの役割
11	〃 ②	ドメインの物理的定義と機能的定義
12	〃 ③	ドメイン・コンセンサス
13	〃 ④	ドメインの再定義
14	〃 ⑤	ドメインの選択と集中の重要性
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施します

【使用教材】

◇教科書：岸川善光著『経営戦略要論』同文館出版、2006年

◇参考書：大滝精一、金井一頼、ほか著『新版・経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』有斐閣アルマ、2006年

【履修条件等】

◇この科目は、春学期開講の「経営戦略論Ⅰ」の単位修得者を対象に進めます。「経営戦略論Ⅱ」を履修する場合は、まず「経営戦略論Ⅰ」の単位を修得してください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出しますが、授業中にその都度、用語を解説することはできません。そのため、わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、授業に備える必要があります。

◇刻一刻と変化する企業・産業界の動向に関心を持ち、日頃から経済新聞や経済雑誌をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇第1回目の授業は、ガイダンスを行います。この科目の学び方や評価方法、注意事項の説明に加えて、春学期に実施した「経営戦略論Ⅰ」の本試験の結果を解説します。今後、学習する上で参考になる内容を取り上げますので、必ず出席してください。

◇授業中に携帯電話やタブレット、パソコン、カメラなどの電子デバイス類を許可なく使用することを禁止します。指示に従わない場合は減点の上、欠席扱いとします。

経営戦略論Ⅱ	クロダ ヒデオ 黒田 秀雄
Strategic Management Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

景気の状態は大変不透明感があり、経営戦略には有効性がないといわれることもあります。そのような状況の時にこそ、経営戦略やビジネスモデルへの振り返りが必要です。そこで、秋学期は、さらに企業の環境戦略や経営上の各種問題点に焦点を当てた経営戦略を分析し論じていきたい。さらに、日本の新興国開拓上でライバルとなる韓国企業の優れた点も、サムソン・LG・現代自動車の比較をしながら検証して行きます。また新しい経営戦略の視点である「BOPビジネス戦略」に対しても、本学の「BOPビジネス研究会」を通じた内容について披露していきたいと考えています。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
経営戦略論の基本をさらに掘り下げ基本的な理論を理解する	設問に対する回答によって評価する。秋学期に学ぶべき理論の基礎を理解する。また事例の中から、その理論の内容をさらに理解する。	20%
基本的な理論につき、その理論について説明できるようにする	各種の設問の回答によって評価する。学んだ事業戦略や経営戦略が、具体的な企業活動の中で、実際にどのように活用されているかの理解を深める。	20%
基本的な理論を活用するために、各種の手法を学び、内容を理解する	レポートに対する回答によって評価する。企業の置かれている市場を理解し、分析手法を学び、実際に企業として、どのように経営戦略として活用しているかについてさらに理解する。	25%
経営戦略論の全体像を顧みながら、自分の言葉で説明できるようにする	期末試験によって評価する。授業内で紹介した数々の事例を理解し、事業戦略から展開する経営戦略論の重要性を理解し、自分の言葉で表現できるようにする。	25%
評価の方法 授業参加度20%、レポート40%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の全体像のガイダンス
2	企業経営と環境Ⅰ	企業経営に及ぼす環境問題
3	企業経営と環境Ⅱ	企業の経営戦略と環境問題
4	企業と地域社会	企業市民（企業）としての地域社会との付き合い方は？
5	企業と非営利組織	企業とNPO・NGO・ソーシャルアントレプレナーと関係性
6	企業のデザイン戦略	企業のデザイン戦略を考える！
7	金融機関の経営戦略	規制業種の金融機関の経営戦略とは？
8	企業と取引先	企業の戦略と下請け企業の関係性とは？
9	企業とガバナンス	企業にとってのコーポレートガバナンスのあり方とは？
10	韓国企業の経営戦略	韓国企業はなぜ強い。サムソン・LG・現代自動車の比較分析
11	グローバル企業戦略	グローバル企業の経営戦略とグローバル人材について
12	学外講師の講演	世界で活躍する企業の方をお招きします。
13	経営戦略とマネジメント	経営戦略が優れていても実行されなければ「絵に描いた餅」である。経営戦略とマネジメントの関係性を考える。
14	秋学期のまとめ	秋学期の全体像を振り返る
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：谷本寛治編著『CSR経営』中央経済社

◇参考書：井上善海・佐久間信夫編著『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房

【履修条件等】

◇授業中に他の学生に迷惑をかけること（私語、携帯電話・スマートフォンの操作・音楽プレイヤーの使用などを禁じます）。「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」を通年で履修すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学・経営戦略は、世界・日本の経済と連動していますので、新聞やニュースをよく注視してください。翌週の講義内容について、事前にテキストに目を通すように努力しましょう。

【その他の注意事項】

◇学外講師の方も、授業に参加していただくこともありますので、遅刻しないようにしてください。

経済学概論 I	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？ たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？ あなたならどう答えますか？ こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題等によって成績を評価する。	定期試験90%、課題およびリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	経済主体と経済活動	経済とはなにか
3	消費	所得と消費の関係
4	投資	投資の理論
5	政府支出	財政の役割
6	政府の役割①	財源
7	政府の役割②	財政赤字の問題
8	決済	為替取引
9	貿易と決済	内国為替と外国為替
10	GDP	経済成長と経済の豊かさとは
11	戦後日本経済史（前編）	戦後からバブル崩壊まで
12	戦後日本経済史（後編）	バブル崩壊後の日本経済
13	景気指標	D I、C I、日銀短観
14	物価	インフレとデフレ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

経済学概論Ⅱ	シミズ ヨシキ 清水 良樹
Introduction to Economics Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

経済はわたしたちの生活に密着しています。経済現象は日常生活にあふれていますが、これに疑問をもったことはありませんか？たとえば、商品には必ず価格がついていますが、そもそもこの価格というのは何でしょうか？あなたならどう答えますか？こうした疑問に答えるためには、経済学を学ばなければいけません。

本講義では経済学の基礎理論を学ぶことを通して、わたしたちが生活している社会の仕組み、そして現代の経済問題を分析していきます。経済問題を議論できるエコノミストの視点を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎理論の習得 ・ 現代の経済問題に対する経済学的視点を養う 	定期試験の結果と課題によって成績を評価する。	定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%
<p>評価の方法 定期試験90%、課題やリアクションペーパー等の平常点10%により総合的に判断して成績を評価します。ただし、5回以上欠席した者の単位取得を認めない。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容、評価方法についての説明
2	需要と供給	需給関係の変化と価格への影響
3	価格の決定	価値と価格
4	弾力性	価格変化
5	費用と便益	大学進学のコストと便益を考える
6	生産性	生産性を上昇させる方法
7	雇用	大学生の就職状況
8	株式と債券	株式と債券のちがい
9	金融政策①	お金とは
10	金融政策②	中央銀行の役割
11	決済システム	日銀ネット
12	経済危機①	景気循環における恐慌
13	経済危機②	危機対応策
14	バブルの歴史	世界で起こったバブル現象
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：指定しない。
- ◇参考書：講義の中で適宜指示する。

【履修条件等】

- ◇他者に迷惑をかける行為（私語など）は慎むこと。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇経済の動向を勘案して授業計画を変更することがある。

マーケティング概論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングの基本的な理論と戦略について学習する。企業の経営な活動の中で、マーケティングがどのような役割を担っているのかを学んだ後、戦略を立案する際に必要な分析方法や理論を中心に解説する。実在の企業や商品の例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくことも目的としている。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティングの基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、マーケティングに関する用語を答えられること。	25%
マーケティング戦略立案のための環境分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な環境分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための市場分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な市場分析の手法について理解し、答えられること。	20%
マーケティング戦略立案のための競争分析について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略を立案するために必要な競争分析の手法について理解し、答えられること。	20%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティングとは	授業の内容とマーケティングの考え方
2	マーケティング・コンセプト	コンセプトの変遷、ニーズとウォンツ
3	マーケティングの範囲	事業領域の設定、マーケティング・マイオピア
4	マーケティングのプロセス	4 P 概念、マーケティングの実行プロセス
5	環境分析(1)	企業を取り囲む環境、機会と脅威
6	環境分析(2)	企業の強みと弱み、SWOT分析
7	市場細分化	市場細分化と細分化の切り口、ターゲットの選定
8	ポジショニング	ポジショニングマップによる分析、製品差別化
9	製品ライフサイクル	製品の寿命とライフサイクル、ライフサイクル別戦略
10	ポートフォリオ分析	ポートフォリオ・マトリックス、戦略的事業単位
11	製品・市場マトリックス	アンゾフの製品・市場マトリックスと成長ベクトル
12	競争分析	競争のファイブ・フォース、集中度の分析
13	競争優位戦略 1	競争の激しさを決める要因、参入障壁と参入阻止戦略
14	競争優位戦略 2	業界の競争戦略分析、競争の基本戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、マーケティング論の歴史から現代社会におけるマーケティングとは何か、そしてどのように活用するか、具体的事例とともに学ぶ。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
戦略としてのマーケティング論を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容の製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、プロモーション戦略など、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティング・コンセプト	マーケティング・コンセプトの変遷
3	基本的戦略	マーケティングの基本的戦略
4	製品戦略①	マーケティング論における製品の概念
5	製品戦略②	製品ミックス戦略、新製品開発
6	価格戦略①	価格決定方法
7	価格戦略②	価格戦略
8	プロモーション戦略①	プロモーションの概念
9	プロモーション戦略②	プロモーションの手段
10	流通チャネル戦略①	流通チャネルの概念と類型
11	流通チャネル戦略②	流通チャネル戦略
12	関係性マーケティング	リレーションシップ・マーケティングとは何か
13	グリーン・マーケティング	グリーン・マーケティングとは何か
14	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの意義と方法
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇教科書：西田安慶、城田吉孝編著『マーケティング戦略論』学文社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的な用語について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。マーケティングの定義、コンセプトの変遷、マーケティング・ミックス、マーケティングの範囲について答えられること。	25%
市場環境の分析について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。企業を取り巻く環境、環境を分析するための考え方などについて答えられること。	25%
消費者行動とマーケティング戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。消費者を購買に導く、動機づけやそのフレームワーク、個人的な要因について答えられること。	25%
製品戦略とブランドについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。製品のとらえ方、製品開発に関わる考え方、ブランドについて答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方、マーケティングとは何か
2	マーケティングのコンセプトと基本用語	コンセプトの変遷について
3	マーケティング・ミックス	4 P の概念について
4	マーケティングの範囲	マーケティングの対象について
5	市場環境の分析 (1)	企業のマイクロ環境、SWOT分析について
6	市場環境の分析 (2)	企業のマクロ環境、人口動態環境などについて
7	消費者行動 (1)	消費者の意思決定プロセスについて
8	消費者行動 (2)	意思決定に影響する要因について
9	マーケティング戦略の基礎	市場細分化、ターゲティング、ポジショニングについて
10	製品戦略 (1)	製品のとらえ方について
11	製品戦略 (2)	サービスや組織のマーケティングについて
12	事例研究	製品戦略の事例について
13	製品開発	製品開発と製品ライフサイクルについて
14	ブランドマネジメント	ブランド・エクイティとブランド・アイデンティティについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

- ◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of Marketing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングとは、企業と顧客との関係を良好なものとし、商品やサービスが売れ続けていくための基盤をつくる活動です。商品開発や販売促進、広告、広報、マーケティングリサーチ、流行分析など、幅広い範囲がここに含まれます。

この講義ではその考え方に慣れ親しみ、最新の具体的な事例を示しながら、マーケティングの仕事を楽しいと感じてもらえるような講義を志向します。受動的な知識取得ではなく、自分自身で情報を収集し、自分の言葉で考える訓練を取り入れます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングに関する仕事や言葉を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト等により評価。 「企業側の視点から、商品やブランド、消費行動を捉えているか、捉えようとしているか」を評価ポイントとする。	25%
マーケティングで使われる考え方の方法論に触れ、自ら実践する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「仮説立案、ターゲティング、コンセプトを、一定のフォーマットに沿って表記できるか」を評価ポイントとする。	25%
商品開発や販売促進、広告等の計画立案の仕組みを理解する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「一定のマーケティング目的を達成するためのプロモーションミックス計画の概要を表記できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ヒット商品の秘密を探る	身近な商品に込められた戦略とは？
2	マーケティング思想の変遷	産業・経済の変化とマーケティングの変化
3	製造業のマーケティング	商品開発、ブランド政策、4P
4	流通業のマーケティング	顧客関係、店頭対策、物流、PB
5	マーケティングの仕事とは？	マーケティング関連の職種、業種、仕事内容
6	リサーチと仮説立案	調査手法、調査設計～分析、グラフ表現
7	ターゲティング	顧客・市場のセグメンテーション方法
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	消費者心理を考える	最近の消費者行動、消費者の本音とは？
10	コンセプトワーク	コンセプトの意義、事例研究
11	広告戦略	広告表現、媒体戦略、事例研究
12	販売促進戦略	セールスプロモーションの手法と事例研究
13	広報戦略	広報、PR手法と事例研究
14	マーケティング計画	マーケティング計画のシミュレーション
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。

◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。

◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。

新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

マーケティング概論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、マーケティングを実践するための基本的な戦略と理論について学習する。製品戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略というパートに分け、それぞれの戦略を立案するための基本的な知識を習得するのが狙いである。実在の企業例を取り上げ、マーケティングを現実的な問題として理解していくとともに、新しいマーケティングの流れについても解説する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティング戦略に関わる専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略のアプローチ方法を理解し、マーケティング戦略に関する用語を答えられること。	20%
マーケティングにおける製品戦略と価格戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略における製品戦略の手法やブランド理論、価格戦略等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングにおけるプロモーション戦略と流通戦略について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略におけるプロモーションの種類やアプローチ方法、流通の仕組み、流通戦略の手法等について理解し、答えられること。	25%
マーケティングの最新の動向や理論について理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。マーケティング戦略の最新の動向やソーシャルマーケティング、関係性マーケティングの理論について理解し、答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	マーケティング戦略とは	授業の内容とマーケティング戦略について
2	製品の基礎知識	製品の中核便益と付随機能、新製品の種類
3	新製品開発戦略	新製品の開発プロセスと事例
4	製品ミックス戦略	製品のアイテムとライン、製品ライン戦略
5	ブランド・マネジメント 1	ブランドの役割、ブランドロイヤルティ
6	ブランド・マネジメント 2	ブランド名戦略、ブランド拡張戦略
7	価格戦略 1	価格の決定方法、新製品の価格戦略
8	価格戦略 2	製品ミックス、心理面を考慮した価格戦略
9	流通の仕組み	流通の仕組みと役割、日本の流通システムの特徴
10	流通チャネル管理	チャネルの選択と管理、パワーコンフリクト
11	プロモーション戦略の基礎	プロモーションの種類、プロモーション・ミックス
12	広告戦略	目的設定と媒体の選択、メディア・ミックス戦略
13	販売促進とPR活動	販売促進の目的設定と手段、PR戦略
14	ソーシャルマーケティング 関係性マーケティング	非営利組織のマーケティングと社会志向のマーケティング、顧客との関係作りの戦略
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇私語を慎み周囲に迷惑をかけること。

◇「マーケティング概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

マーケティング概論Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングという用語は、ビジネス社会において、しばしば見聞きするが、多様な意味に用いられ、また、時代とともに概念は進化してきている。

マーケティングは、企業の基本的機能のひとつであるが、あらゆる経営体に適応可能であると考えられる。

本科目では、伝統的なマーケティング論をもとに、サービス業を中心としたマーケティングの理論と具体的なケースをとりあげる。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
マーケティングの基本的用語を理解する	授業内の小レポートによって評価する。 講義内容の要約を記述した小レポートによって、マーケティング論の基本的用語の理解度を判定する。	40%
サービス・マーケティングの特質を理解する	レポート提出によって評価する。 テキスト内容のケースから、マーケティング戦略についての記述内容によって評価する。	20%
現代におけるマーケティングの意義を理解する	期末試験によって評価する。 マーケティング論の現代における意義について、記述内容によって評価する。	40%
評価の方法 授業内小レポート40%、レポート20%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	サービスの特性	サービスの概念
2	サービスに対する満足	顧客の期待と評価
3	サービスの生産管理	サービス独自の生産管理
4	サービス・エンカウンター	エンカウンターとは何か
5	サービス・ブランディング	サービス・ブランディングとは何か
6	利益の発生原理	サービス・プロフィット・チェーン
7	サービスの国際化	サービスの類型とマーケティング戦略
8	テーマパーク	テーマパークのマーケティング
9	宿泊施設	ホテル、ペンション、民宿のマーケティング
10	医療サービス	医療におけるサービスとマーケティング
11	介護サービス	介護サービスとマーケティング
12	スポーツ	スポーツ・マーケティング
13	観光	観光マーケティング
14	まちづくり	まちづくりのマーケティング
15	総括・達成度の確認	マーケティング論の基本的な考え方について確認する

【使用教材】

◇松井温文編著『サービス・マーケティングの理論と実践』五紘舎

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストの該当部分を読んでくる。

◇さまざまなメディアによってマーケティングに関するニュースを見つけてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

マーケティング概論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principles of Marketing Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

マーケティングの基礎知識から、マーケティングにおけるマネジメントの考え方、マーケティングの実際までを理解する。マーケティングは、商品やサービスの販売を促進する手段として捉えられがちであるが、企業の戦略や非営利組織の活動とも深く関わっている。製品を開発する企業、製品を消費者に届ける流通業、製品を購入し利用する消費者など、さまざまな視点からマーケティングを学習する。テキストだけでなく、事例なども用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
価格戦略と流通戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。価格戦略、流通チャネルの構造、流通に関連する組織、チャネルの設計について答えられること。	25%
広告戦略について理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。広告の種類、広告目標、媒体戦略、表現戦略について答えられること。	25%
販売促進、PR、人的販売、リレーションシップ・マーケティングについて理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。販売促進の種類、PRの仕組み、人的販売の役割、リレーションシップ・マーケティングに関連するコンセプトについて答えられること。	25%
グローバルマーケティングとインターネット・マーケティングについて、理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。グローバルマーケティングの課題、インターネット・マーケティングの可能性と問題点について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、価格、流通、販売促進戦略について
2	価格戦略	価格の設定方法について
3	流通チャネル (1)	流通チャネルの構造と関連する組織について
4	流通チャネル (2)	チャネルの設計、小売業と卸売業について
5	事例研究 (1)	流通の事例について
6	広告戦略 (1)	目標や媒体の選択について
7	広告戦略 (2)	広告の表現について
8	販売促進とPR	プロモーションの種類とPR活動について
9	事例研究 (1)	広告の事例について
10	人的販売とリレーションマーケティング	人的販売、リレーションシップ、顧客満足について
11	グローバルマーケティング	グローバル環境とマーケティングミックスについて
12	事例研究 (3)	リレーションシップマーケティングについて
13	インターネット・マーケティング (1)	インターネットを用いたマーケティングについて
14	インターネット・マーケティング (2)	インターネットを用いたマーケティングについて
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：使用せず。
- ◇参考書：『現代マーケティング論』実教出版

【履修条件等】

- ◇「広告論Ⅰ」、「広告論Ⅱ」、「消費者行動論Ⅰ」、「消費者行動論Ⅱ」、「流通論Ⅰ」、「流通論Ⅱ」などの関連科目を受講することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇本やニュースで関連した資料について目を通しておくこと。

【その他の注意事項】

- ◇授業に集中すること。態度が悪い場合には、退出を命じる場合もある。

マーケティング概論Ⅱ	ヤマカワ サトル 山川 悟
Principles of Marketing II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「マーケティング概論Ⅰ」の延長として、業種別・商品別マーケティングを掘り下げる応用編の講義を行います。消費財、生産財、サービス財のみならず、スポーツや技術、観光など、かつてはマーケティングの対象でなかったジャンルや、「顧客参加」、「キャラクター」、「経験価値」、「ソーシャル」、「インターネット」といった最新のトレンドも含め、具体的なケースから学んでいきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
最新のマーケティングの事例を理解し、興味・関心を持つようになる	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたケースの背景・狙い・戦略を理解したうえで、記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
最新のマーケティングで使われる方法論に触れ、自らケースを分析する	講義中の質疑応答、ワークショップ、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたマーケティングの方法論に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	50%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	近年のマーケティングトレンド	授業の進め方、近年の動向説明
2	消費財のマーケティング	飲料、食品等の商品開発と販売促進戦略
3	サービス財のマーケティング	サービス財の特性と4つの対応戦略
4	生産財のマーケティング	法人向け商品のマーケティング・営業支援策
5	スポーツマーケティング	スポーツ産業、スポーツコンテンツ活用戦略
6	キャラクターマーケティング	キャラクターを活用した事例研究
7	技術のマーケティング	技術を商品として捉えたときの戦略発想
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	顧客参加型マーケティング	顧客を企業プロセスに組み入れる戦略
10	インターパーソナルマーケティング	顧客間関係に注目した商品開発や販売促進
11	観光マーケティング	観光目的地・旅行業界のマーケティング
12	経験価値マーケティング	身体的・精神的・美的な感動のもたらし方
13	ソーシャルマーケティング	社会貢献活動とマーケティング
14	Web活用のマーケティング	web利用の商品開発・販売・ブランディング
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：テーマに応じて、参考資料を紹介。

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」を受講していること。あるいはそれと同等の知識ベースを持っていること。
- ◇新製品や広告、メディア、店舗、デザインなどに興味があること。
- ◇講義中に議論やアイデア抽出を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名についての知識を深めておくこと。
- ◇新聞を読むことや、テレビCMなどを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

広告論 I	ナカオ タカトシ 中尾 孝年
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

クリエイティブなアイデアの発想方法から実際の広告の企画、表現、統合的なキャンペーン提案にいたるまでを実践形式で学んでいただきます。

学生の皆さんの新しくて柔軟な発想に出会えるのを楽しみにしています!!

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
企画：斬新で独創性のあるアイデアか？	課題、商品、サービスに対してのアプローチの仕方 方で評価	40%
表現：そのアイデアをどんな方法で実現したか？	課題、商品、サービスに対してのアウトプット方法 方で評価	30%
挑戦：どれだけ積極的に考えたか？	課題、商品、サービスに対しての解答、回答、提案、 発言の数で評価	30%
<p>評価の方法 毎回の授業で出題する課題への回答と解答、期末テストの結果を踏まえて総合的に評価します。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	アイデア発想法 1	演習を通じでさまざまなアイデアの発想法を学習
2	アイデア発想法 2	演習を通じでさまざまなアイデアの発想法を学習
3	アイデア発想法 3	演習を通じでさまざまなアイデアの発想法を学習
4	アイデア発想法 4	演習を通じでさまざまなアイデアの発想法を学習
5	コピーの時間 1	実際のコピーライティングに挑戦
6	コピーの時間 2	実際のコピーライティングに挑戦
7	プランニング 1-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
8	プランニング 1-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
9	プランニング 2-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
10	プランニング 2-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
11	プランニング 3-1	課題解決に向けた広告キャンペーンの企画
12	プランニング 3-2	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
13	高度なプランニング 2	より高度なコミュニケーションデザインを企画
14	高度なプランニング 3	考えたキャンペーン企画のプレゼンと各案の考察
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：未定。

【履修条件等】

◇楽しみながら考えることができる人。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日々の暮らしを自分らしく過ごしてください。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論 I	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告の基礎知識から広告管理の考え方までを理解する。現代社会において、広告はなくてはならない存在となっている。広告を行う広告主の立場だけでなく、広告ビジネスに関わる媒体社や広告会社の存在、広告の受け手である消費者の立場など、幅広い視点から広告を学ぶ。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
広告関連の専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告の定義、広告の種類、広告に関わる組織に関する用語を答えられること。	25%
広告と社会がどのように結びついているかを理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告主、広告会社、メディア、消費者が、どのように広告に関わっているかを答えられること。	25%
マーケティング活動と広告活動の関係から理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。マーケティングにおける広告の位置づけ、広告主の展開する広告活動がどのようなプロセスを経ているのかを答えられること。	25%
広告効果測定の方法と方法を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告効果の捉え方と測定方法について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	最近の広告事情	広告に関連する最新のトピックを取り上げ説明する。
3	広告の定義と種類(1)	広告の定義と種類について説明する
4	広告の定義と種類(2)	同上
5	マーケティング活動と活動広告	マーケティングにおける広告の位置づけについて説明する
6	広告に関わる組織(1)	広告会社の機能と存在意義、種類について説明する
7	広告に関わる組織(2)	媒体社の機能と存在意義、種類について説明する
8	事例研究(1)	優れた広告活動の事例を取り上げて説明する
9	広告計画(1)	広告計画における概要と基礎を説明する
10	広告計画(2)	ターゲティング、予算計画、目標設定について説明する
11	広告計画(3)	媒体計画と表現計画について説明する
12	広告効果測定(1)	広告効果測定の枠組みを説明する
13	広告効果測定(2)	広告効果測定の具体的な方法について説明する
14	事例研究(2)	広告に関連するビジネスの具体例を説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

広告論Ⅱ	ヒロセ モリカズ 広瀬 盛一
Principle of Advertising Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

広告活動の具体的な側面に焦点を当てて学ぶ。具体的には、メディアプランニング、アカウントプランニング、グローバルコミュニティにおける広告活動、広告と規制などを取り上げる。テキストだけでなく、実際の広告物やケースも用いて理解を深める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアプランニングの専門用語を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。メディアプランニングのプロセスとメディアごとの用語を答えられること。	25%
アカウントプランニングの背景と用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。アカウントプランニングの背景と意義、専門用語を答えられること。	25%
グローバル広告の背景を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。グローバルなマーケティングや広告活動の発達過程や専門用語を答えられること。	25%
広告の法規や規制の背景と専門用語を理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。広告規制の背景と専門用語について答えられること。	25%
評価の方法 70%以上の出席を前提として、授業参加度10%、試験90%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業目的、授業の進め方、評価基準についての説明を行う
2	メディアプランニング(1)	マスメディアを中心としたメディアプランニングについて説明する
3	メディアプランニング(2)	OOHやスポンサーシップについて説明する
4	事例研究(1)	インターネットと広告との関係について学習する
5	アカウントプランニング	アカウントプランニングの背景とプロセスを説明する
6	日本の広告表現	日本における広告表現について説明する
7	グローバルコミュニティと広告	グローバルな広告主の広告活動について説明する
8	海外の広告表現	海外における広告表現について説明する
9	広告規制(1)	広告規制の概要と意義について説明する
10	広告規制(2)	広告に関する法規制について説明する
11	広告規制(3)	広告に関する自主規制と景品表示について説明する
12	比較広告	比較広告について説明する
13	プロフェッショナルサービスと広告	プロフェッショナルサービスにおける広告について説明する
14	医薬品と広告	医薬品における広告について説明する
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：『新しい広告』電通

※購入の必要はありません。

【履修条件等】

◇講義内容には、マーケティングの知識が含まれているので、マーケティングや消費者行動に関連した講義を受講していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇教科書の担当箇所に通しておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント戦略論 I	スガワ カズユキ 須川 一幸
Event Intelligence I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、行政にとっても企業にとってもそれ自体が目的ではありません。行政や企業にとって、ある目的を遂行するための適切な場や機会としてイベントが大きく機能しています。イベントがさまざまな立場の要請に的確に戦略として位置づけられ、戦略的な立場からイベントを機能させることが重要になります。この点を主張して理解を求めます。

「イベント戦略論 I」においては、基本的な戦略論を学びます。戦略を「Strategic」と「Intelligence」の視点からイベントの意義を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント戦略の意義を正しく理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント戦略の意義に関わる構成要素に関する用語を答えられる。	20%
イベントの戦略と戦術の違いを理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントプロデューサーの視点から、イベント社会工学について答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割について、理解できる	設問に対する回答によって評価。 企業のイベント戦略、行政のイベント戦略の基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント戦略のポイントを判断できる	設問に対する回答によって評価。 イベント戦略に必要な5つの要素について答えられる。	30%
評価の方法 各授業では小テスト70%、成果物（イベント戦略ノート）30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イベント戦略とは何か
2	イベント戦略の意義	イベント戦略に関する基礎事項
3	企業のイベント戦略①	コミュニケーション戦略
4	企業のイベント戦略②	産業経済と生活・文化の融合
5	企業のイベント戦略③	戦略的位置づけ
6	企業のイベント戦略④	販売促進活動との連動
7	企業のイベント戦略⑤	住民とのパイプづくり
8	行政のイベント戦略①	地域のアイデンティティづくり
9	行政のイベント戦略②	地域振興を成功させるには
10	イベントプロデューサーの役割①	イベントプロデューサーの資質と能力
11	イベントプロデューサーの役割②	イベントプロデューサーの機能と役割
12	6W2Hの中の WHY ①	企業のイベントの WHY の検討
13	6W2Hの中の WHY ②	行政のイベントの WHY の検討
14	基本構想の策定	基本構想の策定
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：授業時に教材を配布します。ファイルをしっかりすること。

参考書：必要があれば適時紹介します。

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

◇DVD

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。各授業は遅刻厳禁、みんなで一緒に開始したい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回の授業では、事前に指示した事項についてインターネット等で調べておくこと。

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇自らの頭と身体で考え・感じ、感性を磨くこと。

イベント戦略論Ⅱ	スガワ カズユキ 須川 一幸
Event Intelligence Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「イベント戦略論Ⅰ」で学んだことを、より具体的に説明します。イベントを戦略的に活用し展開する「発想」と「方法」が何故求められるのかを明確にします。一時の流行に惑わされることなく、イベントの概念と特性を十分に理解したうえで、時代の流れを敏感に捉えながら、社会等の関連を十分に認識します。その上に立ち、イベントの明確な理念とコンセプトを構築し、それに基づくイベント計画の展開ができるための手法と実践力の構築のあり方を追求します。「イベント戦略の実際」を具体的に学びましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント戦略の意義を正しく理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント戦略の意義に関わる構成要素に関する用語を答えられる。	20%
イベントの戦略と戦術の違いを理解し、説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントプロデューサーの視点から、イベント社会工学について答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割について、理解できる	設問に対する回答によって評価。 企業のイベント戦略、行政のイベント戦略の基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント戦略のポイントを判断できる	設問に対する回答によって評価。 イベント戦略に必要な5つの要素について答えられる。	30%
評価の方法 各授業での小テスト70%、成果物（イベント戦略ノート）30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イベント戦略の実際
2	イベントの理念	イベントの明確な理念とコンセプト
3	イベント戦略の実際①	企業のコミュニケーション戦略とイベント
4	イベント戦略の実際②	企業のイベント戦略
5	イベント戦略の実際③	企業の経営戦略と戦術の中のイベント
6	イベント戦略の実際④	販売促進活動とイベント
7	イベント戦略の実際⑤	行政のコミュニケーション戦略とイベント
8	イベント戦略の実際⑥	地域のイベント戦略
9	イベント戦略の実際⑦	地域振興イベントの実際
10	イベント戦略の実際⑧	地域経営とイベント
11	イベント戦略の実際⑨	イベント基本構想
12	イベント戦略の実際⑩	イベント基本計画
13	基本構想の策定①	ターゲットを意識した狙いと目的
14	基本構想の策定②	戦略的基本構想
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：授業時に教材を配布します。ファイルをしっかりすること。
- ◇参考書：必要があれば適時紹介します。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。
- ◇DVD

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。各授業は遅刻厳禁、みんなで一緒に開始したい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇毎回の授業では、事前に指示した事項についてインターネット等で調べておくこと。
- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

- ◇自らの頭と身体で考え・感じ、感性を磨くこと。

<h1>イベントプロデュース論 I</h1>	<small>オカボシ タツミ</small> 岡星 竜美
Theory Event Producing I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

「プロデュース」とは、思いついた SEED（種）を具体的に世に出し、社会化するまでの一連の行為であり、これから社会で活躍する人材を育てる上での重要なキーワードです。とくにイベントは、臨時に組織を組んで行われる特別な行事・催事が多いことから、イベントプロデューサーにはさまざまな資質と能力が要求され、多様な機能と役割が求められます。今まで暗黙知として取り扱われてきたプロデュース行為を、プロセスや要素を元に再現可能なテクノロジーとして形式知化し、新たな人材育成プログラムとして適応させます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントのプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	プロデューステクノロジー①	プロデューステクノロジーとは
2	プロデューステクノロジー②	プロデューステクノロジーの構造
3	サプライズ①	驚き発想
4	サプライズ②	感動発想
5	ビジネスモデル①	プロフィットモデル
6	ビジネスモデル②	プロフィットモデル
7	プロジェクトマネジメント①	プロジェクト管理法
8	プロジェクトマネジメント②	プロジェクト管理法
9	リスクマネジメント①	リスク管理法
10	リスクマネジメント②	リスク管理法
11	ファン①	ファンの構造と仕掛け
12	ファン②	ファンの構造と仕掛け
13	ブーム①	ブームの構造と仕掛け
14	ブーム②	ブームの構造と仕掛け
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h2 style="margin: 0;">イベントプロデュース論Ⅱ</h2>	<small>オカボシ タツミ</small> 岡星 竜美
Theory Event Producing II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントのプロデュース機能とは、「そのイベントの目指すべき全体像を構築し、輻輳するさまざまな要素や条件の調整を行いながら、種々の制約の中で最も効果を高めるよう、それらをひとつのシステムとして組み上げていく機能」です。イベントもひとつのプロジェクトであり、経済活動です。目的と目標を掲げ、予算を組み立て、適材適所に人材を配置し臨時の組織を統率し、総責任者としてプロジェクトを遂行させるプロデュースという業務について理解します。

学科の3つのコース「スポーツ・エンタテインメント」、「観光・コンベンション」、「サービス・ビジネス」へ進むイントロダクションとして、各種事例とワークを提供します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントのプロデュースに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 プロデュースとは何か、プロデューサーに必要な要素について答えられる。	20%
幅広いプロデュースカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 カテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で課題に対し、ユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション①	メガトレンドとイベントについて
2	イントロダクション②	メガトレンドとイベントについて
3	参加型イベント①	参加型イベントのプロデュース
4	参加型イベント②	参加型イベントのプロデュース
5	地域型イベント①	地域活性化イベントのプロデュース
6	地域型イベント②	地域活性化イベントのプロデュース
7	イベントショップ①	イベントショップのプロデュース
8	イベントショップ②	イベントショップのプロデュース
9	イベントセールス①	イベント型売り場のプロデュース
10	イベントセールス②	イベント型売り場のプロデュース
11	学び型イベント①	講座・セミナーのプロデュース
12	学び型イベント②	講座・セミナーのプロデュース
13	イベントイノベーション①	モダンイベントのプロデュース
14	イベントイノベーション②	モダンイベントのプロデュース
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h1>イベント企画</h1>	<small>オカボシ タツミ</small> 岡星 竜美
Event Planning	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは「驚きと感動」を生みます。その企画には、創造性が大切です。社会や人々へサプライズを与えるアイデア、マンネリを打破する発想が求められます。イベント企画の「発想法」を徹底的に学習します。イベント企画の基本ベースフォーマット（型）に、「6W2H」の展開があります。企画書作成により、イベント企画ばかりでなく、地域の活性化、新商品開発など、さまざまな企画づくりの基本を身につけます。ワークを通して、明るく楽しく学んでください。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント関連の専門用語を正しく理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの定義、イベントの種類・形態、イベントに関わる構成要素に関する用語を答えられる。	20%
イベントと社会との関係性、役割を理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの主催者、制作者、参加者の3者の視点から、イベントの持つ価値や評価を答えられる。	20%
イベント企画の構成要素について理解できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント企画の目標と目的について理解し企画のポイントを判断できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの目指すもの、それへの到達のための設 計図について理解し、イベント企画成功のための 要点を答えられる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イベント企画とは	イベント企画について
2	イベント企画とは	イベント企画について
3	イベント企画①発想力	イベントアイデア発想法
4	イベント企画①発想力	イベントアイデア発想法
5	イベント企画②骨格力	イベントの構造6W2H
6	イベント企画②骨格力	イベントの構造6W2H
7	イベント企画③分析力	イベント企画のマーケティング
8	イベント企画③分析力	イベント企画のマーケティング
9	イベント企画④目的力	イベント企画のゴール
10	イベント企画④目的力	イベント企画のゴール
11	イベント企画⑤集客力	イベントへの集客法
12	イベント企画⑤集客力	イベントへの集客法
13	イベント企画⑥構成力	イベント企画書のまとめ方
14	イベント企画⑥構成力	イベント企画書のまとめ方
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント演出	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Direction	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

コンサートやファッションショー等のエンターテインメントイベント、企業や団体におけるPRおよびキャンペーンイベントや展示会、式典などさまざまなイベントには全て「演出」が必要です。

さまざまなタイプのイベントごとに趣旨やコンセプトを理解し、時間と予算といった制約の中でターゲット（お客様、来場者）に対して最も効果的な手段方法を選択しなければならないのがイベント演出です。

舞台美術、音響、照明、映像、キャスト、特殊効果、環境演出にいたるまでイベントに関わるすべてのパートを理解し、具体的な演出プランの組み立て方についてそれぞれのイベント形態ごとに検証していきます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントの種類とそれぞれにおける基本的な考え方を理解すること	設問に対する回答によって評価。イベントの形態ごとにその表現方法の違いを理解し、それぞれの形態ごとに適切な演出方法について答えられること。	20%
イベント演出に関わるパートの役割を理解すること	設問に対する回答によって評価。イベントによって演出の構成要素が変わることを理解し、それぞれのパートの役割と効果について答えられること	20%
各パートごとの基本知識の習得とその効果について理科すること	設問に対する回答によって評価。イベント演出に関わる各パートの機材やその特性、使用方法や考え方などについて答えられること。	30%
演出プランの作成および台本による指示方法を理解すること	設問に対する回答によって評価。具体的な演出プランの構築およびその演出要素を台本として表現できること。	30%
評価の方法 授業態度30%、成果物（台本制作など）30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	イベントにおける演出の位置づけ
2	イベントの種類と役割	イベント形態ごとの演出の役割
3	演出の構成要素①	美術プランと舞台美術、ブース施工
4	演出の構成要素②	音響・照明の効果と機材
5	演出の構成要素③	映像機材の種類とその効果
6	演出の構成要素④	特殊効果と各種のギミック
7	演出の構成要素⑤	キャスティングと衣装、振り付け
8	演出の構成要素⑥	環境演出・空間演出
9	演出の構成要素⑦	演出・進行スタッフとその役割
10	演出プラン①	ステージイベントにおける演出プラン作成
11	演出プラン②	フェスティバルイベントにおける演出プラン
12	台本制作①	イベント演出における台本の役割
13	台本制作②	台本制作の実作業①
14	台本制作③	台本制作の実作業②
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に教材を配布します。
- ◇VTRなど。

【履修条件等】

- ◇「イベント学概論」、「イベント企画」、「イベントプロデュース論Ⅰ」、「イベントプロデュース論Ⅱ」を履修することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくになし。

【その他の注意事項】

- ◇全席指定席とします。

イベント実施・運営論	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Event Management	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

イベント学は、現実的な学問です。イベントの構成要素は6W2Hであり、まさしく考えたことを、いかに実現するかの手法を説いたものだからです。イベントには、夢を描くエンタテインメント性が欠かせませんが、いざ実現するとなるとなかなか難しいものです。理想と現実とのギャップがあり、理路整然と描かれた企画が、現実社会の中ではうまくできないことのほうが多いと言えます。

“驚きと感動”を創るには、不可能を可能にする知恵と行動力が求められます。イベントの実施・運営を学んで、実社会でプロジェクトを実現できる人材になりましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント関連の専門用語を正しく理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施・運営に関わる専門用語を答えられる。	20%
イベントと社会との関係性、役割を理解し説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの主催者、制作者、参加者の3者の視点から、イベントの実施・運営を答えられる。	20%
イベント実施・運営の構成要素について理解できる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施・運営の基本的な構成要素と、その構造について答えられる。	30%
イベント実施・運営の目標と目的について理解しポイントを判断できる	設問に対する回答によって評価。 イベントの目指すもの、それへの到達のための設計図について理解し、イベント実施・運営成功のための要点を答えられる。	30%
評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	満席の作り方①	施設、会場、イベントの集客法
2	満席の作り方②	施設、会場、イベントの集客法
3	空メディアの作り方①	空中メディアの開発法と利用法
4	空メディアの作り方②	空中メディアの開発法と利用法
5	にぎわいの作り方①	店、商店街、街の活気づくり法
6	にぎわいの作り方②	店、商店街、街の活気づくり法
7	ビッグイベント招致①	国際的イベントの誘致、招致法
8	ビッグイベント招致②	国際的イベントの誘致、招致法
9	街ジャックの手法①	施設、街、地域のイベントジャックの方法
10	街ジャックの手法②	施設、街、地域のイベントジャックの方法
11	自然の演出の仕方①	自然現象を演出に取り入れる方法
12	自然の演出の仕方②	自然現象を演出に取り入れる方法
13	公道イベントの手法①	公共空間の使用許可と活用法
14	公道イベントの手法②	公共空間の使用許可と活用法
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

<h1>イベント心理学</h1>	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Event Psychology	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

本講義は通常の各種心理学とは異なり、心理学の基礎や体系を学ぶものではなく、学生諸子が社会に出て直面し必要とされる課題に関し、心理学の立場から概説するものである。具体的には、人や社会に関心を持ち、社会や企業において必要となるコミュニケーションのスキルの向上が図れるようになることが、本講義の到達目標である。主な内容は、①コミュニケーションの仕組み、②言語的コミュニケーションの特性、③非言語的コミュニケーションの特性、④パーソナルスペースと人間行動、⑤モラル向上と内発的動機づけ、⑥危機状況と集団行動、⑦リスク知覚と危険回避行動等である。本講義は講義形式を主体とするが、学習内容を確認するため、随時討議法やレポート提出も求める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コミュニケーションの仕組みが理解できる	コミュニケーションの構造や、コミュニケーションにおいて必要となる要因への理解力を評価基準とする。	25%
言語的、非言語的コミュニケーションの仕組みが理解できる	コミュニケーションには言語的、非言語的な表現方法があり、それぞれが表わす意味内容への理解力を評価基準とする。	25%
我々に快－不快の感情をもたらす空間行動の仕組みが理解できる	動物の縄張り行動から展開されたパーソナルスペース（個人の空間行動）の仕組みと我々の感情喚起についての理解力を評価基準とする。	25%
リスク状況下における個人および集団行動の仕組みが理解できる	リスク状況を主観的に判断するリスク知覚と危険回避行動、並びに危険場面に直面した際の集団行動のあり方への理解力を評価基準とする	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方
2	コミュニケーションの構造	コミュニケーションの構造と成立条件
3	言語的コミュニケーション	言葉がもたらす意味、受容的態度、拒否的態度
4	言語的コミュニケーション	誤解はなぜ生じるのか、言い間違いはなぜ生じるのか
5	非言語的コミュニケーション	動物行動にみる身振りや手ぶり等の意味
6	非言語的コミュニケーション	人間が示す身振りや手ぶりの意味
7	パーソナルスペース①	動物の縄張り行動、パーソナルスペースの構造
8	パーソナルスペース②	アイコンタクト、身体緩衝体、精神疾患者行動と視線
9	内発的動機づけ①	無気力感、欲求5階層説、自己実現
10	内発的動機づけ②	自己有能感、自己決定感
11	リスク・パーセプション①	リスクとは、安全－危険に関する主観的判断過程
12	リスク・パーセプション②	社会事象に関するリスク・パーセプションの算出過程
13	リスク・パーセプション③	リスク評価に関する国際比較
14	危機状況と集団行動	社会的同調行動
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の到達レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなし評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

イベントキャリア基礎	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Career Basic	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

キャリア教育の基本は、学生が望ましいライフプランをつくり「就業力」を身につけることです。望ましい職業観を持ち、そのための知識や技能とは何かを理解できるようにします。どのような大学生活を送ることが、将来のキャリア形成につながるか理解を求めます。とくにイベント業種は多段階のプロセスの全ての業務の理解が必要です。それは「人と人の関係づくり」を前提とします。すべての学生に通ずることですが、社会的ルール・マナーが基本になります。基本的な習慣性を作るにはどうすべきか、イベントキャリアとは何かを理解するプログラムにします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントを仕事にすることを理解する	設問に対する回答によって評価。 イベントの仕事とは何か、オペレーションやホスピタリティの大切さについて答えられる。	20%
イベント業界を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント業の 카테고리 に応じた職種について基本的な機能と役割を答えられる。	20%
イベントスタッフの役割が理解できる	設問に対する回答によって評価。 イベント実施事例を通じて、スタッフの機能と役割について説明できる	30%
イベントキャリアの大切さを表現できる	レポートによって評価。 イベントキャリアを通して身につく、学べる価値を自分の言葉で表現できる	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イベントの仕事	
2	イベント業界について	原価計算の目的、原価計算のステップ
3	イベントスタッフについて	美術施工
4	オペレーション	音響、照明、映像装置、特殊効果
5	ホスピタリティ	演出パートと運営パート
6	ディレクション	その他の役割
7	プロデュース	イベントにおける管理会計
8	セキュリティシステム	原価と利益計画の考え方
9	イベントキャリアについて	イベントにおける業務的意思決定(1)
10	イベントキャリアの実際①	イベントにおける業務的意思決定(2)
11	イベントキャリアの実際②	イベントにおける戦略的意思決定(1)
12	イベントキャリアの実際③	イベントにおける戦略的意思決定(2)
13	イベントキャリアの実際④	イベント予算の組み立て
14	イベントキャリアの実際⑤	イベント予算の組み立て
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業時に資料を配布します。

【履修条件等】

◇イベント業界に興味を持っていることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関係する情報やニュースについて常に興味を持つこと。

◇また、実際にできるだけイベントに行くこと。

【その他の注意事項】

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を受講する学生は、履修すること。

イベント法務	イノウエ キミオ 井上 公雄
Event Law and Practice	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

- ・ イベントを楽しくスムーズに運営するために、必要な法律や規則を十分に理解する。
- ・ イベントに関係のある警察署・消防署・保健所に加えて、労働基準監督署・建築指導課公正取引委員会等の法令と運用を個別の事例から具体的に学んでいく。
- ・ イベントにおいて最も大切なリスクマネジメントについて、危機の定義と回避等の対処方法を事例によって解説。あわせて損害保険の歴史と種類を体系的に理解。著作権や肖像権など知的所有権の知識も深める。
- ・ オリンピックやパラリンピック・国際博覧会など、時代をリードするビッグ・イベントにも考察をひろげ、セールスプロモーションの全領域について幅広く学習していく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントに関連する法律の理解	設問に対する回答により評価。 警察・消防・保健所に対する申請等、具体的な対応方法とセールスプロモーション領域全般に関連する法務を理解する。	30%
リスクマネジメントを理解する	設問に対する回答により評価。 イベントは実社会の場で行われるため“日常業務を侵犯しかねない”という特性を認識し、イベントの主催者側として運営上のリスク管理を学ぶ。	30%
トラブルの事例を検討する	レポートの提出により評価。 過去のトラブル事例を紹介し、それらを要約して問題点を指摘する。	30%
コンプライアンスを理解する	レポート提出により評価。 企業活動において、市民社会の一員としての行動規範を理解する。	10%
評価の方法 毎回のレポート50%、テスト50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	イベント法務の重要性とリスクマネジメント
2	事例検討(1)	ロンドンオリンピックのレガシーを検証
3	事例検討(2)	パラリンピックの歴史と意義を学ぶ
4	事例検討(3)	国際博覧会の歴史と意義を学ぶ
5	事例検討(4)	日本の博覧会の歴史と意義を学ぶ
6	事例検討(5)	行幸啓イベントとは何か
7	事例検討(6)	花火大会の運営とリスクマネジメント
8	事例検討(7)	イベントにおける損害保険について
9	マニュアル作成(1)	市民マラソン大会を成功させよう
10	マニュアル作成(2)	B級グルメで街おこし
11	マニュアル作成(3)	観光イベントで地域の活性化
12	マニュアル作成(4)	福祉イベントに参加する
13	マニュアル作成(5)	ユニバーサルイベントに取り組む
14	マニュアル作成(6)	パラリンピックを盛り上げよう
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇授業時に資料・テキストを配布します。教科書は使用しません。

◇参考書：平野暁臣著『イベントの実務がよくわかる本』イースト・プレス
屋外イベントの安全に関する共同研究会編『屋外型イベントの安全ノート』

【履修条件等】

◇毎回、講義終了時に講義内容の理解度を確認するために「振り返りシート」に記入してレポートとします。未提出は欠席とみなします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇新聞やテレビで毎日、日本や世界の社会情勢やイベントの動きをチェックしてください。

【その他の注意事項】

◇とくにありません。

入門簿記 I	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数 ³ 分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記 I</h2>	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping I	基本科目 / 半期 / 2 単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6 回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する。

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記 I	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping I	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。取引の記帳から決算手続きまでの簿記一巡の流れが理解できるように、解説および問題演習により進める。

注) 6回目の中間試験の後、同時間帯の「入門簿記 I」とクラス替えを行います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
複式簿記の基礎的な専門用語および基礎概念を正しく理解し、説明できるようにする	設問に対する回答によって評価。 複式簿記の意義、簿記の種類、簿記に関連する用語を答えられること。また、基本的な勘定科目と貸借対照表、損益計算書の意味を理解し、要素勘定に正確に分類できること。	30%
簿記上の取引の意味を理解し、その記録を修得していること	設問に対する回答によって評価。 取引の8要素を理解し、基本的な取引の仕訳、勘定口座への転記が行えること。	40%
決算の手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 各種試算表の意味と作成方法、6桁精算表の作成方法を理解し、財務諸表の作成ができること。	20%
現金取引、当座預金取引、伝票会計を理解していること	設問に対する回答によって評価。 現金の範囲、現金過不足の手続き、当座預金と当座借越の手続きを正しく理解し、仕訳・転記が行えること。また、入金伝票・出金伝票・振替伝票の意味を理解していること。	10%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義の進め方および成績評価方法についての説明、簿記の目的・意義など
2	簿記の基礎概念(1)	会計期間、貸借対照表とその構成要素(資産・負債・純資産)
3	簿記の基礎概念(2)	損益計算書とその構成要素(収益・費用)、純損益の計算
4	取引と仕訳	簿記上の取引、取引の8要素、仕訳
5	仕訳と転記(1)	仕訳、勘定口座および転記
6	中間試験および解説	
7	仕訳と転記(2)	仕訳と仕訳帳の記入、転記と総勘定元帳の記入
8	決算(1)	試算表の種類と仕組み、作成方法
9	決算(2)	6桁精算表の作成
10	決算(3)	帳簿の締切り、財務諸表の作成
11	簿記一巡の確認	演習
12	現金	現金の範囲、現金過不足
13	当座預金	預金の種類、当座借越と当座
14	伝票	入金伝票、出金伝票、振替伝票
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習到達度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇商業簿記の習得に意欲的な学生の受講を望む。
- ◇講義の特性上、欠席が多いとついていけなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇連続性のある内容であるため復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為(私語等)は厳に禁止する。携帯電話の使用(メール・ウェブの閲覧も含む)も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓(12桁以上)を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

<h2 style="margin: 0;">入門簿記Ⅱ</h2>	キタイ フジオ 北井 不二男
Elementary Bookkeeping II	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法 中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。
また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ドイ ミツル 土井 充
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の3分の2以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。
また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。
また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

入門簿記Ⅱ	ミツザワ ミメ 光澤 美芽
Elementary Bookkeeping Ⅱ	基本科目／半期／2単位

【授業概要】

簿記は、企業の日常の経済活動を記録し、その結果を整理して報告するための技術であり、こんにちでは必須のビジネススキルのひとつとなっている。

本講義は、会計関連科目への入門講座としての性格を有し、簿記の初歩を取り扱う。すなわち、簿記をはじめて学ぶ学生を対象とし、簿記の基本的な考え方と技術を習得する事を目標としている。「入門簿記Ⅰ」で修得した知識に基づき、商業を中心とする個人企業の活動に関する簿記処理が行えるよう、解説および問題演習により進める。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
期中取引の処理ができること	設問に対する回答によって評価。 商品売買、掛取引、その他債権債務、手形、固定資産、売買目的有価証券などに関する期中取引を、適切な勘定科目ならびに金額によって仕訳できる。	30%
8桁精算表を作成できること	設問に対する回答によって評価。 決算整理事項に関する適切な処理を行い、8桁精算表を作成することができる。	45%
補助簿の作成手続きを理解していること	設問に対する回答によって評価。 売上帳・仕入帳、商品有高帳ならびに手形記入帳など補助簿を作成することができる。	25%
評価の方法	中間試験20%、本試験70%、授業への貢献度10%を総合的に判断。 「出席点」は設定しない。ただし、全講義回数の2/3以上の出席が、成績評価の対象となる条件となる。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	簿記一巡の復習	春学期の復習
2	商品売買の記帳	三分法による記帳方法
3	商品有高帳	商品有高帳の記帳
4	売上帳・仕入帳	売上帳・仕入帳の記帳方法
5	掛取引の記帳	売掛金元帳・買掛金元帳、貸倒引当金の記帳
6	その他の債権債務の記帳	未収金・未払金、前払金・前受金、商品券などの記帳
7	手形取引の記帳(1)	約束手形の記帳
8	手形取引の記帳(2)	為替手形の記帳
9	固定資産の記帳	固定資産の取得・売却、減価償却の記帳
10	売買目的有価証券	売買目的有価証券の取得・売却・評価の記帳
11	収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延処理
12	引出金、税金の記帳	資本金・引出金、税金の処理
13	8桁精算表	整理記入欄の記帳方法
14	決算	決算手続の記帳練習
15	復習	講義内容の復習課題ならびにその解説

【使用教材】

- ◇教科書：開講時に指示する。
- ◇参考書：開講時に指示する。

【履修条件等】

- ◇上述の授業概要は、「入門簿記Ⅰ」および「入門簿記Ⅱ」と併せて受講することにより達成される。そのため、必ず「入門簿記Ⅰ」と「入門簿記Ⅱ」を連続して受講する必要がある。
また、講義の特性上、欠席が多いとついて行けなくなるため、基本的には全講義出席することが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇「入門簿記Ⅰ」の講義内容を確認しておくこと。
- ◇復習をしっかりと、宿題などの与えられた自習課題はきちんとこなすこと。

【その他の注意事項】

- ◇他者に迷惑となる行為（私語等）は厳に禁止する。携帯電話の使用（メール・ウェブの閲覧も含む）も不可とする。注意をしても聞かないなど悪質な場合は、単位を付与しないこともありうるので留意のこと。
- ◇なお、受講の際には電卓（12桁以上）を準備のこと。算盤でもかまわない。中間試験および期末試験の際には、携帯電話、電子辞書、PC、その他電子機器に内蔵されている電卓の使用は一切禁止するので気をつけること。

専門演習 I	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業が行うさまざまなプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法 演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツイベント」を取り扱います。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：エンタテインメントイベント、とくに日本の若者文化の中核をなすアニメ・マンガ、コスプレ等のいわゆるポップカルチャーイベントを中心に扱います。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	スガワ カズユキ 須川 一幸
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：新宿観光、東京と地方との交流のための街道観光などニューツーリズムに関する展示会セミナーや観光物産展などの「観光・コンベンションイベント」を取り扱います。また、イベントOB×現役×高校生によるイベント業界を知るイベントも実施します。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習 I	ヒノ タカオ 日野 隆生
Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：地域におけるイベント、すなわち自治体、地域住民、NPOなどとの連携・協力を予定しています。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（受講態度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	大学祭テーマ制作
7	イベント課題解決ワークショップ	22	大学祭テーマ制作
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会の準備
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会の準備
11	イベント企画リハーサル	26	ゼミ発表大会の準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	ゼミ発表大会のリハーサル
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業が行うさまざまなプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。新製品キャンペーンや記者発表、ファッションショーなど多彩なイベントを学びます。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	大学祭テーマ制作
7	イベント課題解決ワークショップ	22	大学祭テーマ制作
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会の準備
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会の準備
11	イベント企画リハーサル	26	ゼミ発表大会の準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	ゼミ発表大会のリハーサル
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習Ⅰ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：エンタテインメントイベント、とくに日本の若者文化の中核をなすアニメ・マンガ、コスプレ等のいわゆるポップカルチャーイベントを中心に扱います。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	スガワ カズユキ 須川 一幸
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：新宿観光、被災地支援観光、東京と地方との交流のための街道観光などニューツーリズムに関する展示会セミナーや観光物産展などの「観光・コンベンションイベント」を取り扱います。また、イベントOB×現役×高校生によるイベント業界を知るイベントも実施します。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人の自覚とリーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅱ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：地域におけるイベント、すなわち自治体、地域住民、NPOなどとの連携・協力を予定しています。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。

専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身につけてゆくことの喜びや充実感を得てください。

企画プレゼンテーションや運営マニュアル制作もあります。イベント企画や制作の醍醐味であるチームワークを発揮し、お互いに力を出し合いながら、イベントを大成功に導く実現力を身につけましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（受講態度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人の自覚とリーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：企業が行うさまざまなプロモーションイベント、PRイベントを中心としたイベントプロデュースです。新製品キャンペーンや記者発表、ファッションショーなど多彩なイベントを学びます。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法 演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：2020東京オリンピック・パラリンピックを頂点とする「スポーツイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼きつけることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法	演習態度（出席・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：エンタテインメントイベント、とくに日本の若者文化の中核をなすアニメ・マンガ、コスプレ等のいわゆるポップカルチャーイベントを中心に扱います。

演習では、アクティブ・ラーニングおよびPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）をイベント制作に応用した「イベント・ラーニング」手法に基づき、座学で学ぶイベント学知識から実際のイベント現場に生かす知恵を創造していくことを目指します。専門演習で育成する人材像は、“自ら動き周りを動かす”です。“自ら動き周りを動かす”ということは、イベントのみならず、これから社会に出て行く一人ひとりにとって、とても大切なことです。演習を通じて、全員が自ら動くリーダーシップを身に付けてゆくことの喜びや充実感を得てください。

「専門演習Ⅲ」ではこれまでの「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の取り組みをまとめ、論文や発表といった形に集約していくことを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント発想	企画アイデア提出により評価する。 独創的・斬新なイベント発想を、さまざまな訓練を通し鍛え習得する。	20%
チームワーク	イベント企画・運営制作により評価する。 具体的な課題への期限のある作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気づく。	20%
リーダーシップ	イベント企画・運営制作により評価する。 期日の決まったゴールに向けて、トラブルを乗り越えチームを引っ張る力を身につける。	30%
プレゼンテーション	イベント企画発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身につける。	30%
評価の方法 演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	大学祭テーマディスカッション
2	研究テーマガイダンス	17	大学祭テーマディスカッション
3	研究テーマ発表	18	大学祭テーマ制作
4	イベント課題ディスカッション	19	大学祭テーマ制作
5	イベント課題ディスカッション	20	大学祭テーマ制作
6	イベント課題解決ワークショップ	21	ゼミ発表大会の準備
7	イベント課題解決ワークショップ	22	ゼミ発表大会の準備
8	イベント課題解決ワークショップ	23	ゼミ発表大会の準備
9	イベント課題解決ワークショップ	24	ゼミ発表大会のリハーサル
10	イベント課題解決ワークショップ	25	ゼミ発表大会のふりかえり
11	イベント企画リハーサル	26	研究成果発表準備
12	イベント企画プレゼンテーション	27	研究成果発表
13	春学期イベント実習レポート	28	秋学期イベント実習レポート
14	春学期イベント実習レポート	29	秋学期イベント実習レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント企画・制作にはチームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。創造性を発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	スガワ カズユキ 須川 一幸
Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：新宿観光、被災地支援観光、東京と地方との交流のための街道観光などニューツーリズムに関する展示会セミナーや観光物産展などの「観光・コンベンションイベント」を取り扱います。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼き付けることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身に付ける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身に付ける。	30%
評価の方法 演習態度（授業参加度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究まとめ
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究プレゼンテーション
13	春学期イベント研究レポート	28	春学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	春学期イベント研究レポート
15	まとめ（気づいたことと反省・決意）	30	まとめ（気づいたことと反省・決意）

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門演習Ⅲ	ヒノ タカオ 日野 隆生
Seminar III	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

研究テーマ：地域におけるイベント、すなわち自治体、地域住民、NPOなどとの連携・協力を予定しています。

演習では、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」およびイベント実習で得た経験を、イベント理論へと導きます。

イベントの現場での貴重な経験を自分の身に焼き付けることは当然ですが、それを確たる理論としてまとめることで、より理解の促進と、他者にとっても知恵や知識として活用できます。

暗黙知を形式知としてとりまとめる作業は、イベント業のみならずあらゆるサービス業で役に立ちます。他ゼミ生とともに知恵と知識を集合し、人々の役に立つイベント理論のナレッジとして確立することを目指します。

理論へと導きます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベント研究	研究テーマにより評価する。 独創的なイベント研究テーマを提出する。	20%
チームワーク	チームによるイベント理論制作により評価する。 イベント理論完成に向けての作業を通し、役割分担やサポートの大切さに気付く。	20%
リーダーシップ	イベント理論制作により評価する。 理論の完成に向けて、他ゼミ生の意見をまとめる力を身に付ける。	30%
プレゼンテーション	イベント理論発表により評価する。 考えてきたことを、論理的にわかりやすく、共感をもって伝えられる力を身に付ける。	30%
評価の方法	演習態度（受講態度・積極性・勤勉さなど）、演習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	ゼミ運営ガイダンス	16	ゼミ運営ガイダンス
2	イベント研究テーマガイダンス	17	イベント研究テーマガイダンス
3	イベント研究リサーチ	18	イベント研究リサーチ
4	イベント研究リサーチ	19	イベント研究リサーチ
5	イベント研究リサーチ	20	イベント研究リサーチ
6	イベント研究リサーチ	21	イベント研究リサーチ
7	イベント研究ディスカッション	22	イベント研究ディスカッション
8	イベント研究ディスカッション	23	イベント研究ディスカッション
9	イベント研究ディスカッション	24	イベント研究ディスカッション
10	イベント研究ディスカッション	25	イベント研究ディスカッション
11	イベント研究まとめ	26	イベント研究成果発表準備
12	イベント研究プレゼンテーション	27	イベント研究成果発表
13	春学期イベント研究レポート	28	秋学期イベント研究レポート
14	春学期イベント研究レポート	29	秋学期イベント研究レポート
15	まとめ(気づいたことと反省・決意)	30	まとめ(気づいたことと反省・決意)

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント理論の構築には、他ゼミ生の協力が大変重要となるため、チームワークを発揮して、積極的に演習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇次の演習への下調べ、作業の準備等。

【その他の注意事項】

◇演習中、学習と関係のないスマホや私語を禁止します。

専門特別演習 I	オガワ タツヤ 小川 達也
Special Seminar I	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

「専門特別演習 I」では、“MICE”を研究テーマに事例分析やフィールドワーク（訪問調査）を行い、理解を深めることが目標です。その際、専門雑誌や経済新聞等から得られる情報を通して、刻一刻と変化するイベント業界の動向や経営環境の潮流を的確に把握するテクニックを身につけます。演習中にインタラクティブな議論を重ねることで、自分のことばで表現できるスキルを磨き、大学生や社会人に必要な思考力・洞察力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
演習で取り上げた理論や用語を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げた理論や用語の定義・概念、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた企業組織の実践的知識を正しく理解し、説明・議論できる	演習で取り上げたイベント関連企業や業界についての実践的知識や背景、課題・問題点をしっかりと把握し、積極的に説明・議論できること。	20%
演習で取り上げた理論と知識を広く理解し、応用して説明・議論できる	イベント関連企業や業界についての実践的知識を複数把握し、演習で取り上げた基礎的理論と結びつけて説明でき、諸課題に対する解決策をしっかりと議論できること。	20%
プレゼンテーション・スキルが身につけている	演習の時間やレポート発表会におけるプレゼンテーションで、しっかりと報告できること。	20%
レポートやレジюмеを作成するスキルが身につけている	演習の時間やレポート発表会で担当したセクションのレポート・レジюмеをしっかりと作成し、期限内に提出できること。	20%
評価の方法	演習の実施回数に対して出席回数が3分の2以上に限り評価します。なお、2回連続して欠席したり、レジюме発表時に欠席した場合には厳しく評価し、単位取得が困難となるので注意してください。演習への積極的な参加姿勢を前提として、総合的な学習・研究成果に基づいて評価します。	

【授業計画】

「専門特別演習Ⅰ」では個々の履修者が“MICE”に関連した話題やテーマに基づき、専門雑誌や経済新聞等から得られる情報を収集し、その内容を読み解く能力を徐々に身につけていきます。その際、イベント関連企業における事業活動やイベント産業の動向と変化、市場のトレンド等、幅広く取り上げ、背後にある競争要因を検討します。

演習の進め方は、担当教員が準備した資料を熟読し、記述内容の要点を確認します。経営学やイベントビジネスで必須の専門用語の把握も忘れてはなりません。資料で指摘している重要な箇所や問題点、あるいは考察が必要な論点を見出します。各人が上記のプロセスで得られた知見を要約し、追究すべき論点を考察の上、レジюмеを発表します。履修者全員が質疑応答と議論に参加し、建設的かつ有意義な議論ができるよう十分に資料収集を行い、各人が深く検討できるような姿勢で臨む必要があります。

こうした学習をつうじて、イベント関連企業や業界が直面している重要なトピックを発見し、フィールドワーク（訪問調査）の内容を絞り込んでいきます。秋学期には、春学期で得た知識を活用しながら“MICE”の現場を訪問し、実践と課題を探ります。

その上で、履修者は個々人で研究テーマを設定し、学年末に「ゼミ単位取得レポート」を作成します。字数は6,000字以上とやや多目ですが、充実した研究成果が得られるはずです。完成したレポートは履修者全員がパワーポイントで発表する「レポート発表会」で披露し、質疑応答を経て担当教員に提出します。

「専門特別演習Ⅰ」は1カ年限定の演習となりますが、最終的には次年度の専門特別演習Ⅱへ移行可能な能力水準に引き上げることを目的に指導します。

なお、東京富士祭では“MICE”と関連したテーマで活動することを予定しています。

【使用教材】

◇教科書：使用せず。

◇参考書：議論や考察に必要な文献・資料は適宜紹介・配付します。

【履修条件等】

◇レジюмеとレポートは Word で作成し、発表は PowerPoint のスキルが必要です。

◇単位を取ることが目的ではなく、大学生として充実した成果を残すために、継続して「専門特別演習Ⅱ」を履修する方にお勧めします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇経営学関連の科目は専門性の高い学問領域であり、専門用語や外来語が頻出します。

わからない用語をそのままにせず、各自で逐一調べ、演習内での議論に備える必要があります。また、日頃から専門雑誌や経済新聞等をよく読み、時事問題やトレンドの把握に努めてください。

【その他の注意事項】

◇専門特別演習は通常の講義形式の授業と異なり、履修者が自ら疑問を見出し、調査分析し、その疑問をどのように解決するのか、モノの考え方を学び、発表し議論を行う場です。専門特別演習の主体は履修者自身にあることを認識してください。常に向上心と修学意欲を高め、積極的な参加姿勢が不可欠となります。

専門特別演習Ⅱ	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Special Seminar Ⅱ	基本科目／通年／4単位

【授業概要】

柔軟な発想を持つということは、イベントプロデュース学科が目指すものであるが、同時に社会人基礎力としても必要な能力でもある。本授業では①柔軟な発想力の源泉である「イメージ」とは何かを考え、②目には見えないイメージを可視化する方法を学び、加えて③自らがテーマを設定し、実際に調べ、これをまとめ他者によりよく伝えることができる方法を考えることができるまでを、最終到達目標とする。イベント効果の測定手法（可視化手法）として心理学研究方法を用い、PCを利用した実習形式の授業形態とする。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イメージを構成する際に必要となる専門知識・用語を正しく理解できる	イメージを構成する際に必要となる認知心理学における専門用語を正しく理解できるかどうかを評価基準とする。	10%
イメージを可視化し、測定できる心理学研究方法を理解し使うことができる	頭の中に無意識の形で存在するイメージを可視化し、測定するための心理学研究方法を正しく理解するとともに、使用することができ、かつレポートの形式としてまとめることができるかどうかを評価基準とする。	20%
イベント効果を測定するための質問紙調査票を作成し、測定できる	イベント効果を測定することをねらいとした質問紙を各人で作成し、これをもとに実際に測定・分析し、レポートが作成できるまでを評価基準とする。	50%
各人が研究したい題目を探索・調査し、結果をレポートとして作成できる	自らが研究したい題目を探索し、文献調査を主体として、より良いプレゼンテーションが行えるかどうかを評価基準とする。	20%
評価の方法	イメージ測定結果レポート30%、質問項目作成と測定結果レポート50% 文献調査に基づくプレゼンテーション20%	

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	春学期のオリエンテーション	16	質問項目作成実習③：項目作成
2	イメージとは何か①：知覚の仕組み	17	質問項目作成実習④：項目作成
3	イメージとは何か②：認知の仕組み	18	質問項目作成実習⑤：調査
4	イメージとは何か③：認知の仕組み	19	質問項目作成実習⑥：入力
5	イメージとは何か④：記憶の仕組み	20	質問項目作成実習⑦：分析
6	イメージとは何か⑤：記憶の仕組み	21	質問項目作成実習⑧：分析
7	イメージ測定技法	22	質問項目作成実習⑨：分析
8	カラー・イメージ測定実習①	23	結果のまとめ・レポート作成
9	カラー・イメージ測定実習②	24	結果のまとめ・レポート作成
10	カラー・イメージ測定実習③	25	結果のまとめ・レポート作成・考察
11	カラー・イメージ測定実習④	26	文献調査①：テーマ選択
12	カラー・イメージに関する考察①	27	文献調査②：プレゼンテーション
13	カラー・イメージに関する考察②	28	文献調査③：プレゼンテーション
14	質問項目作成実習①：テーマ選択	29	文献調査④：プレゼンテーション
15	質問項目作成実習②：テーマ選択	30	レポート提出とまとめ

【使用教材】

◇教科書は使用せず、随時配布資料を準備する。

【履修条件等】

◇PCを使用することが多いため、PCを通学時に持参できることが望ましい。

◇PCを用いた実習中心の授業となるため、全出席できること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇特別予習は必要としないが、実習中心の授業のため宿題が多くなる。

【その他の注意事項】

◇PCを用いた実習中心の授業となるため、欠席回数が4回（3分の1）を超える場合は、自動的に履修放棄扱いとする。

◇実習中心の授業となるため、受け身の姿勢ではなく、自ら積極的に学習に取り組む姿勢で受講してほしい。

卒業論文	
Graduation Thesis	基本科目／通年／2単位

【授業概要（内容、到達、教授法）】

連続演習の研究の総まとめとしての卒業論文作成の指導を行う。

演習の学習過程で得られたテーマを卒業論文として完成させるため、資料・文献の検索から仮説構築や論理構成、論文形式での執筆などを個別に指導する。

1、2週間に1回程度、オフィス・アワーの時間帯に指導する。

【使用教材】

◇教科書：必要に応じて指示する。

◇参考書：必要に応じて指示する。

【評価方法】

◇論文執筆過程の努力および完成した卒業論文により評価する。

論文は20,000字（400字詰原稿用紙50枚）以上。

【履修条件・提出締切日】

◇連続演習の担当者が履修を認め、2・3年次（3年次編入生は3年次のみ）に「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の単位を修得したもの。

提出締切日：平成29年1月12日（木） 17:00まで

提出先：学務センター

【授業計画】

<春学期>

1. 卒業論文の作成概要指導
2. 各自のテーマ決定の確認・助言
3. 論文の形式、構成の指導
4. テーマに関する資料・情報の収集法指導
5. 論文作成（中間）の指導
6. 中間発表

<秋学期>

1. 夏期休暇中の研究成果の確認
2. 論文完成に向けての指導
3. 最新のデータとの照合
4. 論文要旨に対するディスカッション
5. 論文の完成・最終稿のチェック
6. 卒業論文発表会

流通論 I	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、流通に関する基礎的な知識の習得を目指すとともに、上記環境下における小売・流通企業の戦略について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
社会における流通と商業に関する基本用語を正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通と商業の社会における役割に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態について説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態の特徴に関する設問に答えられること。	25%
日本において発展してきたさまざまな小売業態が起こしたイノベーションについて説明できること	設問に対する回答によって評価。百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンス・ストア、ディスカウント・ストアなどの業態がこれまで起こしてきたイノベーションに関する設問に答えられること。	25%
流通理論に関して正しく理解し説明できること	設問に対する回答によって評価。流通や商業者の行動原理としての流通理論（売買集中の原理、延期と投機の理論など）に関する設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通とは	現代社会における流通の様相
3	各種小売業態の特徴(1)	食品スーパーとCVSについて
4	各種小売業態の特徴(2)	ディスカウント・ストアとSPAについて
5	各種小売業態の特徴(3)	商店街とショッピングセンターについて
6	変化する流通構造	流通構造の分析
7	小売業態とは何か	業態理論について
8	日本型取引慣行	日本型取引の特徴（流通系列化、建値、リベート）
9	ロジスティクス	現代流通を支える3PL
10	売買集中の原理と品揃え形成	商業の存在意義について
11	商業の外部性と商業集積	商業集積における競争と協調メカニズム
12	投機的流通から延期的流通へ	延期投機理論について
13	生産と流通の分業関係の変化	流通系列化から製販連携へ
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：石原武政・竹村正明編『1からの流通論』碩学舎、2008年

【履修条件等】

◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。

◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

流通論Ⅱ	フカザワ タクヤ 深澤 琢也
Channel Management Ⅱ	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

現代の小売・流通企業は、国際的運輸・交通手段の発展、情報通信技術の飛躍的発展、消費者ライフスタイルの多様化といった時代的な環境変化、そして市場変化の加速化、競争の多次元化（コスト、品質、スピード）といった競争環境の変化への戦略的対応が要請されている。本講義では、「流通論Ⅰ」で学習した内容をベースに、より専門度の高い流通理論のみならず、制度・実態・政策について最新のケースを用いながら理論的に検討する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
流通と商業の社会的役割および流通機能の分類と機能について正しく理解し、説明できること	設問に対する回答によって評価。流通機能の分類と機能に関する設問に答えられること。	25%
現代流通業の実態について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。オペレーションコスト、取引コスト、パワー関係、延期と投機SCMなどの理論に関する設問に答えられること。	25%
ICT化、国際化などの流通業を取り巻く今日的課題について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。流通におけるICT機能の役割、インターネット販売、流通業が国境を越える際に生じる課題に関する設問に答えられること。	25%
流通と公共政策との関連性について正しく理解し、理論的に説明できること	設問に対する回答によって評価。今日までになされてきた具体的な公共政策内容、およびそれが流通にいかなる影響を及ぼしてきたのかについての設問に答えられること。	25%
評価の方法	全15回の授業のうち3分の2にあたる10回以上の出席を前提として、学期末試験の得点に基づき評価する。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	講義内容説明、成績評価説明
2	流通を読み解く視点(1)	流通と商業
3	流通を読み解く視点(2)	流通機能の分類と機能
4	流通における機能分担(1)	垂直的分化と統合
5	流通における機能分担(2)	オペレーションコスト、取引コスト
6	流通における組織間関係(1)	チャネルの組織化とパワー関係
7	流通における組織間関係(2)	製販提携と延期型流通、SCMの進展
8	小売業の行動とダイナミクス(1)	小売業態の開発と競争
9	小売業の行動とダイナミクス(2)	小売業の製品開発とブランド・マネジメント
10	卸売業の現状と課題	卸売業界の再編成と“機能強化”競争
11	流通におけるICT活用の展開	ICTの導入、流通ICT化の進展と意義
12	インターネット販売の可能性	インターネット販売の特徴
13	流通と公共政策	まちづくり・公正競争
14	学習ポイントと質疑応答	春学期の学習ポイントについての理解を深める
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

◇参考書：渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著『流通論をつかむ』有斐閣、2008年

【履修条件等】

- ◇小売・流通企業に興味・関心を持っていること。
- ◇遅刻および講義中の私語は厳禁。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日本経済新聞や日経ビジネスなどに日頃から目を通し、小売流通企業の動向について問題意識を持つ。

【その他の注意事項】

◇遅刻および講義中における授業内容とは関係のない私語は厳禁。

消費者行動論 I	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

消費者は、どのようなことを考え、どのように購買行動を行っているのでしょうか。消費者行動は、経営学をはじめとして、心理学、社会学、行動経済学等、広い分野と関わっています。この授業では、消費者行動の基本的な理論を学びながら、事例をもとに理解を深めていきます。

また、企業が国内外でマーケティング活動を行うためには、その国・地域の文化や消費者行動を理解する必要があります。最近の事例を通して、マーケティングについても学んでいきます。

事例や課題への取り組み等の参加型の授業を通して、自分達で考えながら理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と、主な研究方法について、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動に対する基本的な考え方、消費者行動研究の主要なアプローチ方法を理解し、答えられること。	30%
消費者行動に影響を与える内的・外的要因について理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の知覚、記憶、態度形成等について理解し、答えられること。 消費者行動が周囲の人々や社会から受ける影響要因について理解し、答えられること。	30%
企業の経営企画・マーケティング活動と消費者行動の関連を理解し、説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動を理解することが、企業のマーケティング活動にどのように関わるのか、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、内容について、消費者行動とは何か
2	研究の主要アプローチ方法	消費者行動研究の主な理論とモデル
3	消費者の知覚	消費者の知覚のプロセス等
4	消費者の記憶	消費者の記憶のプロセス
5	消費者の知識と記憶	消費者の知識・記憶
6	消費者の個人特性	消費者の個人特性
7	意思決定プロセス	消費者の意思決定プロセス
8	問題認識・情報探索	問題認識段階と情報探索段階
9	選択評価	選択・代替品の評価
10	購買意思決定	購買意思決定と状況要因
11	購買後の評価	購買後の評価とその影響
12	消費者行動と文化(1)	文化による影響
13	消費者行動と文化(2)	文化に適合させた製品開発事例について
14	消費者調査	マーケティング・リサーチの主な手法と事例
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論 I	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な考え方について学んだあと、購買行動に影響を及ぼす心理的要因について解説を行う。具体的には、商品を購入する際の意味決定プロセスや欲求との関わり、商品への関与度や態度形成が購買行動に与える影響などについて説明をする。自身の購買行動について理論的に理解できるようになるとともに、消費者行動と企業のマーケティング戦略との関わりについても理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方と専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方とアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者の認知を理解し、購買行動に与える影響について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の知覚が商品選択や情報理解に与える影響、商品知識の構造と購買行動へ与える影響などについての理論を理解し、答えられること。	25%
消費者の心理的要因について理解し、購買行動との関わりについて説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者の欲求と動機づけが購買行動に与える影響、商品に対する関与や態度の概念を正確に理解し、情報探索行動や購買行動に与える影響について答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	消費者行動の定義と基本的な考え方について
2	問題解決としての購買行動	購買行動の考え方と消費者行動のアプローチ方法
3	購買意思決定プロセス	消費者の購買意思決定プロセスについての解説
4	消費者の欲求と動機づけ	欲求が購買行動に与える影響と動機づけの形成
5	知覚のプロセスと特徴	知覚のメカニズムと知覚が消費者行動に与える影響
6	記憶の種類と役割	消費者の記憶の種類と記憶が消費者行動に与える影響
7	知識の種類と役割	消費者の知識の種類と知識が消費者行動に与える影響
8	知識の高低による違い	消費者の商品知識の高低が購買行動に与える影響
9	製品関与と購買への影響	製品関与が商品購入に与える影響
10	購買関与と広告関与	購買関与と広告関与が消費者に与える影響
11	消費者の態度形成	態度概念と購買行動との関わり
12	態度変容と説得	多属性態度モデル、態度変容とコミュニケーション
13	価格の心理	心理的財布、価格判断の状況依存性
14	購買後の心理	購買後の心理と次購買へ与える影響
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて、資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。

◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。

◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ナカジマ レイコ 中嶋 励子
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、消費者行動の基本的な理論の理解を踏まえ、消費者行動に関する社会的、文化的、個人内要因の理解を深めていきます。

また、データ分析をもとにした消費者行動分析について学び、データ分析や観察を通して、理解を深めていきます。さらに、消費者行動の分析が企業のマーケティングに活用されている事例から、マーケティング活動との関連についての理解も深めていきます。

最近の動向や事例を通して、考えながら、消費者行動を理解する力を養います。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動のプロセスを説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者行動のプロセスについて、研究事例および自分自身の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
消費者行動の影響要因を理解し、自分の行動に関連して説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者を取り巻く外的および個人内要因が消費行動に与える影響について、自分の行動と関連させて理解し、説明できること。	30%
企業のマーケティング活動との関連を説明できるようにする	設問に対する解答によって評価。 消費者の行動と企業のマーケティング活動の関連を、具体例を通じて理解し、答えられること。	40%
評価の方法	70%以上の出席を前提として、平常点20%（授業時に提出を求めるペーパーの内容で評価）、課題20%、試験60%	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、授業内容について
2	消費者行動の影響要因	意思決定の主要モデルとさまざまな要因について
3	外的要因	消費者を取り巻く外的要因と影響
4	内的要因	消費者の個人属性、ライフスタイルと消費行動
5	消費者行動とリサーチ(1)	質的調査の主な手法について
6	購買前行動・状況要因	計画購買と非計画購買
7	非計画購買	非計画購買の行動観察
8	購買後評価とその影響	購買後の評価、購買後の評価の影響
9	無店舗販売と消費者行動	無店舗販売における影響要因と購買後評価
10	消費者行動とリサーチ(2)	量的調査の主な手法について
11	マーケティング活動の影響	マーケティング活動が消費者行動に与える影響
12	マーケティング事例(1)	広告の役割・効果、ブランド・イメージ等
13	マーケティング事例(2)	消費者行動を考慮したマーケティング戦略の事例
14	データサイエンス	ビッグデータを用いた分析など
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書は使用せず（授業時に配布する授業資料を使用）。
- ◇参考図書：青木幸弘著『消費者行動の知識』日経新書
平久保仲人著『消費者行動論』ダイヤモンド社
他（授業内で順次紹介）。

【履修条件等】

- ◇マーケティング関連の科目（「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「アパレル経営」（他学科科目）、「ショップ経営」（他学科科目）など）を受講していることが望ましい。
- ◇授業内で行う課題、提出を求める課題は、必ず提出すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇授業内容に関して指定する資料（配布資料、新聞記事など）に目を通しておくこと。
- ◇自らも消費者であることを認識し、自分の購買行動に関心を持ち、考察すること。

【その他の注意事項】

- ◇授業中の私語や遅刻については、厳重に注意する。

消費者行動論Ⅱ	ハナオ ユカリ 花尾 由香里
Consumer Behavior II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

この授業では、購買行動に影響を及ぼす心理的な要因を学ぶとともに、消費者を取り囲む環境要因や状況要因など、消費者行動に影響を与える要因について多面的な視点から解説を行う。また、消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて考察できるようになるとともに、自身の購買行動について理論的に理解できるようになることが目標である。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費者行動の考え方や専門用語を正しく理解し説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者行動の基本的な考え方やアプローチ方法を理解し、消費者行動に関する用語を答えられること。	20%
消費者行動に影響を与える環境要因について理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。消費者を取り囲む環境要因である他者や社会が購買行動に与える影響、店舗内環境要因などの影響について理解し、答えられること	25%
消費者行動にみられる近年の変化や消費者問題について説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。インターネットの普及による消費者行動の変化、消費者問題の現状等を消費者心理とともに理解し、答えられること。	25%
消費者行動と企業のマーケティング活動との関わりについて理解し、説明できるようになること	設問に対する回答によって評価する。自身の消費者行動を科学的に理解し、企業のマーケティング活動との関わりについて答えられること。	15%
評価の方法 70%以上の出席を前提として授業中の課題提出15%、試験85%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と授業内容について
2	消費者の個人特性	個人特性による類型論と購買行動への影響
3	消費者のライフスタイル	新製品の普及過程理論とライフスタイルの変化
4	環境要因の影響	環境要因の考え方と環境が消費者行動に与える影響
5	店舗内消費者行動	計画購買と非計画購買、店舗内要因の影響
6	対人的影響(1)	口コミによる購買行動への影響
7	対人的影響(2)	オピニオンリーダー、口コミを利用した企業戦略
8	集団と社会の影響	社会的規範と準拠集団の影響
9	ネット上の購買行動(1)	インターネットの普及による購買行動の変化
10	ネット上の購買行動(2)	インターネットを利用したアプローチと広告戦略
11	カラーの心理と影響(1)	色やデザインが消費者行動に与える影響
12	カラーの心理と影響(2)	色やデザインの戦略的応用について
13	消費者問題(1)	近年の傾向と消費者が巻き込まれやすいトラブル
14	消費者問題(2)	近年の消費者問題対策とトラブル対応
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇なし。

※必要に応じて資料等を配布する。

【履修条件等】

◇「消費者行動論Ⅰ」および「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇日常生活における自身や他者の購買行動を理論的、科学的に考察すること。
- ◇普段から、企業や商品に関するニュース等に注意を払っておくこと。
- ◇毎回の授業においては、事前に指示をした重要事項の内容を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇私語や遅刻については厳重に注意する。

経営心理学	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Business Psychology	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

経営環境が大きく変化するなかで生産性を向上させ、また効率の良い組織運営を行うためには、組織成員の心理や行動を理解することが重要である。本講義では、主に企業に入ってから各人が直面する内容を取り上げる。形式は講義を中心とするも、受講生の知識習得レベルを確認するため、適宜討議法を用いた講義方式も取る。主な講義内容は精神的ストレスの発生過程、ワークモチベーション、社内研修と能力開発、職場環境と安全管理等を取り上げ、生産性の向上と事故などの発生に伴う損失を低減させるための方法など、経営心理学が扱う領域を幅広く学び、理解する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
精神的なストレスの発生過程とストレスを低減する方法を学ぶ	ストレスの意味を学び、かつ精神的なストレスとは何かを理解する。さらに精神的なストレスモデルを通じ、精神的なストレスの発生過程を学び、ストレス対処法を理解できることを評価基準とする。	25%
仕事や学習へ意欲的に取り組むための動機、および動機づけの仕組みを理解する	動機や動機づけに関する定義や用語を理解するとともに、職場においてこれらの動機づけの必要性が理解できることを評価基準とする。	25%
職場における研修と能力開発の仕組みを理解する	各企業では、職員の能力開発を定期的、組織的に行っており、それらの仕組みと内容が理解できることを評価基準とする。	25%
事故や労働災害は企業利益を低減させるため、事故の発生の仕組みと事故の予防対策を理解する	企業活動を通じて確保された利益は、事故や労働災害が生じることにより大幅に低下する。そこで事故が発生する仕組みや事故を予防するための対策を学び、これらが理解できることを評価基準とする。	25%
評価の方法 試験70%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方
2	精神的ストレス(1)	ストレスの意味・定義、ストレスの構造
3	精神的ストレス(2)	ラザラス、心理学的ストレスモデル
4	精神的ストレス(3)	ストレスとソーシャルサポート、THP
5	ワークモチベーション(1)	ワークモチベーション、内発的動機づけ
6	ワークモチベーション(2)	動機づけ理論、マズロー、欲求5階層説、2要因説
7	ワークモチベーション(3)	職場内精神的ストレスの現況、心理的ストレスモデル
8	研修と能力開発(1)	目標管理制度、PDCAサイクル
9	研修と能力開発(2)	教育研修制度、OJT、off-JT、CDP
10	研修と能力開発(3)	階層別研修、職能別研修
11	研修と能力開発(4)	リーダーシップ理論、PM理論、マネジリアル・グリッド理論
12	職場環境と安全管理①	産業界での事故・労働災害の現況
13	職場環境と安全管理②	ヒューマンエラー、事故分析、事故の発生過程
14	職場環境と安全管理③	組織過誤、組織過誤に基づき崩壊した企業例の分析
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇教科書：随時資料を配布する。

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回学習内容の獲得レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

<h2 style="margin: 0;">ヒューマンエラーの心理学</h2>	フカザワ ノブユキ 深澤 伸幸
Psychology of Human Error	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

企業において日々行われる企業活動と安全性とのバランスが極めて重要である。いくら企業利益を上げて、その一方で多額の損失を出すのでは企業の組織体質は強くない。損失をもたらす代表的なものが事故・労働災害である。本講義では、①エラー行動に関する考えを学び、次に②エラー事例を取り上げその原因を考え、③エラー行動の再発防止対策が立てられるまでを到達目標とする。講義中心とするが、視聴覚教材を用いたり、討議形式も取り入れていく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ヒューマンエラー行動に関する諸理論を理解する	ヒューマンエラーに関する考え方や理論を理解できることを評価基準とする。	25%
心理学の基礎である知覚・認知・記憶を再学習し、人間の仕組みを理解する	ヒューマンエラーは注意の状態、実行時の誤り、記憶間違い、さらには予測判断の誤りから生じるため、事前に心理学の基本的な知識を再学習し、人間行動の仕組みを理解しておくことが重要である。理解の程度を評価基準とする。	25%
ヒューマンエラー研究で用いられる研究方法を理解する	ヒューマンエラーの研究は事故報告書の分析から実験を用いた方法まであり、最近ではシミュレーション場面の中でエラー行動を実際に発生させ、エラーの発生過程が分かるようになっている。それらの研究方法への理解の程度を評価基準とする。	25%
事故防止対策を理解し、自ら対策を立てることができる	職場におけるヒューマンエラー事故を防止するには、人間が持つリスクへの感受性を高めると共に、職場集団が持つ職場の安全風土を醸成し、職場の安全文化を向上させることが重要である。重要度への理解の程度を評価基準とする。	25%
評価の方法 試験40%、エラー事例の分析と対策レポート40%、通常のレポート20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	講義概要と授業のすすめ方
2	エラー行動の定義	認知心理学の立場、人間工学の立場
3	エラー行動の要因①	感覚・知覚の仕組み、知覚とエラー行動
4	エラー行動の要因②	認知の仕組み、認知とエラー行動
5	エラー行動の要因③	記憶の仕組み、記憶とエラー行動
6	エラー行動の要因④	生理学特性とエラー誘発要因（サーカディアンリズム等）
7	エラー行動の要因⑤	注意と不注意、不注意とエラー行動
8	安全と危険	安全と危険の関係、ディノーメンゾーン
9	リスク知覚とエラー行動	リスク・パーセプションとエラー行動
10	事故再発防止対策①	職場安全風土醸成プログラム、職場の体質改善
11	事故再発防止対策②	安全教育法、危険感受性訓練、リスナー教育
12	組織過誤	組織体質、事例分析、コンプライアンス違反
13	エラー行動の研究手法①	事故報告書分析、実験手法、シミュレーション実験法
14	エラー行動の研究手法②	事例分析、再発防止策
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認 テストを実施する

【使用教材】

◇深澤伸幸著『ヒューマンエラーの心理学入門』国際文献社

【履修条件等】

◇とくになし。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇毎回授業終了時に次回の講義内容を紹介するので、次回までにHPで調べること。

【その他の注意事項】

◇毎回、学習内容の獲得レベルを把握するため、授業終了時に振り返りシートへの記述を求め、これをレポートとみなして評価する。

◇出席率を重視し、いかなる場合も欠席率が3分の1を超えた場合は履修放棄とみなす。

コンテンツビジネス論 I	ヤマカワ サトル 山川 悟
Content Business Theory I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽・ゲーム…といったエンタテインメントコンテンツが経済的価値を生み出すという認識が高まっており、「クールジャパン」の名の下に、日本政府も戦略的産業領域と位置づけています。しかしこうした分野のマーケティングに関する理論的な先行実績は乏しく、これからの研究分野とされています。ここでは、作品および事例を見ながら、実践的な取り組み方を一緒に考えてみたいと思います。また、コンテンツを活用した一般企業のマーケティング手法についても考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
コンテンツビジネスの概要や影響力について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分なりの言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
コンテンツのマーケティング独自の考え方について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツマーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツを活用したマーケティング手法とその効果について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたコンテンツ活用マーケティングの方法論・事例に基づいて、独自のケースを分析・記述できるか」を評価ポイントとする。	40%
評価の方法		
評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンテンツとは何か	作品型、知識型、ライブ型、データ型
2	コンテンツビジネスの現状と展望	産業振興戦略、国際戦略、利用動向
3	無形性からのアプローチ	ブランド化、エントリー商品、有形化
4	可変性からのアプローチ	マルチユース化、バンドリング
5	芸術性からのアプローチ	スポンサード、アーティスト活用、希少価値化
6	権利性からのアプローチ	ライセンスング、権利保護、二次利用
7	時間消費性への対応戦略	プロセスデザイン、スケープデザイン
8	中間試験	1～7回までの学習達成度確認のための試験
9	偶有性への対応戦略	関心拡張、既知情報の活用、未知の創出
10	嗜好選択性への対応戦略	ターゲット戦略、選択肢多様化、異文化対応
11	模倣・共感性への対応戦略	顧客参加、バイラルマーケティング
12	コンテンツ活用戦略①商品開発	タイアップ、世界観商品、独自ストーリー
13	コンテンツ活用戦略②広告宣伝	ブランデッドエンタテインメント
14	コンテンツ経験プラットフォーム	企業発コンテンツのこれからを考える
15	総括と達成度の確認	授業の総括と学習達成度確認のための試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：山川悟他著『コンテンツマーケティング』同文館出版
山川悟他著『コンテンツがブランドを創る』同文館出版

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の企業名や商品名、主要映画やドラマ、アニメなどについての知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

コンテンツビジネス論Ⅱ	イシワタ マサト 石渡 正人
Content Business Theory II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

コンテンツ産業とは…経済産業省によると、映像（映画、アニメ）、音楽、ゲーム、書籍等の制作・流通を担う産業の総称とされ、海外展開を含め有望な成長産業として注目されています。ここではコンテンツ産業の分野ごとにビジネスモデルを解析し、日本独自の進化を遂げてきたコンテンツの変遷を辿ることでコンテンツ産業の全体像を学びます。

また、コンテンツ産業を「グローバル社会」、「イノベーション」の2つの視点から考察することで、あらたな視点・考え方、活用できる知識・方法論の概論を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
日本のコンテンツ産業の全体観およびそれぞれの戦略について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げた理論やケースを理解し、自分の言葉で記述できるか」を評価ポイントとする。	20%
各コンテンツ産業のビジネスモデルやクールジャパン戦略を理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「企業の活動をグローバルな視点、歴史的視点、数量的な視点から理解する能力を身につけているか」を評価ポイントとする。	40%
コンテンツ業界におけるイノベーションと情報化社会での思考の変化について理解する	講義中の質疑応答、小テスト、中間試験、本試験により評価。 「講義で採り上げたイノベーション（革新的活動）と情報化社会におけるメディアの変遷が与える影響を理解し記述できるか」を評価ポイントとする。	40%

評価の方法

評価の配分：およそ70%以上の出席を条件に、試験80%・小テストおよび受講姿勢20%

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本におけるコンテンツビジネス	コンテンツ産業の現状とクールジャパン戦略
2	コンテンツ産業の現状分析①	出版産業の変遷とビジネスモデル
3	コンテンツ産業の現状分析②	映画産業の変遷とビジネスモデル
4	コンテンツ産業の現状分析③	アニメーション産業の変遷とビジネスモデル
5	コンテンツ産業の現状分析④	音楽産業の変遷とビジネスモデル
6	コンテンツ産業の現状分析⑤	ゲーム産業の変遷とビジネスモデル
7	クールジャパン戦略の検証	グローバル社会における日本のコンテンツビジネス
8	中間試験	1～7回講義内容を試験範囲とする
9	コンテンツにおけるイノベーション①	手塚治虫と日本のマンガ
10	コンテンツにおけるイノベーション②	手塚治虫と日本のアニメ
11	コンテンツにおけるイノベーション③	キャラクタービジネスとマルチユース
12	コンテンツにおけるイノベーション④	情報化社会におけるメディアの変遷とコンテンツ（Ⅰ）
13	コンテンツにおけるイノベーション⑤	情報化社会におけるメディアの変遷とコンテンツ（Ⅱ）
14	コンテンツにおけるイノベーション⑥	コンテンツビジネスの今後～オープンイノベーション、フリーカルチャー、二次創作、N次創作と著作権
15	まとめ	総括と本試験

【使用教材】

- ◇教科書：教科書は使用せず、パワーポイント資料を使用。
- ◇参考書：経済産業省メディアコンテンツ課：『コンテンツ産業の現状と今後の方向性』
経済産業省生活文化創造産業課：『クールジャパン政策について』ほか

【履修条件等】

- ◇「マーケティング概論Ⅰ」、「マーケティング概論Ⅱ」、「コンテンツビジネス論Ⅰ」を受講していること、あるいはそれと同等の知識ベースを持っていることが望ましい。
- ◇映画・ドラマ・アニメ・マンガ・小説・音楽などに興味があること。
- ◇講義中に議論や質問、ミニ試験を行うことがあるため、能動的な出席態度が望まれる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに留学生は、日本の主要映画やマンガ、アニメについて知識を深めておくこと。
- ◇テレビ番組や映画などを見ることも、ひとつの事前学習と考えてほしい。

【その他の注意事項】

- ◇マーケティング業務の実践に近い内容を志向する。受講者は、就職時の面接や、企業において仕事をするのと同じくらい真摯な態度で授業に臨んでほしい。

<h2 style="margin: 0;">イベントキャリア開発</h2>	カモ ユウコ 鴨 裕子
Event Career Improvement	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントのキャリア開発システムは、基本段階、基礎段階を経て、さらに応用～発展段階へと続きます。イベントは特定の目的達成の手段であるため、制作の各段階においてさまざまな技能・職能が求められますし、さまざまな管理（予算や安全等）もあります。これらを着実に遂行していくためには、社会的に通用するルールを伴ったシステムが必要です。

イベントキャリア基礎から一歩進め、キャリアを開発してゆくために必要な学習ステップを明確にします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントキャリアの基礎を理解する	設問に対する回答によって評価。 イベント制作段階の基礎（モラル、マナー、エチケット）段階について答えられる。	20%
イベントキャリアの基本業務を説明できる	設問に対する回答によって評価。 イベント制作・運営の重要な基本推進業務について、機能と役割を説明できる。	20%
イベントキャリアの管理業務が理解できる	設問に対する回答によって評価。 イベント制作の全体的な管理（ヒト、モノ、カネ、リスク）を理解し、そのビジネス構造について説明できる。	30%
イベントキャリアの大切さを表現できる	レポートによって評価。 イベントキャリアを通して身につく学べる価値を自分の言葉で表現できる。	30%
評価の方法 履修態度、講義への貢献度、レポート等で総合的に判断。 履修態度50%、各授業での小テスト30%、レポートと試験20%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イベントキャリアの重要性	イベント制作に求められる業務遂行能力とは
2	社会人の基本	モラル、ルール、マナー、エチケット
3	イベントともてなしの科学	サービス、ホスピタリティ、おもてなし、プロトコール
4	イベントビジネスマナー①	挨拶、名刺交換など
5	イベントビジネスマナー②	コミュニケーション、話し方、言葉遣いなど
6	イベントビジネスマナー③	メール、礼状、贈答など
7	イベントビジネスマナー④	イベント接客、接待など
8	イベントの安全管理	リスクマネジメント、救命応急処置
9	イベントの会計管理	予算管理、決済業務、資金調達など
10	イベントの全体管理	P D C A サイクル等業務管理など
11	イベントキャリア開発実例①	ゲスト講師による講義
12	イベントキャリア開発実例②	ゲスト講師による講義
13	イベントキャリア開発実例③	ゲスト講師による講義
14	イベントキャリア開発のまとめ	ケーススタディ、ロールプレイ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する。

【使用教材】

◇教科書は使用しない。授業時に資料を配布する。

【履修条件等】

◇毎回小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント実習 I	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Practice I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習 I」は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身に付けます。

「イベント実習 I」は、「イベント実習 II」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則2年次に4ステップの実習を行う。「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ2ステップ)

(2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて(「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ)

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇PC (パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・夏季休暇・冬期休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習 I	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Event Practice I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。イベント実習 I は、イベントスタッフの基本的な態度、行動のあり方等を学び、「就業力」を身につけます。

「イベント実習 I」は、「イベント実習 II」へ進む必須条件です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則2年次に4ステップの実習を行う。「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」それぞれ2ステップ)

(2)期間全体を4区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて(「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱ)

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：多様なイベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)「イベント実習Ⅰ」ではステップⅠ、Ⅱについて評価する。

【使用教材】

◇PC (パワーポイント、エクセル、ワードなど)。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・夏季休暇・冬期休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によってはビジネススーツの着用、交通費、食費など諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h2 style="margin: 0;">イベント実習Ⅱ</h2>	<small>オオヤマ トシエイ</small> 大山 利栄
Event Practice II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅱ	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Event Practice II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」、「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅱ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅱ」は、「イベント実習Ⅰ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・無断欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅲ	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Event Practice III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント実習Ⅲ	スガワ カズユキ 須川 一幸
Event Practice III	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。「イベント実習Ⅲ」は、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅲ」は、「イベント実習Ⅰ」「イベント実習Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（授業参加度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身に付けることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則2年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h1>イベント実習Ⅳ</h1>	オカボシ タツミ 岡星 竜美
Event Practice IV	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。イベント実習Ⅳは、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（出席・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ：トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ：イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ：イベント現場の体験実習

ステップⅣ：イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

<h1>イベント実習Ⅳ</h1>	ヒノ タカオ 日野 隆生
Event Practice IV	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、開催規模の大小にかかわらず、「決められた時」「決められた場所」に情報を共有する人々が集まるプロジェクトです。この事業を運営するには、専門的な技術と経験を持った専門職業者のチームによって実施されています。イベント実習は、イベントの実施現場を体験することを目的とします。また運営スタッフは「人と人との関係性」が良好であることが求められます。イベント実習Ⅳは、イベントスタッフのリーダー的な態度、行動のあり方等を学び、「指導力」と「就業力」を身につけます。

「イベント実習Ⅳ」は、「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
規則を守る力	実習態度により評価する。 集合時間や、担当部署など、決められていることを守る。	20%
コミュニケーション力	実習態度により評価する。 初めて出会う関係者や、来場者へフレンドリーに積極的に交流できる。	20%
やり切る力	実習態度により評価する。 準備での悪天候や、本番でのトラブルなどが起きても、現場を投げ出さず、最後までやり切る。	30%
改善する力	実習態度により評価する。 現場での反省や失敗を前向きにとらえ、次の現場に向けて改善・改良できる。	30%
評価の方法	実習態度（受講態度・積極性など）、実習への貢献度、レポートなどで総合的に判断します。	

【授業計画】

座学で学んだ「イベント学」を実地で体験し、「就業力」を身につけることを目的とする。

(1)原則3年次に、春学期ステップⅢ、秋学期ステップⅣの現場実習を行う（下記参照）。

(2)原則3年次の期間全体を2区分に分けて、ステップを踏んで実習を進める。

(3)ステップについて

ステップⅠ:トータル運営システムの学習／イベントのアテンドマインドの学習

ステップⅡ:イベントの多面的な現場の見学

ステップⅢ:イベント現場の体験実習

ステップⅣ:イベント現場実習の総括

(4)各ステップは、それぞれガイダンス、実習者の記録、指導教員の記録と認印をとる。

各ステップとも、指導者評価を実施、それに基づき、実習者の自己評価をしてステップアップにつなげる。

(5)4ステップの全体について、最終的に総合評価する。、最終的に総合評価する。

【使用教材】

◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

◇イベント実習には主催者や関係者も多く、チームワークが大変重要となるため、遅刻・欠席などは禁止です。快活に積極的に実習に取り組んでください。大人としての自覚と、リーダー精神を持って臨んでください。

◇「イベント実習Ⅰ」、「イベント実習Ⅱ」、「イベント実習Ⅲ」を履修済みであること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇予定されるイベントについての予習と実習準備。

【その他の注意事項】

◇イベント実習は土日・休祝日・休暇など、平常の授業時間以外に行われます。各自、アルバイトや各種行事と調整して参加してください。

◇実習案件によっては、交通費、食費、諸雑費がかかることがあります。

◇学外での実習に備えて、全員学生用のインターンシップ保険に加入します。

イベント管理会計	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Event Management Accounting	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントにおける管理会計とは、それぞれのイベント単体での予算管理（Budgeting）と原価計算（Costing）のことを指します。製品製造とは大きく趣が異なり、それぞれのイベントごとに科目や単価が大きく違うため、イベントの性質や内容を正しく理解することが非常に重要となってきます。また、イベント全体の予算において各パートごとの予算配分によっては結果的に大きな差となってクライアントからの評価に繋がるケースも多くあります。ここでは具体的なケースを基に、リスクマネジメントも視野に入れながら各パートの原価を割り出し、最適なイベントの実施に向けた管理会計を学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
イベントにおいて必要な基礎項目と役割について理解すること	さまざまなイベントにおいて、それぞれ必要な各専門パートについて正しく理解し、その役割とポジショニングについて答えられること。	30%
イベントにおける管理会計と原価計算の基礎知識を理解すること	さまざまなイベントにおいて、必要なパートごとの原価項目を学び、正しい発注と適正な収益管理に関する基本問題に答えられること。	20%
各パートごとの予算感とそれぞれの原価について正しく理解すること	イベント会場の特性や広さによって、またイベントの種類や目的によって必要な各パートの予算感が変わることを理解し、予算の組み立てについて大まかに答えられること。	20%
イベントにおけるコスト管理に必要な原価計算の方法を正しく理解すること	標準的なコスト管理と適正な原価計算、リスクヘッジを含めた予算の構築などについて正しく理解し、基本的なイベントの予算と管理会計について答えられること。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、期末試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	イントロダクション	
2	原価計算	原価計算の目的、原価計算のステップ
3	役割と原価項目(1)	美術施工
4	役割と原価項目(2)	音響、照明、映像装置、特殊効果
5	役割と原価項目(3)	演出パートと運営パート
6	役割と原価項目(4)	その他の役割
7	管理会計(1)	イベントにおける管理会計
8	管理会計(2)	原価と利益計画の考え方
9	意思決定会計(1)	イベントにおける業務的意思決定(1)
10	意思決定会計(2)	イベントにおける業務的意思決定(2)
11	意思決定会計(3)	イベントにおける戦略的意思決定(1)
12	意思決定会計(4)	イベントにおける戦略的意思決定(2)
13	予算構築	イベント予算の組み立て
14	予算構築	イベント予算の組み立て
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に資料、教材を配布します。ファイルをしっかりすること。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。

【履修条件等】

- ◇「イベント学概論」、「イベントプロデュース論Ⅰ」、「イベントプロデュース論Ⅱ」、「イベント企画」を履修していることが望ましい。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇できるだけイベントを見たり、参加することでイベントの構造を理解することに努めること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<h1>イベントメディア論</h1>	ヒノ タカオ 日野 隆生
Event Media	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは、「双方向型の直接的なコミュニケーション・メディア」である。従来のマスメディアは一方方向型コミュニケーションである。近年、急進してきたインターネットでも、直接的・双方向での人と人との生の触れ合いは不可能である。いわゆる「五感」全てで体験・体感が可能な、古くからあるメディアともいえるイベントを、現代において重要なメディアとして認識する。

インターネットが社会に浸透すればするほど、直接的コミュニケーションが求められる状況からイベントメディアの意義を理解していただく。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
メディアという概念の理解	設問に対する回答によって評価する。 メディアは「(情報伝達) 媒体」と訳されるが、その意味では演劇や書籍や電話もメディアである。日常的に接しているさまざまな事象を、メディアという視点から捉え直す。	30%
マスメディアの歴史について知る	設問に対する回答によって評価する。 新聞・雑誌・ラジオ・テレビが、どのようにして登場し、メディア(媒体)として活用されることで如何に社会を変えてきたかを知る。	10%
イベントというメディアの特性について知る	レポート提出によって評価する。 イベントが人類最古のメディアである。現在まで存続している理由を理解し、その得意分野と不得意分野を説明できること。	30%
インターネットの特性と、イベントとの相互補完性を理解する	テストとレポート提出によって評価する。 まだ登場して間もないインターネットのメディア特性と問題点を知り、メディアの将来像を展望できること。	30%
評価の方法 レポート50%、期末テスト50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	授業の進め方	授業の概要と評価のあり方を説明
2	メディアとは	メディアとは、について説明
3	マス・メディア(1)	活字・音声メディア（新聞・雑誌・ラジオ）
4	マス・メディア(2)	映像メディア（テレビ）
5	パーソナル・メディア	インターネットの誕生と発展の現状
6	イベントメディア	イベントメディアの過去から現代
7	イベントメディアの意義	情報の非対称性の対称化
8	イベントメディアの特性	情報の波及効果
9	イベントメディアの広がり(1)	オリンピックとメディア
10	イベントメディアの広がり(2)	博覧会とメディア
11	イベントと観光	世界のイベントと観光アクセス
12	イベントメディアの活用	地域活性化イベントとメディア
13	地域活動とイベントメディア	事例研究（地域イベント）
14	イベントメディアの展望	ネット社会の課題とイベントメディア
15	総括・達成度の確認	イベントメディアの理解度の判定

【使用教材】

◇授業時に資料を配布します。

【履修条件等】

◇積極的に授業に参加する意欲があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇各種メディアによってニュース・情報を得る。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

博覧会・展示会	スガワ カズユキ 須川 一幸
Exposition and Exhibition	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

博覧会は、科学技術や新技術の成果を大衆に広く知らしめる内容や、出展企業、団体、政府のPRが多く、企業はあからさまな宣伝は控えます。この博覧会の意義や展示内容・運営手法と観客が期待するもの、効果等について国際博覧会や地方博覧会、食博、グリーン博などの変遷に学びます。一方、展示会は主に企業の販売促進活動としての内容が多いので、会場計画、演出計画、運営計画等を学習することにより、企業と消費者とのコミュニケーション手法について学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
博覧会、見本市・展示会に関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 博覧会や見本市・展示会業界とは何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	日本の博覧会の歴史	日本で開催された博覧会
2	博覧会の意義	博覧会は何故開催されるのか
3	展示内容	展示内容の変遷
4	観客が博覧会に期待するもの	多くの観客が何故並ぶのか
5	博覧会の実施運営	博覧会の現場で起きていること
6	博覧会の成功の秘訣	博覧会の成功に学ぶ
7	見本市・展示会の歴史	見本市・展示会の歴史に学ぶ展示学
8	見本市・展示会の意義	見本市・展示会の狙いと目的
9	展示内容	アピールできる展示内容
10	出展者が展示会に期待するもの	出展者の立場はどのようなものか
11	観客が展示会に期待するもの	観客は何を求めて展示会に来るのか
12	展示会の実施運営	展示会の運営とおもてなし
13	博覧会プロデュース	企画から実施運営までのプロデュース
14	展示会プロデュース	企画から実施運営までのプロデュース
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に教材を配布します。ファイルをしっかりすること。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。
- ◇DVD

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。
- ◇展示会を事前観覧してもらいたい。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

観光・コンベンションイベント	スガワ カズユキ 須川 一幸
Tourism and Convention Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

観光イベントは、観光地への誘客イベント、観光地での観光客向けイベント、おもてなしプログラムなど観光地の内部イベントについても学びます。会議（とくに国際会議）の開催プランづくり、誘致、実際の実施プランづくりから、歓迎パーティに始まり、受付・登録、通訳業務などの本番、また、コンベンション開催中に行われる同伴者のための体験プログラムや観光ツアーなどのアフターコンベンション、閉会式などの会議以外のイベントについても、準備・検討段階から会議実現まで、事例をまじえて学びます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
観光とコンベンションに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 観光とコンベンション業界とは何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	観光コンベンション業界と市場①	観光コンベンション業界の市場規模
2	観光コンベンション業界と市場②	観光コンベンション業界の市場規模
3	ニューツーリズムとイベント	ニューツーリズムとイベント業界
4	観光イベント	観光イベントの成り立ちと現状
5	地域の祭り、産業まつり	観光キャンペーンの実態
6	事例に学ぶ観光イベント	阿波踊り、博多どんたく等事例研究
7	観光イベントプロデュース①	ヒアリングシートに基づくプロデュース
8	観光イベントプロデュース②	ヒアリングシートに基づくプロデュース
9	コンベンション①	M I C E とは
10	コンベンション②	M I C E の 6 W 2 H
11	国際会議開催までのプロセス①	準備段階の仕事
12	国際会議開催までのプロセス②	会議の運営とアフターコンベンション
13	コンベンションプロデュース①	ヒアリングシートに基づくプロデュース
14	コンベンションプロデュース②	ヒアリングシートに基づくプロデュース
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇授業時に教材を配布します。ファイルをしっかりすること。
- ◇P C (パワーポイント、エクセル、ワードなど)。
- ◇D V D
- ◇参考書 必要があれば適時紹介します。
- ◇必要があればM I C E や観光庁のHPよりダウンロードしてもらいます。

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

<p>スポーツ・エンタテインメントイベント</p>	<p>オカボシ タツミ 岡星 竜美</p>
<p>Sports and Entertainment Event</p>	<p>応用科目／半期／2単位</p>

【授業概要】

イベントの形態別・ジャンル別の主な分類である、スポーツとエンタテインメントについて説明します。スポーツ・エンタテインメントイベントの開催効果は、スポーツや文化の振興はもちろん、施設や活動拠点の整備、観光・産業への経済波及効果だけにとどまらず、スポーツ・文化の街としてのイメージ戦略、地域ブランド化、市民意識の高揚、青少年の育成等、有形・無形を問わず、社会・文化面まで多岐にわたります。

楽しく夢のある人気のコンテンツ、スポーツとエンタテインメントイベントの効果・効用について理解しましょう。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
スポーツとエンタテインメントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 スポーツとエンタテインメント業界とは何かについて答えられる。	20%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	20%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	30%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	30%
<p>評価の方法 毎回の授業ごとにレポートを提出70%、期末の確認テスト30%</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	スポーツイベント①	ニューススポーツのつくり方
2	スポーツイベント①	ニューススポーツのつくり方
3	エンタテインメントイベント①	ロボット展示会のつくり方
4	エンタテインメントイベント①	ロボット展示会のつくり方
5	エンタテインメントイベント②	ホラーハウスのつくり方
6	エンタテインメントイベント②	ホラーハウスのつくり方
7	スポーツイベント②	ランニングイベントのつくり方
8	スポーツイベント②	ランニングイベントのつくり方
9	エンタテインメントイベント③	映画祭のつくり方
10	エンタテインメントイベント③	映画祭のつくり方
11	エンタテインメントイベント④	ミュージカルのつくり方
12	エンタテインメントイベント④	ミュージカルのつくり方
13	スポーツイベント③	スポーツによる人材、チームづくり
14	スポーツイベント③	スポーツによる人材、チームづくり
15	総括、達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施

【使用教材】

◇教科書は使用せず。オリジナルテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ユニバーサルイベント	ホシノ キョウコ 星野 恭子
Universal Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

イベントは本来、参加を希望するすべての人が困難なく快適に参加でき、充実したコミュニケーションが実現できる空間であることが望ましく、これまでも施設の設備や導線などへの配慮がされてきました。これからはさらに進めて、内容の企画や計画、会場設計から運営すべてにわたり、誰もが自由に気軽に参加でき、そして楽しむことを前提とした「ユニバーサルイベント」の発想が求められています。当授業ではとくに障がい者スポーツのイベントなどを例にとりながら、ユニバーサルデザインやノーマライゼーション、ダイバーシティの考え方とイベントのあり方を考察します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ユニバーサルイベントに関する基礎知識を理解する	設問に対する回答によって評価。 ユニバーサルイベントとは何かについて答えられる。	30%
幅広いジャンルとカテゴリーを説明できる	設問に対する回答によって評価。 ジャンルやカテゴリーごとに成立する機能と役割について、基本的な構造を答えられる。	30%
イベントプロデューサーの役割が理解できる	実際のイベントプロデュース事例を通して、プロデューサーの権利と義務について理解できる。	20%
実際のイベントで発見したことを表現できる	イベントアイデア、企画のレポートによって評価。 イベントプロデュース発想で、課題に対しユニークで斬新なアイデアが提供できる。	20%
評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ユニバーサルイベントとは	ユニバーサルイベントの基本的な把握
2	ユニバーサルイベントをささえる概念(1)	ユニバーサルイベントに関する概念や要素の整理と理解 ユニバーサルデザインの7原則
3	ユニバーサルイベントをささえる概念(2)	ユニバーサルコミュニティ 地域に求められるユニバーサルな環境
4	ユニバーサルイベントをささえる概念(3)	アダプテッドスポーツ 誰もが参加でき、楽しめるスポーツ
5	ユニバーサルイベントを取り巻くヒト(1)	ユニバーサルターゲット ユニバーサルイベントに関わる人々の役割やニーズを知る
6	ユニバーサルイベントを取り巻くヒト(2)	ボランティア 役割と活用のための基本知識
7	ケーススタディ(1)	ゲスト講師による特別講義（ボランティア論など）
8	ユニバーサルイベントを取り巻くヒト(3)	アテンダントとホスピタリティ ユニバーサルイベントでの“おもてなし”
9	ユニバーサルイベントをつくるモノ(1)	ユニバーサルイベントをつくりだすモノを考え、工夫する バリアフリーとユニバーサルデザイン
10	ユニバーサルイベントをつくるモノ(2)	ユニバーサルアクセシビリティ 安全で快適、スムーズな会場へのアクセスや会場設計
11	ケーススタディ(2)	ゲスト講師による特別講義（障害当事者の声など）
12	ユニバーサルイベントに必要なコト(1)	ユニバーサルコミュニケーション イベントを安全に円滑に運営する情報保障
13	ユニバーサルイベントに必要なコト(2)	ユニバーサル・オペレーション／ゼロエミッション技術 環境やサステナビリティに配慮したイベントづくり
14	ユニバーサルイベントプロデュース	ユニバーサルイベントをつくる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書の使用なし。
- ◇授業時に資料などを配布する（パワーポイント、エクセル、ワード、インターネットなど）。

【履修条件等】

- ◇小テストやレポートなどによって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇イベントに関する情報やニュースについて、常に興味と関心を持つこと。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

セールスプロモーションイベント	シミズ イチロウ 清水 一郎
Sales Promotion Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

入場料を徴収する音楽コンサートのような興行を除けば、イベントの多くは販売促進(セールスプロモーション)を目的に実施されています。流通店舗で行われる商品催事から始まり、その展開形態は多様性に富んでいます。販売促進の目的も、集客動員や使用体験の創出から、イメージ訴求、意識喚起まで幅広く、経済活動の一環として行われているために、社会全般に対する影響力も大きいものです。目的や機能と展開形態で分類し、イベントの社会的な価値を考察します。

全体の流れを百貨店(デパート)の例などを交え、具体的な催事についての理解を深めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
セールスプロモーションの基本を理解する	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーション、販売促進の重要性について答えられる。	20%
セールスプロモーションイベントの実施段階での理解を深める	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントを実施するために必要な項目を説明できる。	20%
セールスプロモーションイベントの管理項目について説明ができる	設問に対する回答によって評価。 セールスプロモーションイベントにおける時間管理、品質管理、予算・経費管理、リスク管理の4つの重要管理項目について理解できる。	30%
セールスプロモーションイベントの戦略を説明できる	レポートおよびテストによって評価。 上位目的に沿った戦略を立案し、その戦略に沿った手法・手段を選定・開拓し、それを明文化できる。	30%
評価の方法 授業への意欲40%、小テスト30%、レポート30%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	S Pとは何か?	セールスプロモーションという概念とその目的
2	S Pの分類と特性	S Pの種類とそれぞれの特性を理解
3	S Pの基本	基本的な「販売促進策」の概要
4	S P戦略	上位目的を達成するための戦略の構築とは
5	S Pイベントの組織	企画、準備、実施段階に置ける組織と役割を理解
6	S Pイベントの企画	社会のフィールドを意識したイベント企画について
7	S Pの基本	「S Pの基本」について中間テスト実施
8	S Pイベントの歴史	百貨店の誕生とS Pイベント
9	S Pイベントの告知	イベント告知のための広告、広報について
10	S Pイベントの管理	S Pイベントの管理業務とは
11	S Pイベントの実際①	物産展とイベント
12	S Pイベントに実際②	商店街の活性化
13	S Pイベントの実際③	異業種交流イベントについて
14	S Pイベントの実際④	イベントの企画について
15	S Pイベントのまとめ	S Pイベントの有用性について

【使用教材】

◇授業時にテキスト・資料を配布する。

【履修条件等】

◇小テストおよびレポートにより確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇イベントは社会の動きと無関係ではないので、一週間の出来事について興味をもった事柄とその理由を毎授業時に全員に発表してもらう。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

イベント特講	オオヤマ トシエイ 大山 利栄
Special Lecture on Event	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

「オリンピック・パラリンピック学」

2020年に「東京オリンピック・パラリンピック」が開催される。

イベントの中でも国際的なビッグイベントのひとつ、物理的、経済的な規模が大きいオリンピックについての理解を深める事を目的とします。開催決定を受け首都圏を中心にインフラ整備を始め、さまざまな事業が計画され始めています。ひとつの大きなイベントが国家、国民を動かすという好事例の歴史や意義を学ぶ事で、イベント管理上のメリット、デメリットを理解する事を求めます。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
オリンピックの歴史と背景について説明できる	設問に対する回答によって評価。 オリンピックの基本的な概念とその歴史について答えられる。	20%
オリンピック憲章と開催意義について説明できる	設問に対する回答によって評価。 近代オリンピックがスタートした背景とオリンピック憲章についての理解を深める。	20%
オリンピック開催のメリット、デメリットについて理解できる	設問に対する回答によって評価。 特に、2020年東京五輪についての経済効果や国としてのイメージ戦略、過去に起きた事件・事故についての事例について説明ができる。	30%
理想的なオリンピックについて自分の意見を述べる事ができる	レポートによって評価。 過去のオリンピックについて十分な知識を持ち、その知識を踏まえて理想的なオリンピック像についての考えをまとめられる。	30%
評価の方法 授業態度30%、レポート30%、試験40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	特講としてオリンピック学を開催することの意義
2	「おもてなし」の本質	日本特有の「もてなし」と「ホスピタリティ」とは
3	近代オリンピック憲章と歴史	近代オリンピックの誕生とあゆみ
4	ロンドンオリンピックの概要	東京オリンピックが参考としているロンドン大会の特性と特徴を検証する
5	オリンピックとイノベーション	2020東京大会に求められるイノベーション
6	オリンピックと国家	オリンピックと国際政治
7	オリンピックと経済	オリンピックの経済効果
8	スポーツツーリズム	インバウンドの実態と受け入れ態勢
9	オリンピックとリスクマネジメント	警備、保安、運営等のリスク
10	オリンピックの未来を語る	これからのオリンピックに求められるもの
11	オリンピックとメディア	メディアで変わる、メディアが変えるオリンピック
12	パラリンピックとバリアフリー	バリアフリーの現状と理想
13	オリンピックと広告	広告活動とスポンサー
14	2020東京オリンピックの概要	コンパクト・環境・安全等を配慮した施設群の概要
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

※外部講師の調整次第で内容、順番が変更になることがあります

【使用教材】

- ◇参考書：必要があれば適時紹介。
- ◇授業時に資料配布。

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇オリンピック関連のニュースについての記事をスクラップする。

【その他の注意事項】

- ◇公開講座として一般受講者も参加します。
- ◇総合監修として杉山茂氏（スポーツプロデューサー、元NHKスポーツ報道センター長）を招聘予定。

<h2 style="margin: 0;">スマートコミュニティ論</h2>	<small>シヅカ マサノリ</small> 志塚 昌紀
Smart Community	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

地方の時代と言われだして久しい。だが、実情はまだ中央依存であり、地方は過疎化に悩んでいるところも少なくない。コミュニティも（地域社会）もまた、商店街のシャッター街化が深刻な問題となっているように、衰えている例が多々みられる。それらの活性化も公的な補助や助成金頼みといったケースも続いている。コミュニティが真に自立し、他と連帯しながら活性化すること、それがスマートコミュニティである。

本授業では理論をただ学ぶだけではなく、毎回のグループワークや学外でのフィールドワークなどを通じ、コミュニティに関するより実践的な学びと理解を重視する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
スマートコミュニティの概念と事例を知る	小レポート、レスポンスシートなど理解度を評価する。	20%
自分の所属するコミュニティを把握することができる	上記に同じ。	20%
課題の分析とその解決への提案	小レポートや発表等で評価する。	60%
<p>評価の方法 70%以上の出席を前提とする。</p> <p>授業参加度・授業態度40%、小レポート・発表60%</p> <p>コミュニティに対する情報の収集力、洞察、分析、改善へのアイデアを問う。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション	授業内容、進め方の説明
2	スマートコミュニティとは？①	スマートコミュニティの概念～コミュニティデザイン、ソーシャルデザイン
3	スマートコミュニティとは？②	スマートコミュニティの手法～ワークショップ、ファシリテーション
4	ゲストスピーカー①	
5	スマートコミュニティの事例①	スマートコミュニティとまちづくり～新しい公共、地域で活動するNPO法人、他
6	スマートコミュニティの事例②	スマートコミュニティとビジネス～企業の社会的責任、コミュニティビジネススマート
7	スマートコミュニティの事例③	コミュニティとイベント～愛知万博、横浜開国博Y150、他
8	スマートコミュニティの事例④	スマートコミュニティと復興～阪神淡路大震災、東日本大震災、他
9	ゲストスピーカー②	
10	コミュニティを調査する①	コミュニティ調査の手法やスキル～資料文献調査、フィールドワーク調査
11	コミュニティを調査する②	自身の属する、あるいは関心をもつコミュニティの課題を調査する
12	コミュニティを調査する③	コミュニティ課題の解決にむけたイベントづくりを考える
13	コミュニティを調査する④	発表に向けた資料づくり
14	成果発表会	イベント提案プレゼンテーション
15	まとめ	

【使用教材】

◇適宜配付する。

【履修条件等】

◇コミュニティに興味を持ち、学ぶ意欲がある学生なら、とくに条件はない。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇自分が属するコミュニティ、あるいは興味を抱くコミュニティに関する情報収集、視察などをおこなうこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

レジャー・アミューズメント論	シヅカ マサノリ 志塚 昌紀
Leisure and Amusement	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

レジャーの訳語は「余暇」である。21世紀は「余暇の世紀」といわれることもあるように、生活のなかにゆとりや癒しを求める機運が高まっている。その傾向はますます強まると思える。また、アミューズメントは狭義には機械・エレクトロニクスを駆使した娯楽を指す。身近なゲーム機をみれば容易に理解できるように、もっともハイテクを導入したレジャーの分野でもある。余暇という概念と理論を学び、さらに代表的なアミューズメントである遊園地・テーマパーク、そしてゲームの世界を探求する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
レジャー、アミューズメントの歴史を学ぶ	温故知新という言葉があるように、まず、レジャーとアミューズメントの歴史を知ることが重要である。小レポート、レスポンスシートで到達の段階を評価し、最終レポートでさらに評価する。	20%
より具体的に、遊園地テーマパーク、アミューズメント施設の現状を把握する	上記と同様に、小レポート、レスポンスシート、あるいは発表等で評価する。最終確認は最終レポートで行う。	20%
レジャー、アミューズメントの近未来を予想する	歴史を知り、現状を把握した上で、近未来を予想する。未来のことであるから、若い柔軟な感性で、想像力、さらに創造力を発揮することを期待する。最終レポートで評価する。	60%
<p>評価の方法 授業時レポート70%、期末試験30%</p> <p>記憶テストは行わない。考える力、想像力、創造力を養います。</p>		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	余暇と余暇学	余暇の概念と余暇学の立場
2	余暇活動の歴史	レジャー・アミューズメントの歴史とレジャー産業の進展
3	ディズニーがなしたとげたこと	故ウォルト・ディズニーはなぜディズニーランドを造ったのか、そしてその神髄とはなにか
4	遊園地とテーマパーク	遊園地とテーマパークの違いと混同
5	ディズニーランドに学ぶ①	東京ディズニーランドに学ぶ「人材育成」
6	ディズニーランドに学ぶ②	東京ディズニーランドに学ぶ「おもてなし」
7	ディズニーランドに学ぶ③	東京ディズニーランドに学ぶ「演出」
8	ディズニーランドに学ぶ④	東京ディズニーランドに学ぶ「運営」
9	USJに学ぶ①	USJに学ぶ「テーマパーク経営」
10	USJに学ぶ②	USJに学ぶ「商品化」
11	東京ディズニーシーに学ぶ	東京ディズニーシーに学ぶ「水を活かした演出」
12	東京ディズニーリゾートとUSJの比較①	世界のテーマパーク入場者ベスト10に入るTDL、TDS、USJの比較で成功の秘訣を学ぶ
13	ゲームの世界の課題	ゲームの世界の問題点と今後の課題
14	今後のレジャー・アミューズメント	これからのアミューズメント空間はどのように構築されていくか、想像してみる
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する

【使用教材】

- ◇教科書：授業時に教材を配布します。ファイルをしっかりすること。
- ◇PC（パワーポイント、エクセル、ワードなど）。
- ◇DVD
- ◇参考書：必要があれば適時紹介します。

【履修条件等】

- ◇小テストやレポート等によって確実に出席をとる。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇とくに予習すべき教材はないが、周囲のレジャー&アミューズメント施設や機器類に注意を払い、それらの現状や将来に対して想像力を働かせること。

【その他の注意事項】

- ◇とくになし。

ビジネス英語 I	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics I	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいるなか、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Class Policy	General Introduction of class
2	Unit 1 “You and You Job”	Countries, nationalities, jobs
3	Unit 1 “You and You Job”	Saying hello
4	Unit 1 “You and You Job”	Jobs and computers
5	Unit 2 “Products and Services”	Company types and activities
6	Unit 2 “Products and Services”	Ordering products
7	Unit 2 “Products and Services”	Telemarketing
8	Unit 3 “Location”	Company building and region
9	Unit 3 “Location”	Meeting people
10	Unit 3 “Location”	Office location
11	Unit 4 “Help and Advice”	Equipment
12	Unit 4 “Help and Advice”	Suggestions
13	Unit 4 “Help and Advice”	Buying help
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

ビジネス英語Ⅱ	シシド カール 宍戸 カール
Business English Basics II	応用科目／半期／2単位

【授業概要】

グローバル化が進んでいる中、ビジネスの世界では英語は不可欠です。日本の企業であっても、社内会議および他者とコミュニケーションを英語で行うことが多くあります。学生が今からこのような環境になれるように基本的なビジネス英語を学んでいただきます。テキストまたは教師が作成したロールプレイなどを中心に授業を進めていきます。クラスは、楽しい雰囲気の中で学ぶことが基本です。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
挨拶や自己紹介の表現を理解し、使えるようにすること	設問に対する回答によって評価。英語での挨拶に臨機応変に対応し、自分のバックグラウンドだけでなく、趣味や夢を英語で説明できること。	30%
相手の仕事内容を尋ねたり、自分の職務の説明ができるようになること	設問に対する回答によって評価。仕事に関連する語彙の習得と表現の練習によって、仕事内容の説明ができること。	30%
約束・請求・謝罪の表現を習得し、使えるようになること	設問に対する回答によって評価。ビジネスにおいて重要な「アポイントのとり方」・「リクエストの仕方」・「謝罪の仕方」などの典型的な表現を習得し、使いこなせるようになること。	40%
評価の方法 70%以上の出席を前提として下記のように評価。 授業参加度：60%、筆記試験：40%		

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Summer Vacation	General Introduction of class
2	Unit 5 “Decision”	E-mail ordering
3	Unit 5 “Decision”	Quick decision
4	Unit 5 “Decision”	Difficult decision
5	Unit 6 “Socializing”	Eat in or take out
6	Unit 6 “Socializing”	Café conversation
7	Unit 6 “Socializing”	Business lunch
8	Unit 7 “Workplace”	Department and responsibilities
9	Unit 7 “Workplace”	Company visits
10	Unit 7 “Workplace”	Perfect workplace
11	Unit 8 “Colleague”	Describing people
12	Unit 8 “Colleague”	Voicemail
13	Unit 8 “Colleague”	Family business
14	Review	Review for Final Examination
15	Final Examination	

【使用教材】

◇ Business Result

Elementary

Oxford University Press

ISBN : 978-0-19-473937-5

【履修条件等】

◇やる気があり、教科書と辞書があり、積極的に会話に参加する意志があること。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇配付資料を熟読し、単語など意味がわからない個所を調べておくこと。

【その他の注意事項】

◇とくになし。

簿記技能 I (日商 3 級)	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping I	応用科目／集中／2 単位

【授業概要】

本講義は、2016年度日商簿記3級、6月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「入門簿記I」、「入門簿記II」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記3級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解する	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
試算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
精算表に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験上で配点が高い項目となります。また、検定試験特有の問の出し方があるため、その特徴も理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。	

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	問1対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問2対策講座	補助簿全般の解き方、T字勘定を使った解答法
3	問3対策講座	試算表全般の解き方
4	問4対策講座	伝票などの解き方
5	問5対策講座	精算表および財務諸表問題の解き方
6	問1問題演習	問1問題の演習徹底的にやります
7	問2問題演習	問2問題の演習徹底的にやります
8	問3問題演習	問3問題の演習徹底的にやります
9	問4問題演習	問4問題の演習徹底的にやります
10	問5問題演習	問5問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習(1)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
12	過去問演習(2)	過去問は最低3年分はする必要があるので内1回を
13	予想問題演習	今回の6月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

*授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇「入門簿記Ⅰ」、「入門簿記Ⅱ」の講義、または日商簿記3級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇電卓は、PCや携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記3級6月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

簿記技能Ⅱ（日商2級）	フクヤマ トモキ 福山 倫基
Bookkeeping Ⅱ	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

本講義は、2016・2017年度日商簿記2級、11月・2月試験合格を目指す方のための講義です。そのため、「商業簿記Ⅰ」、「商業簿記Ⅱ」および「工業簿記Ⅰ」、「工業簿記Ⅱ」の履修が終わっている、もしくはご自身で日商簿記2級の自学を行っている方を対象とします。

本講義では、検定試験特有の問題の解き方、および素早く回答を行うためのテクニック、受講者の苦手とする設問に対する個別指導などを行います。次の点にご注意ください。それは、本講義を受けるだけで検定試験合格ができるわけではないという点です。試験に合格するためには、自分で問題演習をこなす自学の時間が必須です。あくまで、本講義は検定試験全般の補助的な役割として活用してください。

2016年度から日商簿記2級の出題範囲が変更され、例年より難化する可能性が考えられます。出題変異の変更点等含めしっかり学習していきましょう。

講義は、解説を行う講義と、演習を行う講義、過去問・予想問題を行う講義の3部構成で構成されます。本講義が受講者の皆さんの検定試験合格の手助けになれば幸いです。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
検定試験の各問の傾向を理解すること	検定試験の問1から問5までの傾向を理解し、自分の得意分野・不得意分野を明確にする。	10%
仕訳問題に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 検定試験を解く上で、範囲内の仕訳が解けないことにはどうにもなりません。しっかりと理解しましょう。	30%
原価計算に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 日商簿記2級は原価計算が分かればほぼ合格は間違いないと言えます。しっかりと勉強しましょう。	30%
精算表等に関して理解すること	設問に対する回答により評価します。 特に本支店会計は慣れが必要です。よく理解しましょう。	30%
評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、貢献点10%、問題演習時のテスト試験90%で評価します。 ※期末試験に関しては授業中に詳しく説明します。 課題および小テストは、テーマごとに行うので複数回の実施を予定しております。	

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	問 1 対策講座	仕訳問題全般で、特に注意が必要な仕訳に関して
2	問 2 対策講座	特殊仕訳帳や伝票会計に関する解法
3	問 3 対策講座	精算表・本支店会計に関する解法
4	問 4 対策講座	費目別・部門別計算を中心とした解法
5	問 5 対策講座	総合原価計算・標準原価計算の解法
6	問 1 問題演習	問 1 問題の演習徹底的にやります
7	問 2 問題演習	問 2 問題の演習徹底的にやります
8	問 3 問題演習	問 3 問題の演習徹底的にやります
9	問 4 問題演習	問 4 問題の演習徹底的にやります
10	問 5 問題演習	問 5 問題の演習徹底的にやります
11	過去問演習 (1)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
12	過去問演習 (2)	過去問は最低 3 年分はする必要があるので内 1 回を
13	予想問題演習	今回の 11 月試験に出そうな予想問題を演習
14	検定試験前講座	試験前に各受講者の苦手項目を個別に対応
15	検定試験後解説	今回の検定試験の解説

* 授業時間等については、資料配布時にお知らせします。

【使用教材】

◇ 授業ごとにレジュメを配布し、レジュメを教材とします。また、問題演習用の教材は、開講時に指示をします。

◇ 本講義では電卓を使用するので、毎回ご持参ください。

【履修条件等】

◇ 「商業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「商業簿記Ⅱ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅰ」（他学科科目）、「工業簿記Ⅱ」（他学科科目）の講義、または日商簿記 2 級レベルの商業簿記の知識を事前に勉強していることを前提とします。全く知識のないままの受講は控えてください。

【予習をすべき事前学習の内容】

◇ 会計の講義全般に言えることですが、復習に重点を置いてください。

【その他の注意事項】

◇ 電卓は、PC や携帯電話などの電子機器に内蔵されているもの以外の使用をお願いします。※ とくに、試験時には遵守願います。また、日商簿記 2 級 11 月・2 月検定試験に合格された方に関しては、成績評価に反映させます。詳しくは、開講時にお知らせします。

また、講義はオフィスアワー時間帯（16：30～）に行います。時間帯にご注意ください。

ビジネス実務法務	ヒラサワ アキラ 平澤 明
Business Law and Practice	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

「ビジネス実務法務3級」（東京商工会議所）の資格取得を目的とする。

（メリット）

- ①日常のビジネスシーンで求められる基本的な法的ルールを身につけることができる
- ②就職に際して、基本的な法律知識を持った学生であることをPRできる。

取り扱う内容は法律の基礎となる概念から始め、商法、民法を中心にビジネスシーンで必要な経済法である独占禁止法や製造物責任法等の基本知識である。

なお、時間はコミュニケーションアワーの時間で実施する。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
ビジネスに関連する民法の法律用語を正しく理解する	民法の原則、権利義務、意思能力行為能力などの法律用語の意味について答えられること。	30%
商法に関連する法律用語を正しく理解する	会社の組織、契約、債権債務など商法における基本的な意味について理解し、その意味について答えられること。	30%
経済に関連する法律の概要を理解する	独占禁止法、製造物責任など、経済に関する主要な法律の目的とその仕組みについて答えられること。	20%
労働法に関する規則を理解する	労働法特に、労働基準法の内容を理解し、重要な法律用語の意味について説明できること。	20%
評価の方法 理解度確認テストの結果50%、および講義中の学習姿勢50%		

【授業計画】

回	テーマ	内 容
1	ビジネスと法律のかかわり	ビジネスに関連する法律を知る
2	法律の基礎知識	法律の体系、分類
3	権利義務とは	権利義務の主体、意思能力・行為能力
4	会社のしくみ	会社の種類、会社の仕組み
5	ビジネスに関する法律①	契約とは、売買契約
6	ビジネスに関する法律②	手形と小切手、契約書
7	債権の管理と回収①	通常 of 債権の管理、債権の担保
8	債権の管理と回収②	緊急時の債権の回収
9	企業活動に関する法規制①	独占禁止法、大店立地法
10	企業活動に関する法規制②	消費者契約法、製造物責任法
11	従業員と雇用	労働基準法、男女雇用機会均等法
12	家族と相続	家族関係、相続
13	全体のまとめ①	民法および商法に関するまとめ
14	全体のまとめ②	経済法および労働関係法規に関するまとめ
15	総括・達成度の確認	今までの授業についての総括および学習達成度の確認テストを実施する (「ビジネス実務法務3級試験」の受験)

【使用教材】

- ◇教科書：東京商工会議所編『2016年版ビジネス実務法務3級公式テキスト』
中央経済社発行（2,800円本体価格）
教科書は各自、書店等で購入のこと。

【履修条件等】

- ◇原則として、東京商工会議所の「ビジネス実務法務3級」の試験を受験すること。

【予習をすべき事前学習の内容】

- ◇該当テキストを熟読すること。

【その他の注意事項】

- ◇コミュニケーションアワーに実施（16:30～18:00）。

（日程予定）

4月：11日(月)、12日(火)、13日(水)、18日(月)、19日(火)
27日(水)

5月：9日(月)、10日(火)、16日(月)、17(火)、23日(月)
24日(火)、30日(月)、31日(火)

＋ビジネス実務法務3級試験日（予定：7月の第1週の日曜日）

販売技術	ヒノ タカオ 日野 隆生
Sales Techniques	応用科目／集中／2単位

【授業概要】

社会ではスペシャリストが要求されており、当科目は公的資格「販売士3級（日本商工会議所主管、経産省後援）の全員資格取得を目標とし、併せて教養人として社会に通じる人格形成にも資していく科目です。今や、第3次産業就業者は、全就業者の3分の2を占めます。販売業務は究極の“人”を必要とする業種であり、2次・3次産業を問わず、販売スキルは社会人には欠くことのできない資質です。講義は、テキストプラス適宜資料を配付して、理論と実務のスキルが身につくように、資格取得を確実にするために、試験直前には模擬テストも繰り返すなど試験対策も実施。社会・企業で尊重される人材育成を目指します。

【学習の到達目標と評価基準】

学習・教育目標	評価方法および評価基準	評価の配分
消費動向と関連づけ 流通を理解し、その因果関係を説明できる	現在の流通の仕組みや経営とは何かを理解し、消費動向やその背景対応する流通業の存在価値や意義、施策、システムなどを関連づけて説明できるようになる。	40%
“販売”の基礎を体系的に理解し、業務を理論的に実践できるスキルを得る	テキストは5科目あり、それらを通じ、その意味するところを十分理解して、資格試験の免除条件となる1科目「販売管理」の予備試験に合格し、他4科目の概要の理解と実践に役立てるまでのスキルを涵養する。	40%
販売士資格を理解し、その有用性を語る事ができる	公的資格「販売士」の趣旨と意義を理解し、3級の位置づけを説明でき、社会での有用性を第三者に説得できる。	20%
販売士3級資格を取得する	単位取得は勿論、講義の反復復習により、2月の日本商工会議所の資格試験に自信を持って望み、資格を取得する。	
評価の方法 80%以上の出席を前提として、出席態度で20%、試験80%の評価。		

【授業計画】

回	テーマ・内容	回	テーマ・内容
1	「小売業の種類」小売業の基本的役割	10	仕入計画・在庫管理・販売管理の基本的役割
2	形態別小売業の基本的役割	11	価格設定・利益追求の基本知識
3	チェーンストアの基本的役割	12	「ストアオペレーション」の基本的役割
4	商業集積の基本的役割と仕組み	13	ディスプレイの基本的役割
5	「販売・経営管理」販売員の基本業務	14	作業割当・人的販売の基本的考え方
6	販売員の法令知識	15	「マーケティング」の基本的考え方
7	販売事務と計数管理の基本知識	16	顧客管理・販売促進の基本的役割
8	売場の人間関係・店舗管理の基本的役割	17	商圏の設定と出店の基本的考え方
9	「マーチャンダイジング」商品の基本知識	18	売場づくりの基本的考え方

【使用教材】

◇テキスト：テキスト『販売士3級テキスト』日本商工会議所編

【履修条件等】

◇販売士検定3級合格のために授業の予習・復習が必須。

◇出席率80%以上

【予習をすべき事前学習の内容】

◇テキストを通読し、キーワードをチェックする。

◇各自「問題集」により、検定合格対策する。

【その他の注意事項】

◇6月1日（水）開講～12月7日（水）全18回

◇期間内に「予備試験（販売・経営管理）」、および「検定模擬試験」を実施する。



東京富士大学

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1

アドミッションセンター TEL 03-3368-0351

キャリア・学生支援センター

キャリア支援担当 TEL 03-3362-8479

学生支援担当 TEL 03-3362-2252

留学生担当 TEL 03-3368-1761

学 務 セ ン タ ー

学務センター TEL 03-3368-2154

図書館 TEL 03-3368-8826